

---

第10期柏市高齢者いきいきプラン21策定に関する  
在宅介護実態調査  
集計結果報告書

---

令和7年12月

柏市



## <目 次>

<b>第1章 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査の目的 .....	2
2. 調査実施の概要 .....	2
3. 調査結果の表示方法 .....	2
<b>第2章 単純集計報告</b> .....	<b>5</b>
1. 基本調査項目（A票） .....	6
(1) 世帯類型 .....	6
(2) 家族等による介護の頻度 .....	6
(3) 主な介護者の本人との関係 .....	7
(4) 主な介護者の性別 .....	7
(5) 主な介護者の年齢 .....	8
(6) 主な介護者が行っている介護 .....	8
(7) 介護のための離職の有無 .....	9
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況 .....	9
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス .....	10
(10) 施設等検討の状況 .....	10
(11) 本人が抱えている傷病 .....	11
(12) 訪問診療の利用の有無 .....	12
(13) 介護保険サービスの利用の有無 .....	12
(14) 介護保険サービス未利用の理由 .....	13
(15) 認知症カフェの利用意向の有無 .....	13
(16) 認知症カフェの利用意向無し理由 .....	14
(17) 本人の幸福度 .....	14
(18) 本人の生活への満足度 .....	15
2. 主な介護者様用の調査項目（B票） .....	16
(1) 主な介護者の勤務形態 .....	16
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況 .....	16
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援 .....	17
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識 .....	17
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護 .....	18
(6) 主な介護者の認知症カフェの利用意向の有無 .....	18
(7) 主な介護者の認知症カフェの利用意向無し理由 .....	19
(8) 主な介護者の幸福度 .....	19
(9) 主な介護者の生活への満足度 .....	20
3. 介護認定データ .....	21
(1) 年齢 .....	21
(2) 性別 .....	21
(3) 二次判定結果（要介護度） .....	22
(4) サービス利用の組み合わせ .....	22
(5) 訪問系サービスの合計利用回数 .....	23
(6) 通所系サービスの合計利用回数 .....	23
(7) 短期系サービスの合計利用回数 .....	24
(8) 障害高齢者の日常生活自立度 .....	24
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度 .....	25
<b>第3章 介護保険事業計画の策定に向けた検討</b> .....	<b>27</b>

1. 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	28
1. 1 集計・分析の狙い	28
1. 2 結果と着目すべきポイント	28
(1) 基礎集計	28
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化	30
(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化	33
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係	38
(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	42
(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係	45
(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	49
2. 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	56
2. 1 集計・分析の狙い	56
2. 2 集計結果と着目すべきポイント	56
(1) 基本集計	56
(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み	60
(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係	64
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係	68
(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況	70
(6) 労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援	74
3. 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	79
3. 1 集計・分析の狙い	79
3. 2 集計結果と着目すべきポイント	79
(1) 基礎集計	79
(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス	81
(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」	84
(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」	88
4. 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	92
4. 1 集計・分析の狙い	92
4. 2 集計結果と着目すべきポイント	92
(1) 基礎集計	92
(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」	94
(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」	97
(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」	101
5. 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	105
5. 1 集計・分析の狙い	105
5. 2 集計結果と着目すべきポイント	105
(1) 礎集計	105
(2) 訪問診療の利用割合	108
(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ	110
(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無	111
6. サービス未利用の理由など	113
6. 1 集計・分析の狙い	113
6. 2 集計結果（参考）	114
(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	114
(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	118
(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス	122
(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢	126
(5) 要介護度別の抱えている傷病	127
(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病	128

<b>第4章 調査結果の概要</b> .....	<b>129</b>
1. 検討テーマと集計・分析の狙い .....	130
2. まとめ .....	131
(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討 .....	131
(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討 .....	132
(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討 .....	133
(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討 .....	133
(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討 .....	134
<b>巻末資料 調査票</b> .....	<b>135</b>



## 第 1 章 調査の概要

## 第1章 調査の概要

### 1. 調査の目的

本調査は、令和8年度に策定予定の第10期柏市高齢者いきいきプラン21に向けて、柏市における在宅介護の課題を整理・把握することを目的として実施しました。

調査名	調査目的
在宅介護実態調査	要介護者の在宅生活の状況、介護者の就労状況と介護の実態を把握することを目的として実施

### 2. 調査実施の概要

対象	要介護認定を受けている市民（施設入所者除く）
調査方法	郵送配布／郵送回答
調査期間	令和7年9月12日～令和7年10月14日（約4週間）
配布数	1,566件
回答数	914件
郵送回答	914件
回答率（前回回答率）	58.4%（57.7%）

### 3. 調査結果の表示方法

- 図表中の「n」は各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（%）の母数をあらわしています。
- 回答率は小数点第2位を四捨五入して掲載しているため、合計が100%にならないことがあります。また、回答者が2つ以上回答することができる質問（複数回答）の場合、その回答率の合計は100%を超えることがあります。
- 無回答のもの、単一回答の設問において複数回答したもの、選択の判別がつかないものについてはいずれも「無回答」として集計しています。
- 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合があります。
- 前回調査とは、第9期柏市高齢者いきいきプラン21策定のための基礎調査報告書（令和5年3月・柏市）のことを指します。

#### サービス利用の回数・組み合わせ等に着目した集計・分析に係る用語の定義

- 本集計・分析では、介護保険サービスの利用回数・利用の組み合わせ等に着目した集計・分析を行うため、介護保険サービスを大きく、「訪問系」「通所系」「短期系」の3つに分類して集計しています。なお、介護保険サービスの中には介護予防・日常生活支援総合事業を通じて提供される「介護予防・生活支援サービス」も含まれます。  
それぞれ、用語の定義は次の通りです。

## 【サービス利用の分析に用いた用語の定義】

用語		定義
未利用		・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計
訪問系		・訪問介護・訪問型サービス、(介護予防)訪問入浴介護、(介護予防)訪問看護、(介護予防)訪問リハビリテーション、(介護予防)居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計
通所系		・通所介護・通所型サービス、(介護予防)通所リハビリテーション、(介護予防)認知症対応型通所介護を「通所系」として集計
短期系		・(介護予防)短期入所生活介護、(介護予防)短期入所療養介護を「短期系」として集計
その他	小規模多機能	・(介護予防)小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計

## 【サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義】

用語		定義
未利用		・上表に同じ
訪問系のみ		・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計しています。
訪問系を含む組み合わせ		・上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」+「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」+「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」+「通所系」+「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計しています。
通所系・短期系のみ		・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」+「短期系」の利用を集計しています。

## 施設等検討の状況に係る用語の定義

- 本集計では、施設等検討の状況について、「入所・入居は検討していない(検討していない)」「入所・入居を検討している(検討中)」「すでに入所・入居申し込みをしている(申請済み)」の3つに分類して集計しています。

## その他

- 図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。



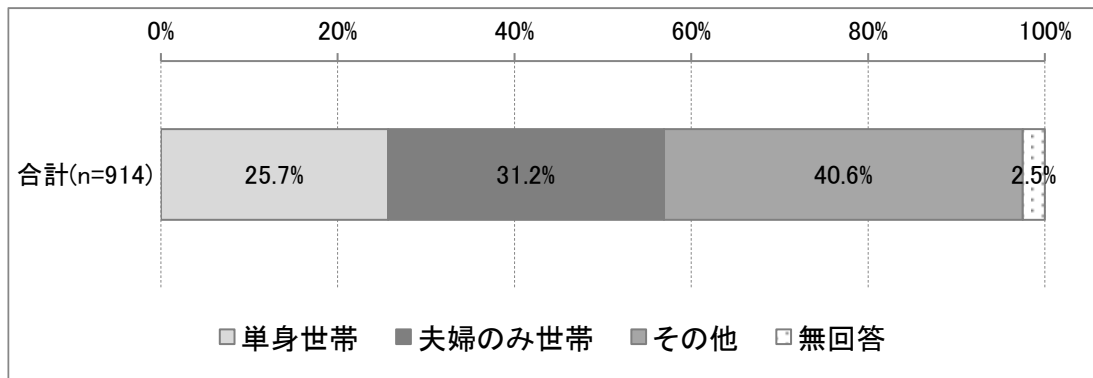
## 第2章 単純集計報告

## 1. 基本調査項目（A票）

### （1）世帯類型

「その他」の割合が最も高く40.6%となっています。次いで、「夫婦のみ世帯（31.2%）」、「単身世帯（25.7%）」となっています。

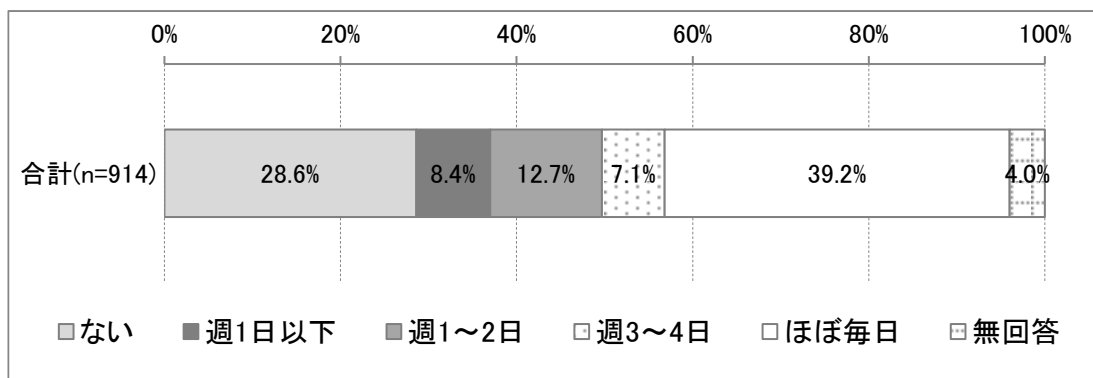
図表1-1 世帯類型（単数回答）



### （2）家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く39.2%となっています。次いで、「ない（28.6%）」、「週1～2日（12.7%）」となっています。

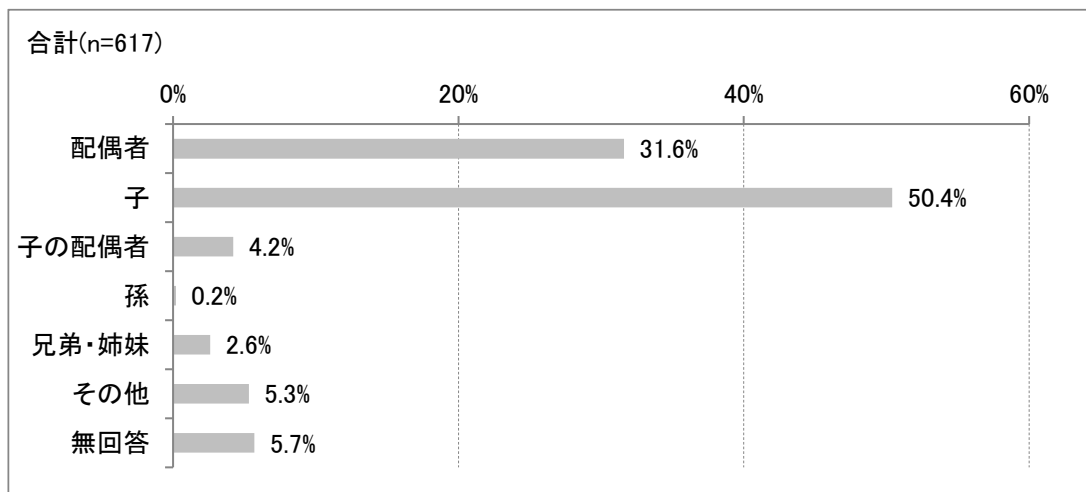
図表1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



### (3) 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く50.4%となっています。次いで、「配偶者(31.6%)」、「その他(5.3%)」となっています。

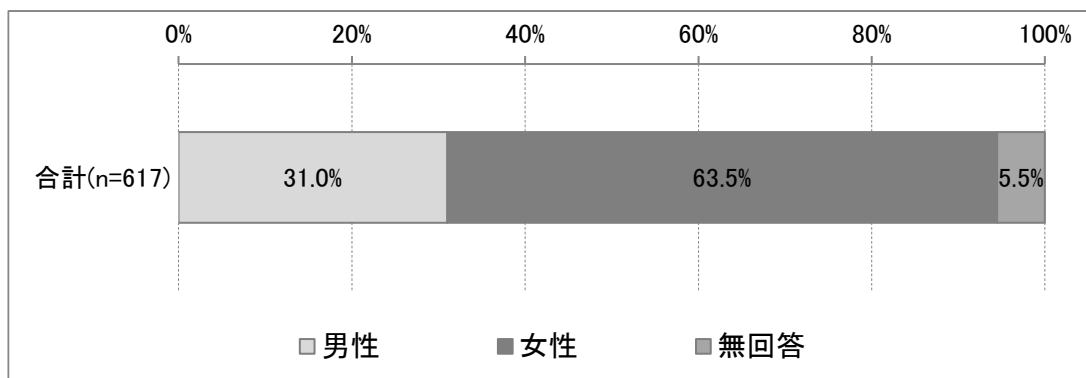
図表1-3 ★主な介護者の本人との関係（単数回答）



### (4) 主な介護者の性別

「女性」の割合が最も高く63.5%となっています。次いで、「男性(31.0%)」となっています。

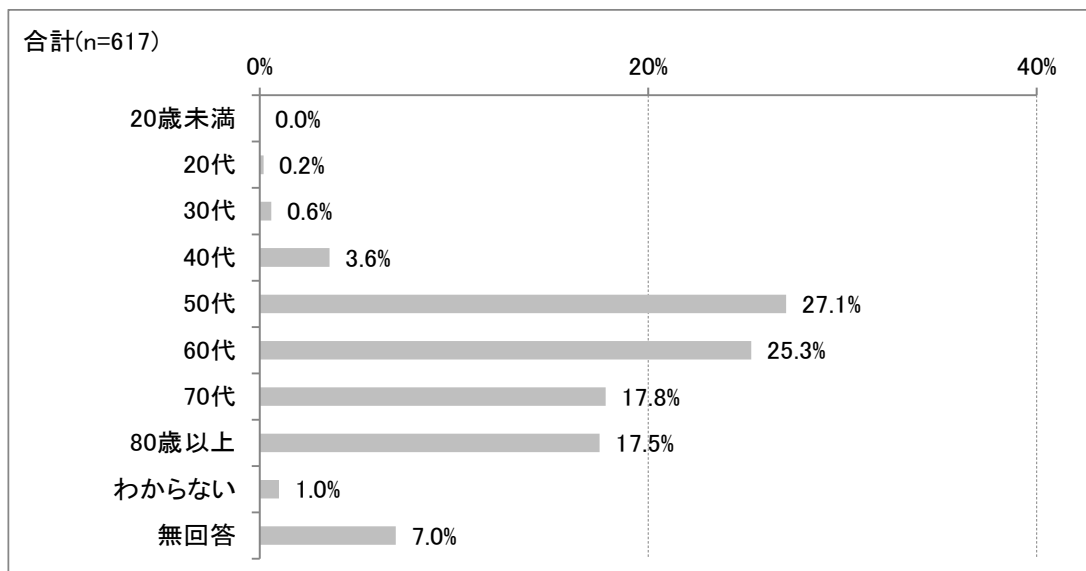
図表1-4 ★主な介護者の性別（単数回答）



(5) 主な介護者の年齢

「50代」の割合が最も高く27.1%となっています。次いで、「60代(25.3%)」、「70代(17.8%)」となっています。

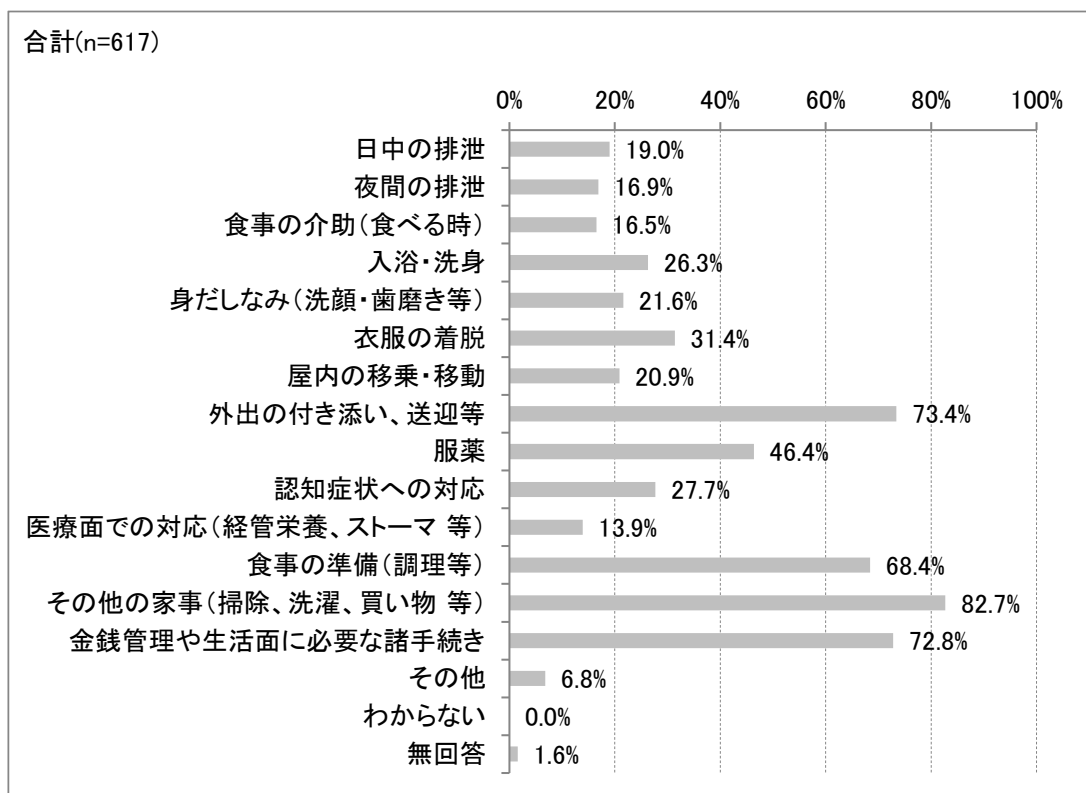
図表1-5 主な介護者の年齢 (単数回答)



(6) 主な介護者が行っている介護

「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」の割合が最も高く82.7%となっています。次いで、「外出の付き添い、送迎等(73.4%)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き(72.8%)」となっています。

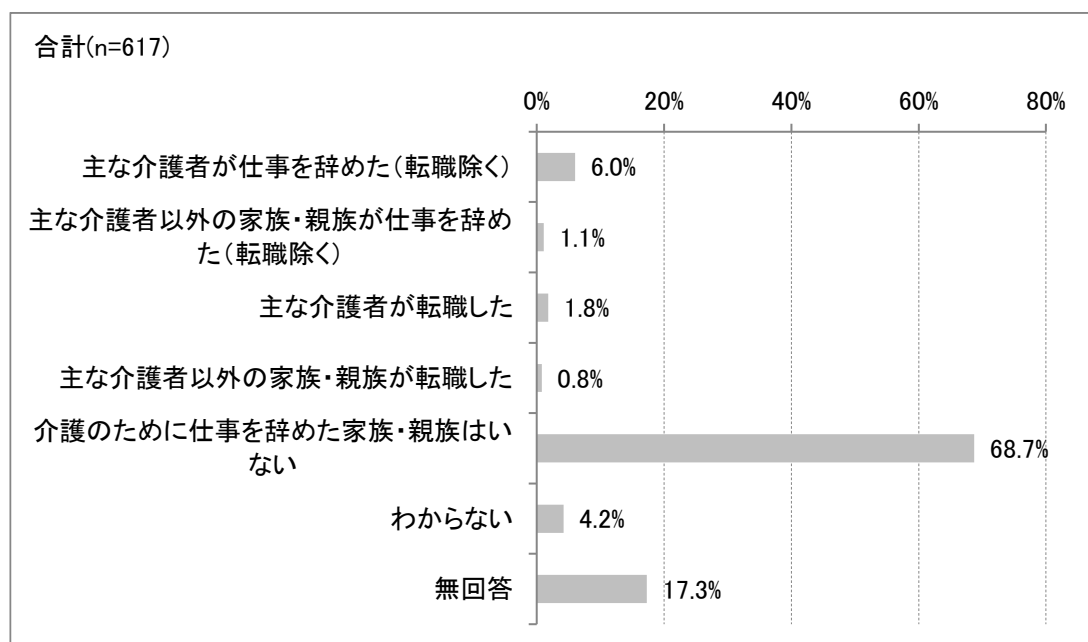
図表1-6 ★主な介護者が行っている介護 (複数回答)



### (7) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く68.7%となっています。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)(6.0%)」、「わからない(4.2%)」となっています。

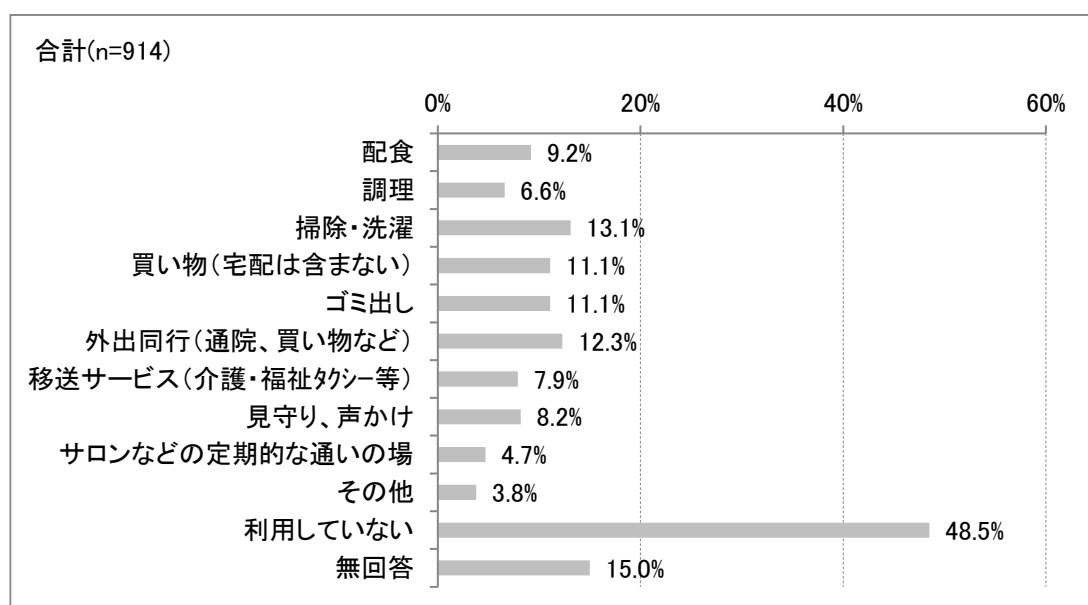
図表1-7 介護のための離職の有無(複数回答)



### (8) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く48.5%となっています。次いで、「掃除・洗濯(13.1%)」、「外出同行(通院、買い物など)(12.3%)」となっています。

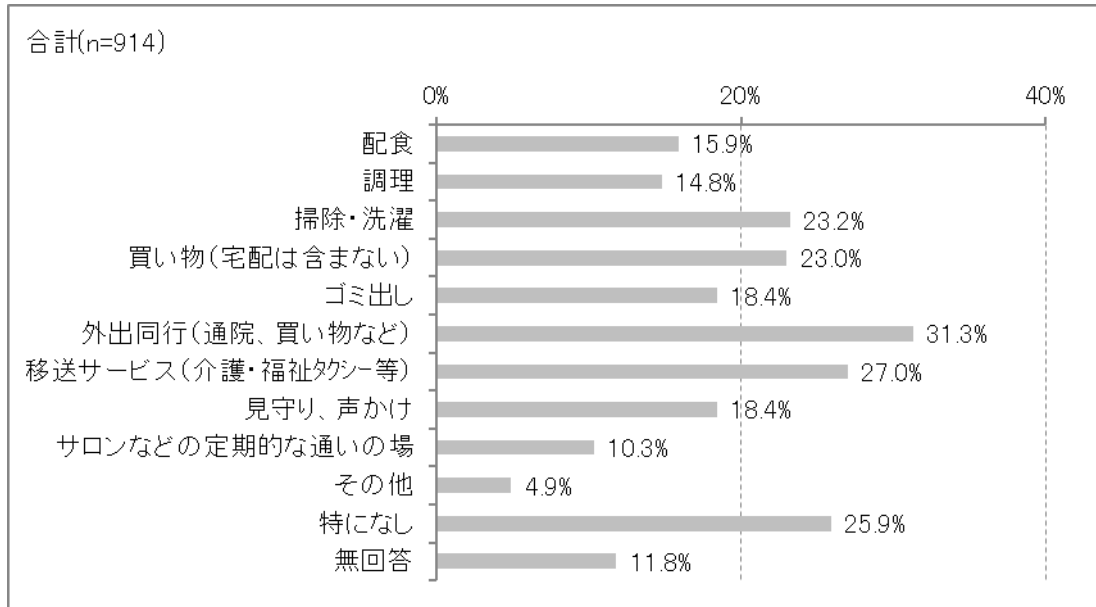
図表1-8 ★保険外の支援・サービスの利用状況(複数回答)



(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「外出同行（通院、買い物など）」の割合が最も高く31.3%となっています。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（27.0%）」、「特になし（25.9%）」となっています。

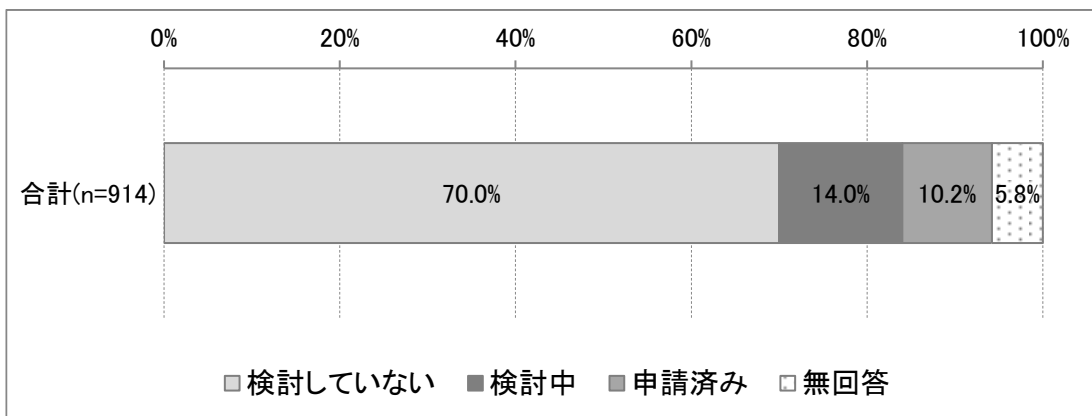
図表1-9 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



(10) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く70.0%となっています。次いで、「検討中（14.0%）」、「申請済み（10.2%）」となっています。

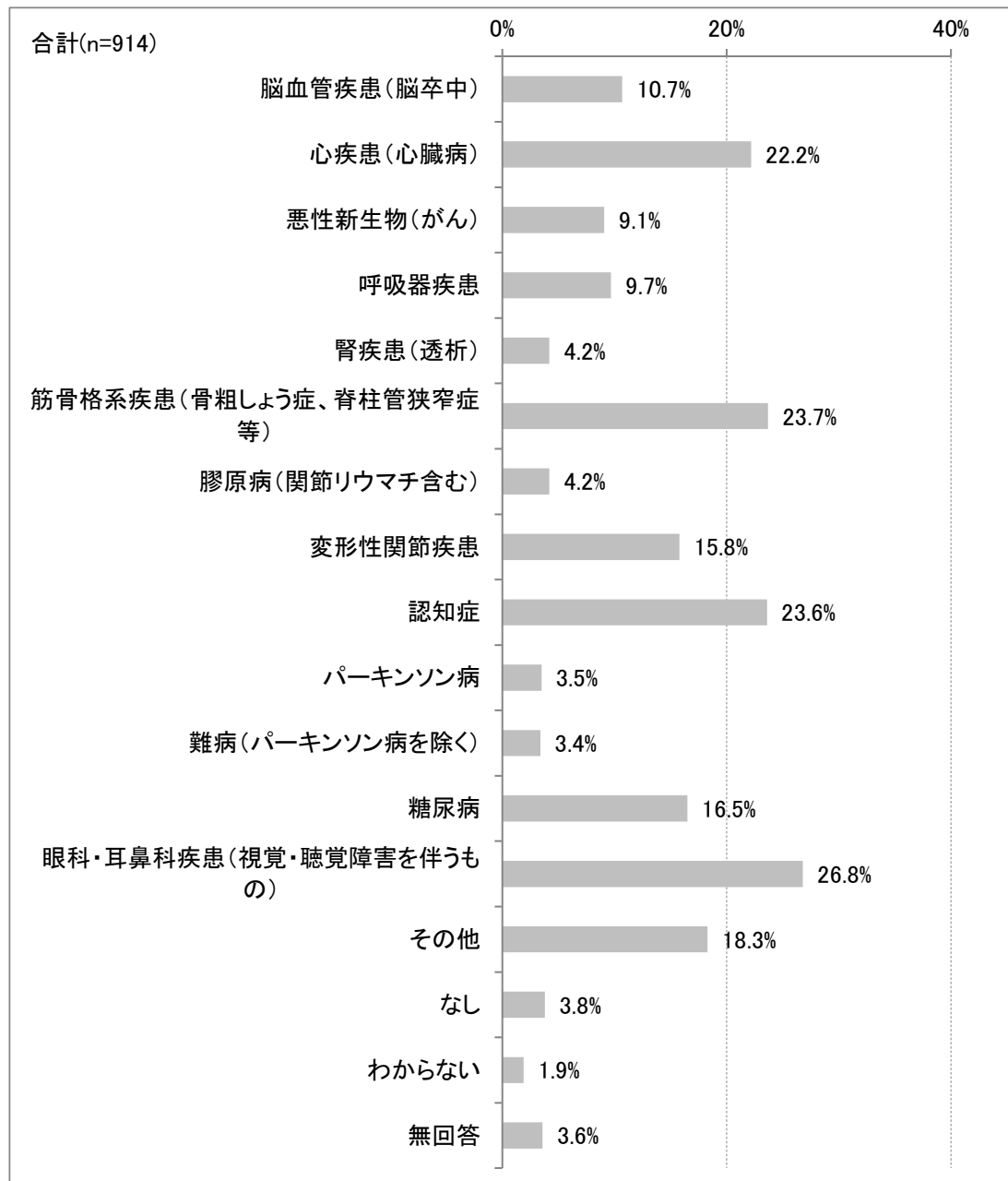
図表1-10 施設等検討の状況（単数回答）



## (11) 本人が抱えている傷病

「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」の割合が最も高く26.8%となっています。次いで、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）（23.7%）」、「認知症（23.6%）」となっています。

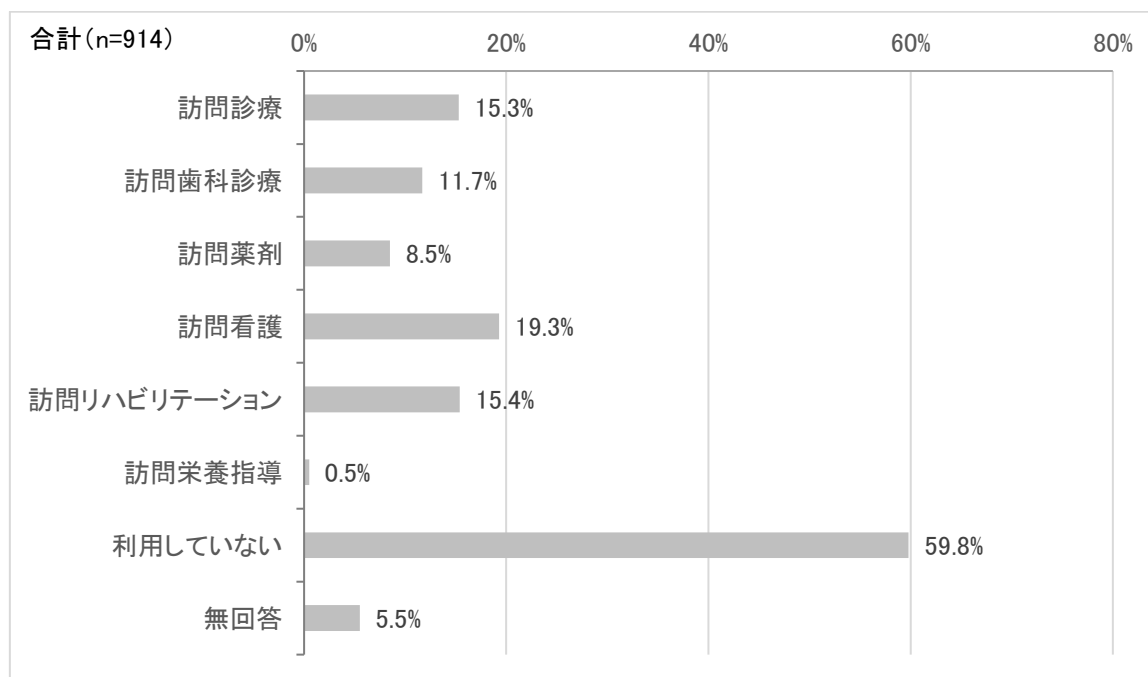
図表1-11 ★本人が抱えている傷病（複数回答）



(12) 訪問診療の利用の有無

「利用していない」の割合が最も高く59.8%となっています。次いで、「訪問看護(19.3%)」となっています。

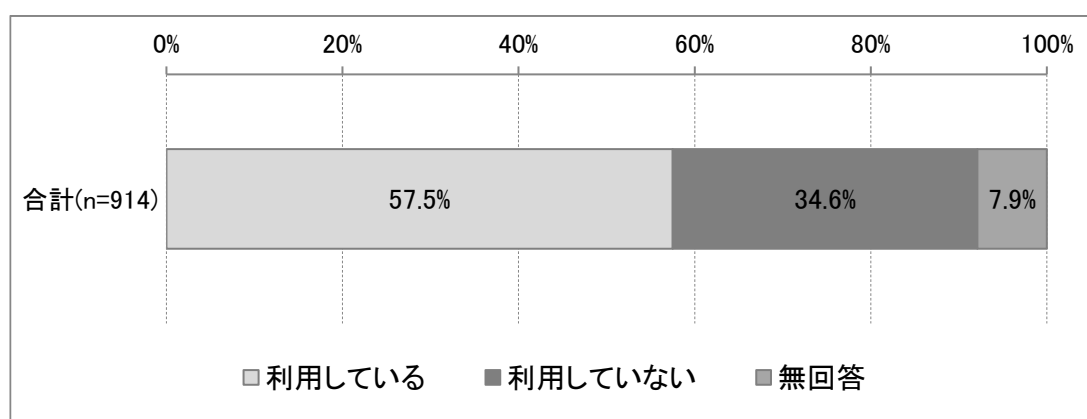
図表1-12 ★訪問診療の利用の有無（単数回答）



(13) 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」の割合が最も高く57.5%となっています。次いで、「利用していない(34.6%)」となっています。

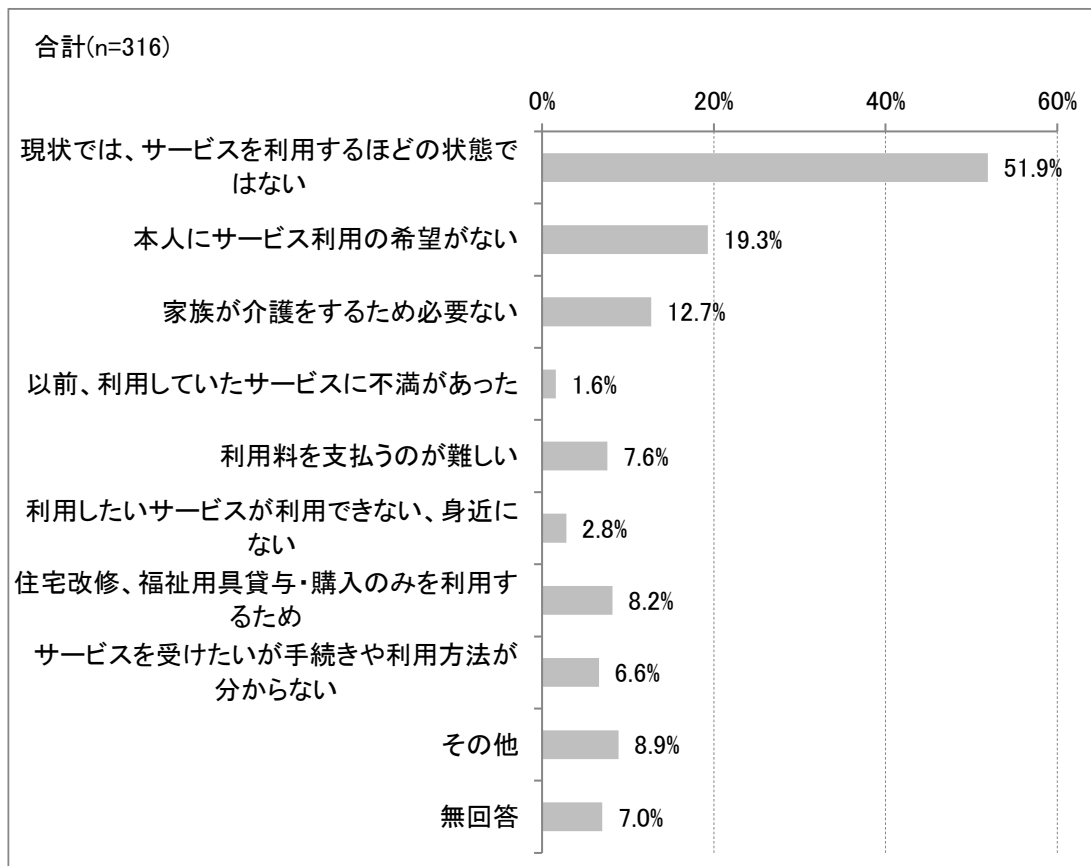
図表1-13 ★介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



### (14) 介護保険サービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く51.9%となっています。次いで、「本人にサービス利用の希望がない(19.3%)」、「家族が介護をするため必要ない(12.7%)」となっています。

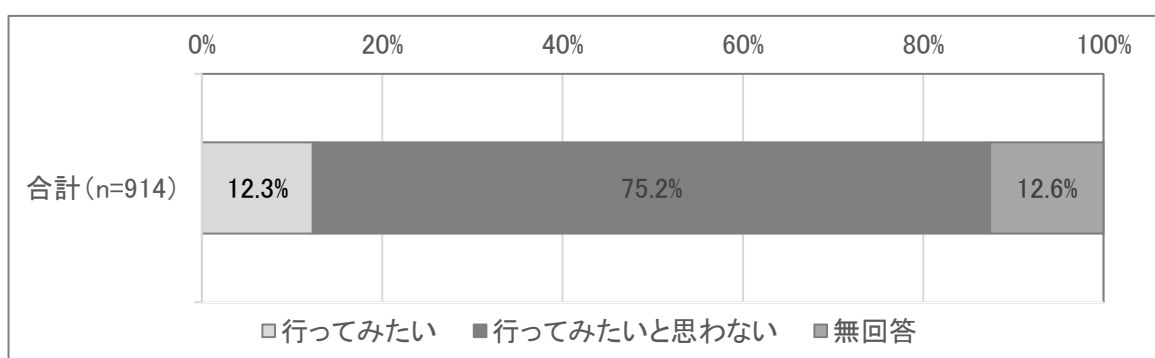
図表1-14 ★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）



### (15) 認知症カフェの利用意向の有無

「行ってみたいと思わない」の割合が最も高く75.2%となっています。次いで、「行ってみたい(12.3%)」となっています。

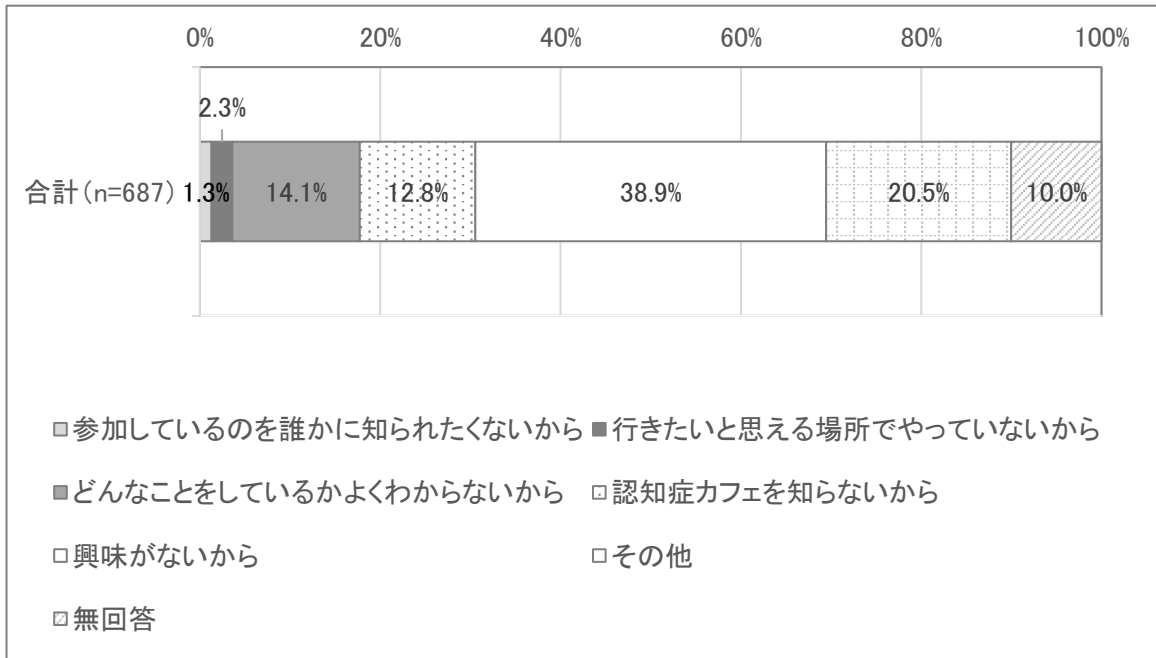
図表1-15 認知症カフェの利用意向の有無（単数回答）



(16) 認知症カフェの利用意向無しの理由

「興味がないから」の割合が最も高く38.9%となっています。次いで、「その他(20.5%)」となっています。

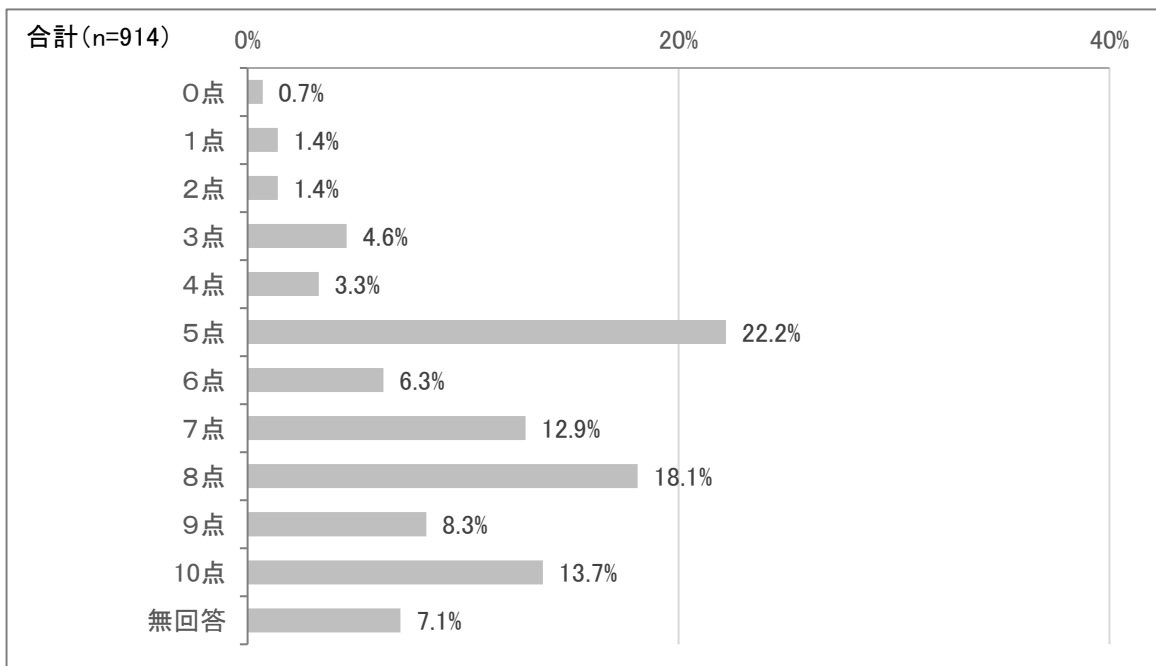
図表1-16 認知症カフェの利用意向無しの理由 (単数回答)



(17) 本人の幸福度

「5点」の割合が最も高く22.2%となっています。次いで、「8点(18.1%)」となっています。“幸福感のある人(8点~10点)”は40.1%となっています。

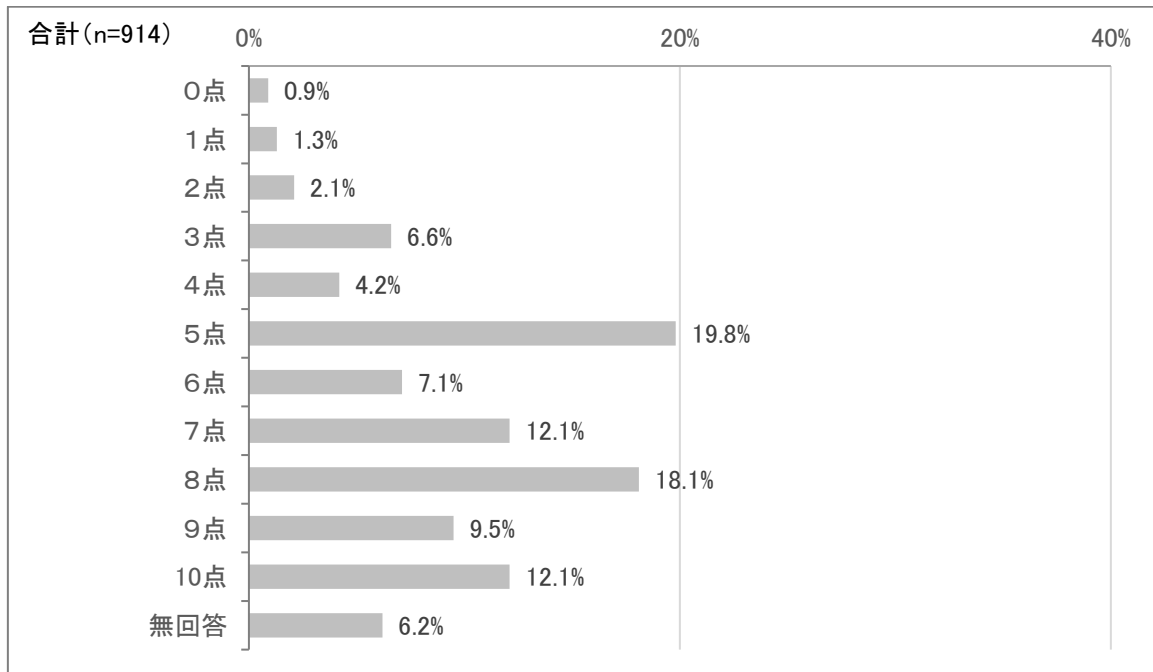
図表1-17 本人の幸福度 (単数回答)



## (18) 本人の生活への満足度

「5点」の割合が最も高く19.8%となっています。次いで、「8点(18.1%)」となっています。“生活に満足している人(8点~10点)”は39.7%となっています。

図表1-18 本人の生活への満足度（単数回答）

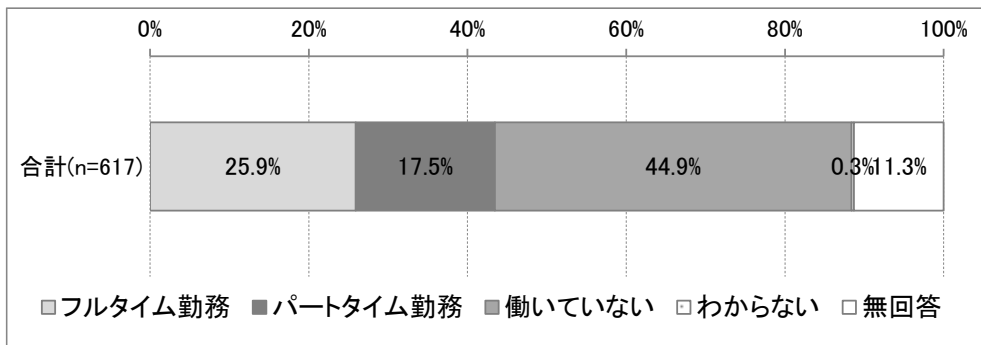


## 2. 主な介護者様用の調査項目（B票）

### （1）主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く44.9%となっています。次いで、「フルタイム勤務（25.9%）」、「パートタイム勤務（17.5%）」となっています。

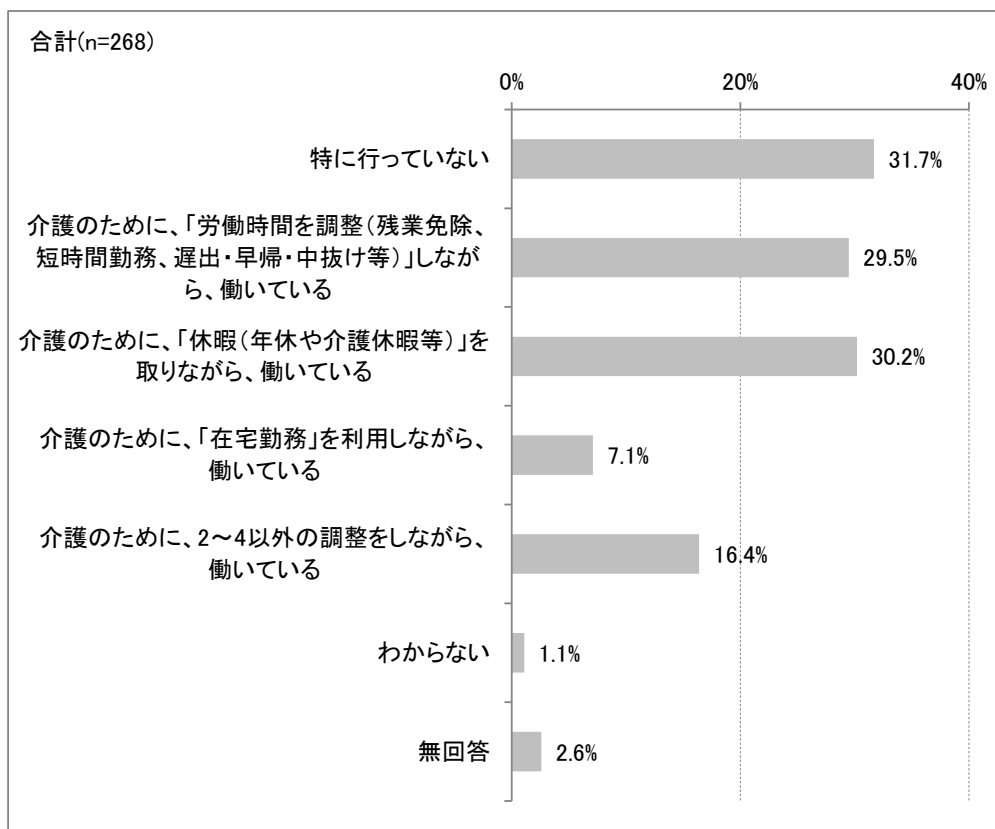
図表2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



### （2）主な介護者の方の働き方の調整の状況

「特に行っていない」の割合が最も高く31.7%となっています。次いで、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている（30.2%）」、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている（29.5%）」となっています。

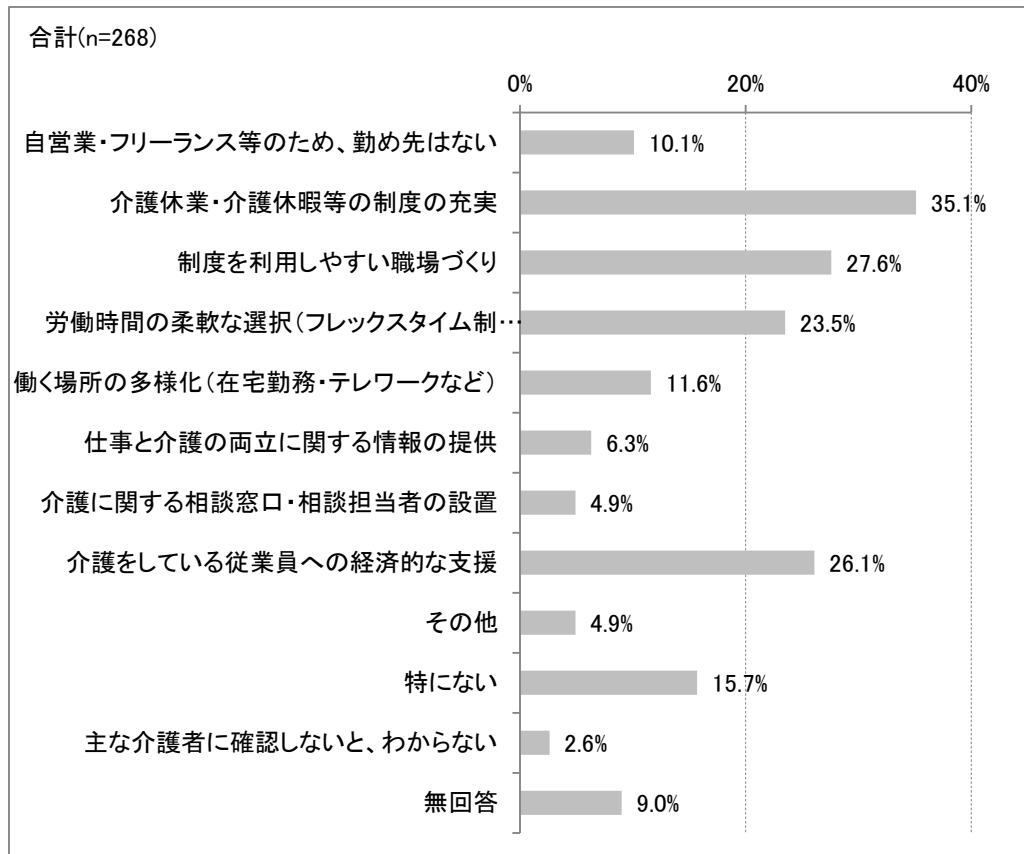
図表2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



### (3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が最も高く35.1%となっています。次いで、「制度を利用しやすい職場づくり(27.6%)」、「介護をしている従業員への経済的な支援(26.1%)」となっています。

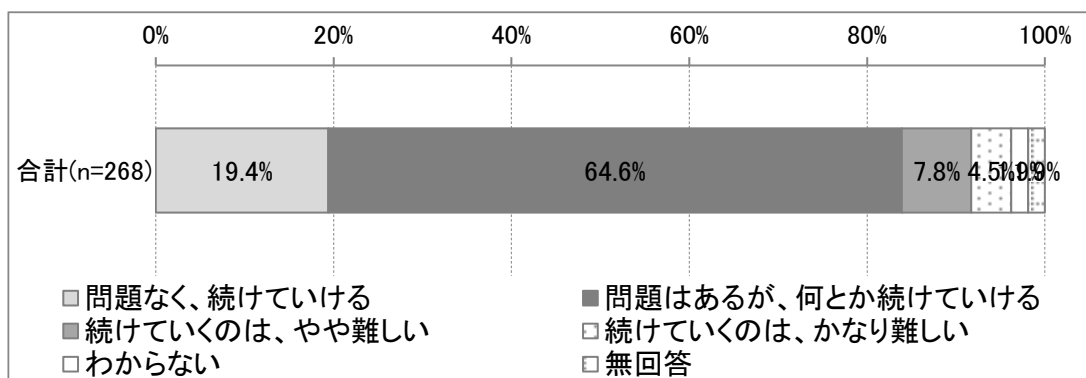
図表2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



### (4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く64.6%となっています。次いで、「問題なく、続けていける(19.4%)」、「続けていくのは、やや難しい(7.8%)」となっています。

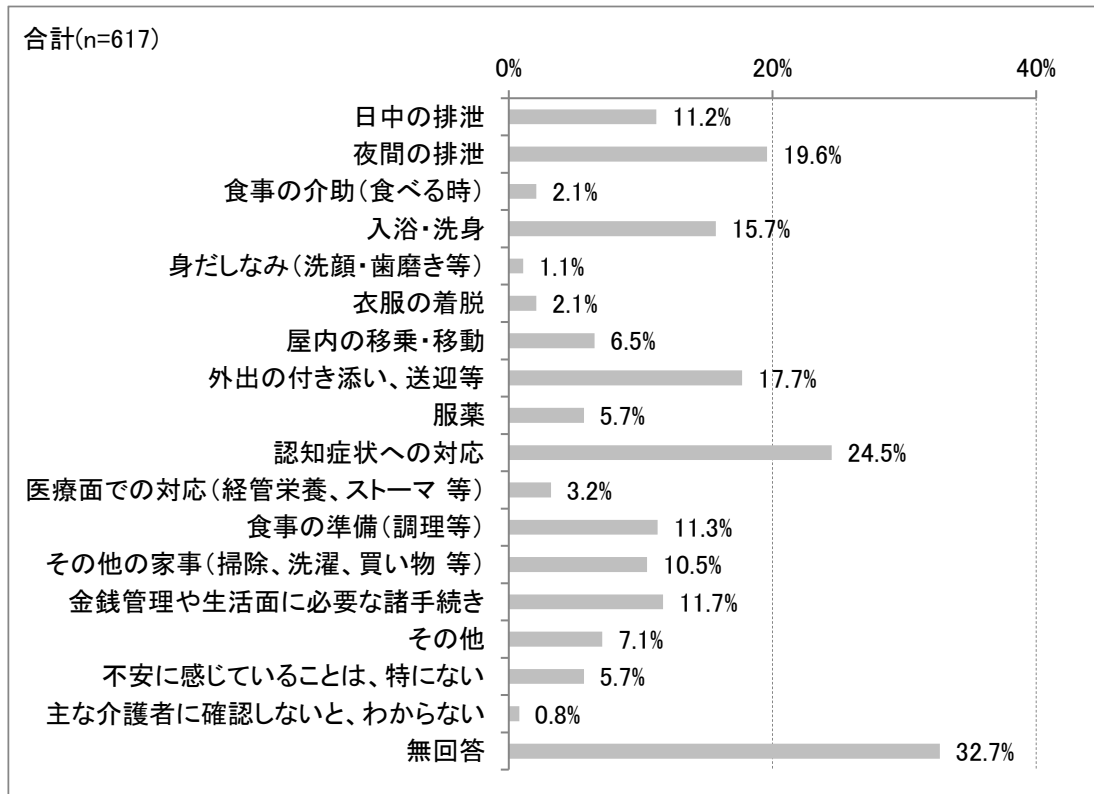
図表2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「認知症状への対応」の割合が最も高く24.5%となっています。次いで、「夜間の排泄(19.6%)」、「外出の付き添い、送迎等(17.7%)」となっています。

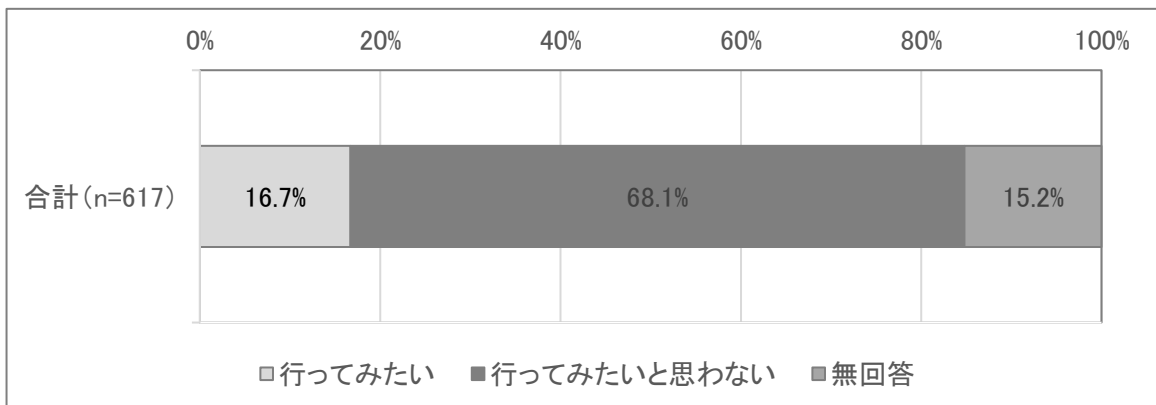
図表2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



(6) 主な介護者の認知症カフェの利用意向の有無

「行ってみたいと思わない」の割合が最も高く68.1%となっています。次いで、「行ってみたい(16.7%)」となっています。

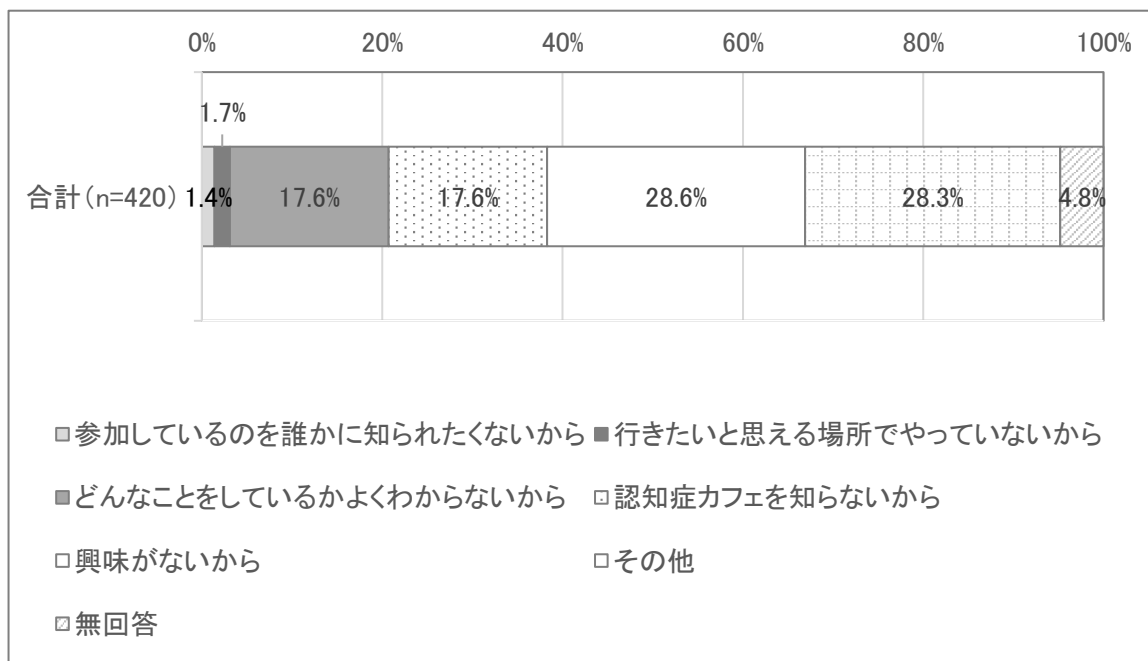
図表2-6 認知症カフェの利用意向の有無（単数回答）



### (7) 主な介護者の認知症カフェの利用意向無しの理由

「興味がないから」の割合が最も高く28.6%となっています。次いで、「その他(28.3%)」となっています。

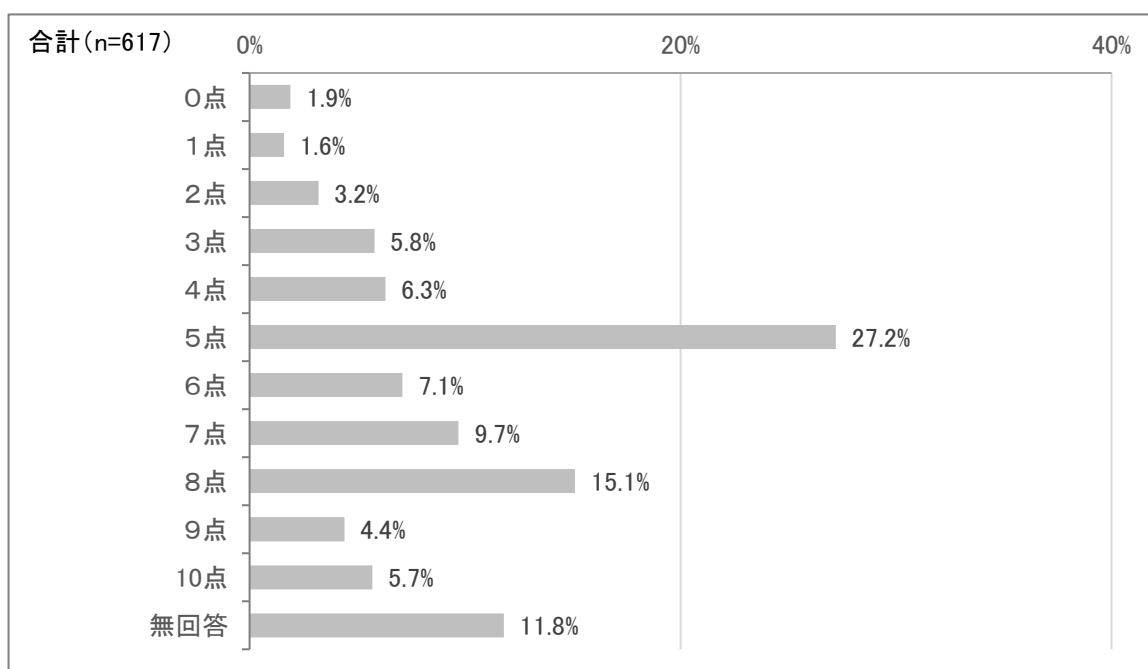
図表2-7 認知症カフェの利用意向無しの理由（単数回答）



### (8) 主な介護者の幸福度

「5点」の割合が最も高く27.2%となっています。次いで、「8点(15.1%)」となっています。“幸福感のある人(8点~10点)”は25.2%となっています。

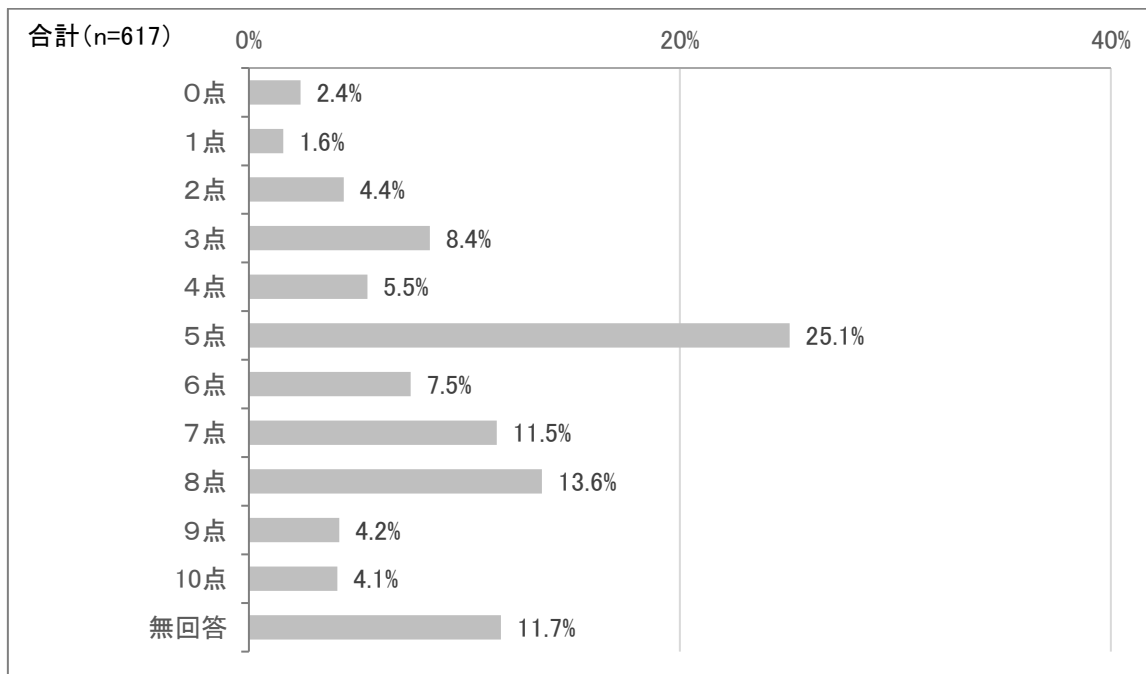
図表2-8 本人の幸福度（単数回答）



(9) 主な介護者の生活への満足度

「5点」の割合が最も高く25.1%となっています。次いで、「8点(13.6%)」となっています。“生活に満足している人(8点~10点)”は21.9%となっています。

図表2-9 本人の生活への満足度 (単数回答)

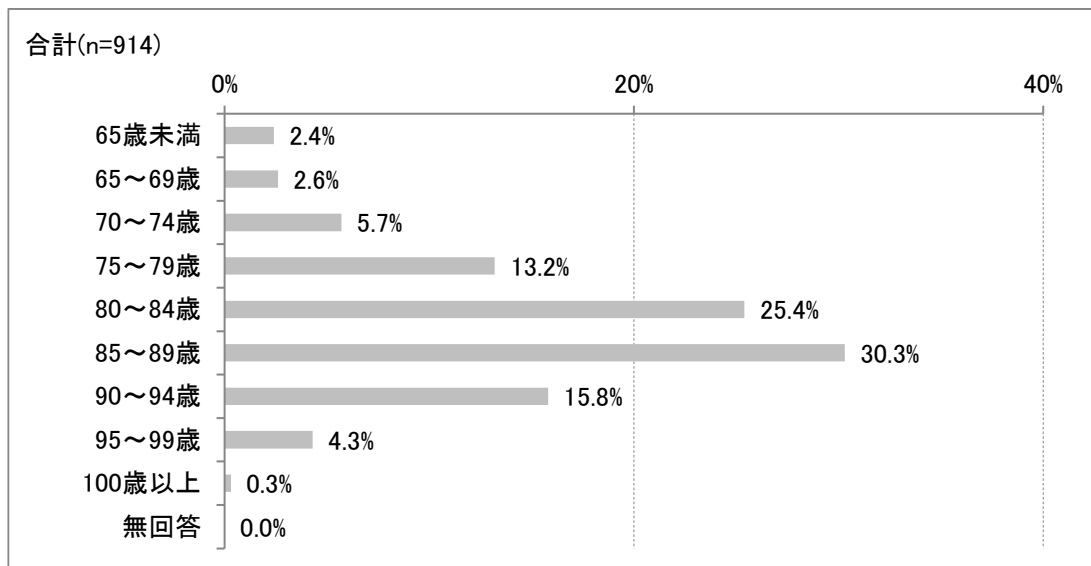


### 3. 介護認定データ

#### (1) 年齢

「85～89歳」の割合が最も高く30.3%となっています。次いで、「80～84歳(25.4%)」、「90～94歳(15.8%)」となっています。

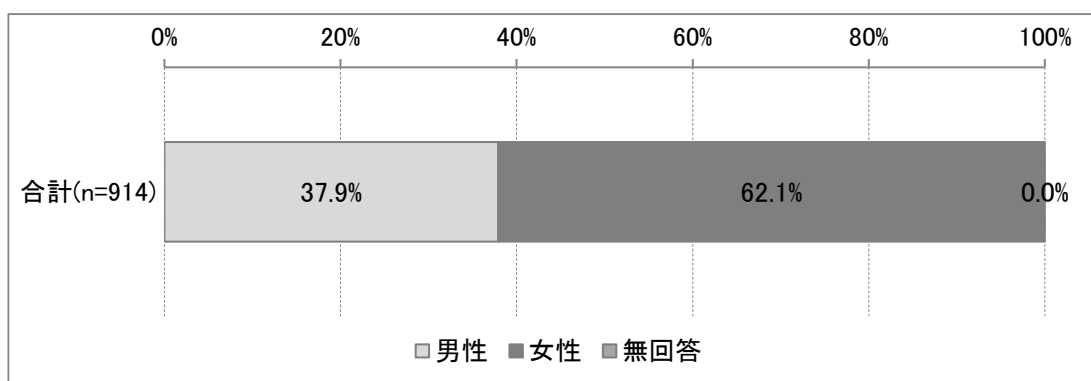
図表3-1 年齢



#### (2) 性別

「女性」の割合が最も高く62.1%となっています。次いで、「男性(37.9%)」となっています。

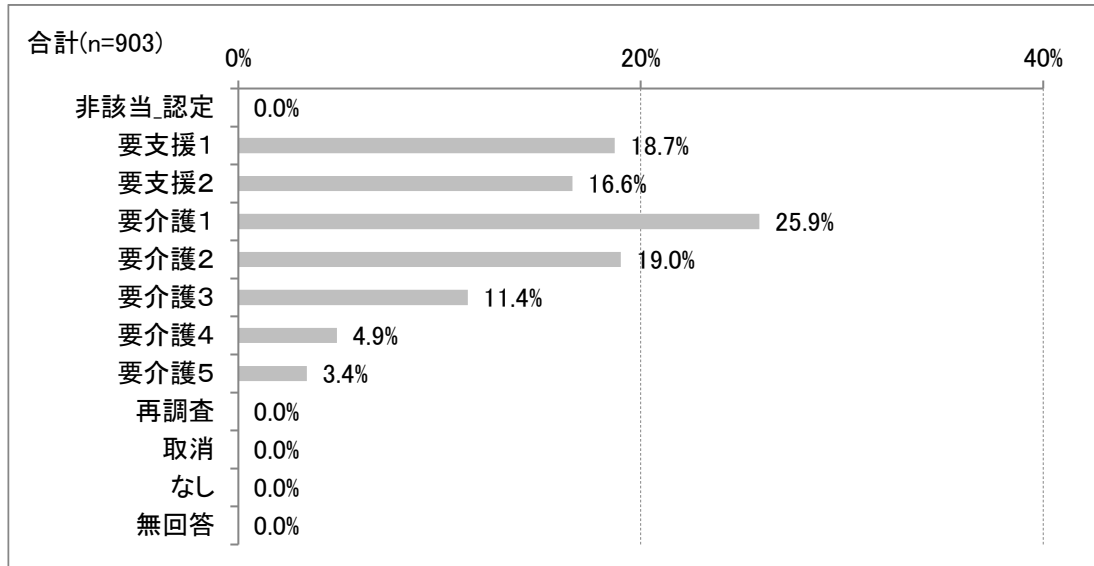
図表3-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

「要介護1」の割合が最も高く25.9%となっています。次いで、「要介護2（19.0%）」、「要支援1（18.7%）」となっています。

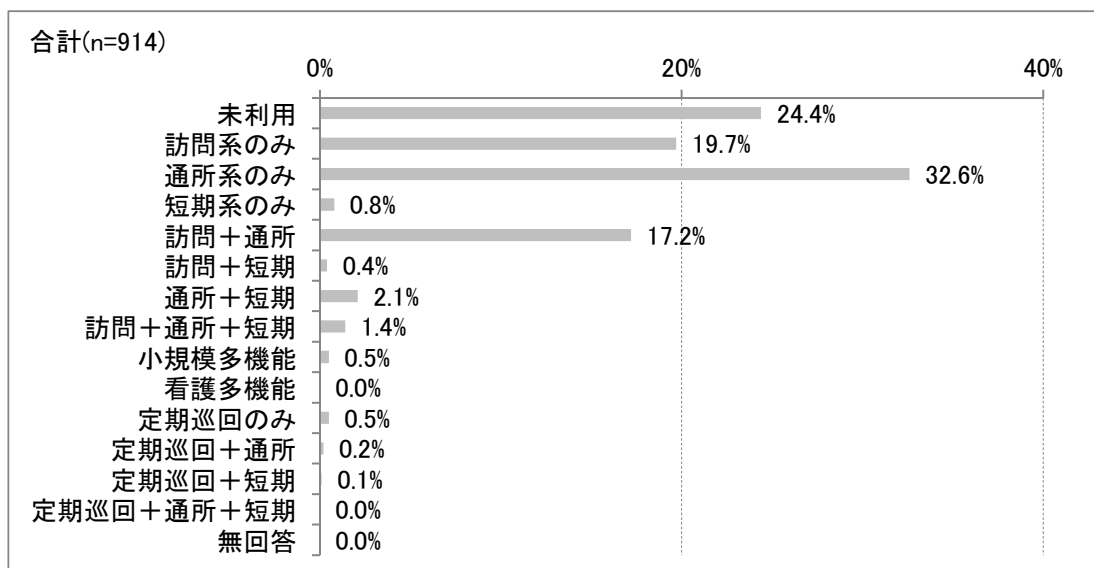
図表3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」の割合が最も高く32.6%となっています。次いで、「未利用（24.4%）」、「訪問系のみ（19.7%）」となっています。

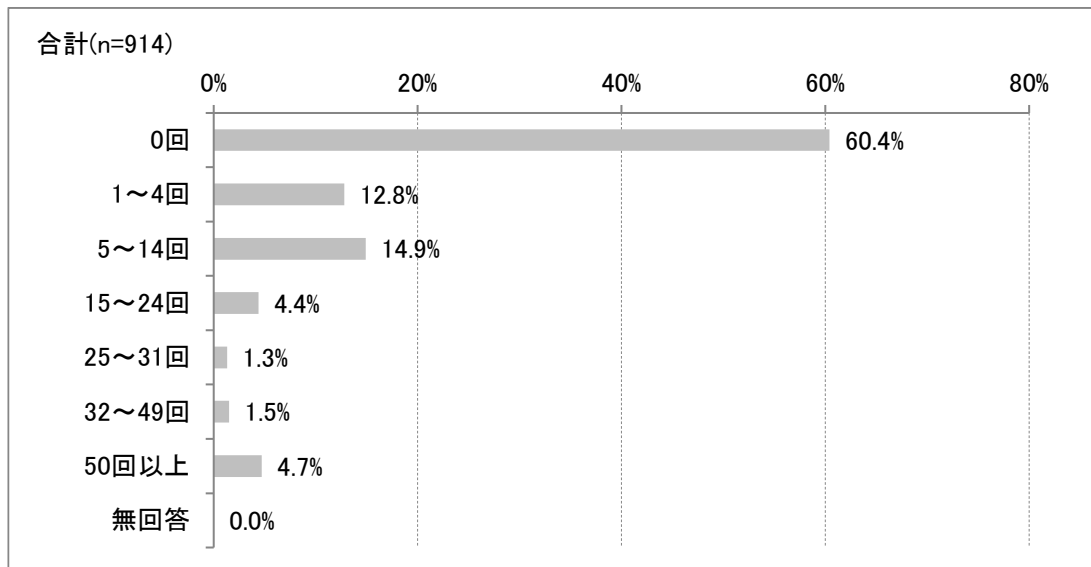
図表3-4 サービス利用の組み合わせ



### (5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く60.4%となっています。次いで、「5～14回(14.9%)」、「1～4回(12.8%)」となっています。

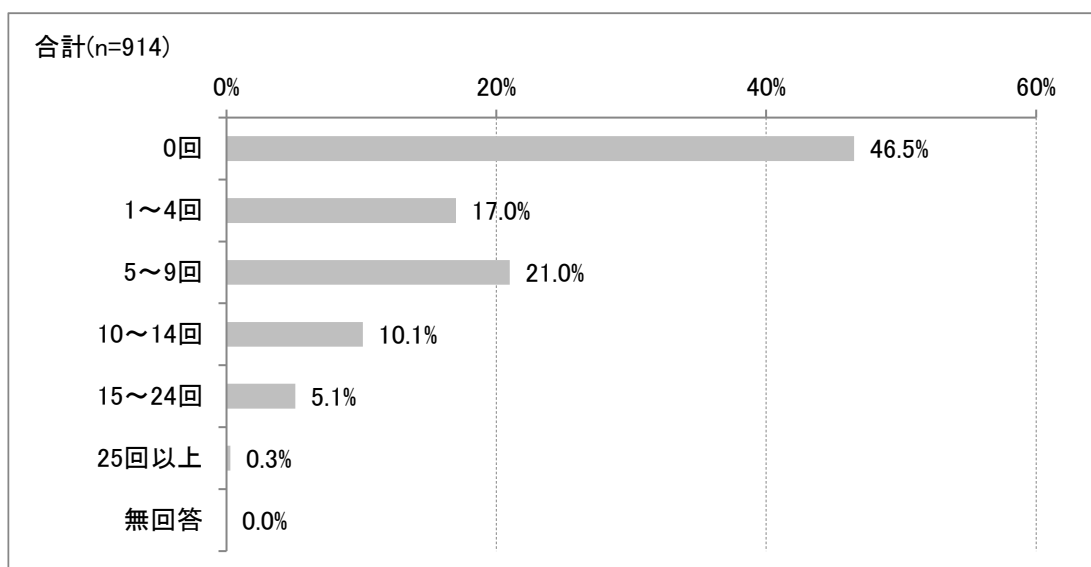
図表3-5 サービスの利用回数（訪問系）



### (6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く46.5%となっています。次いで、「5～9回(21.0%)」、「1～4回(17.0%)」となっています。

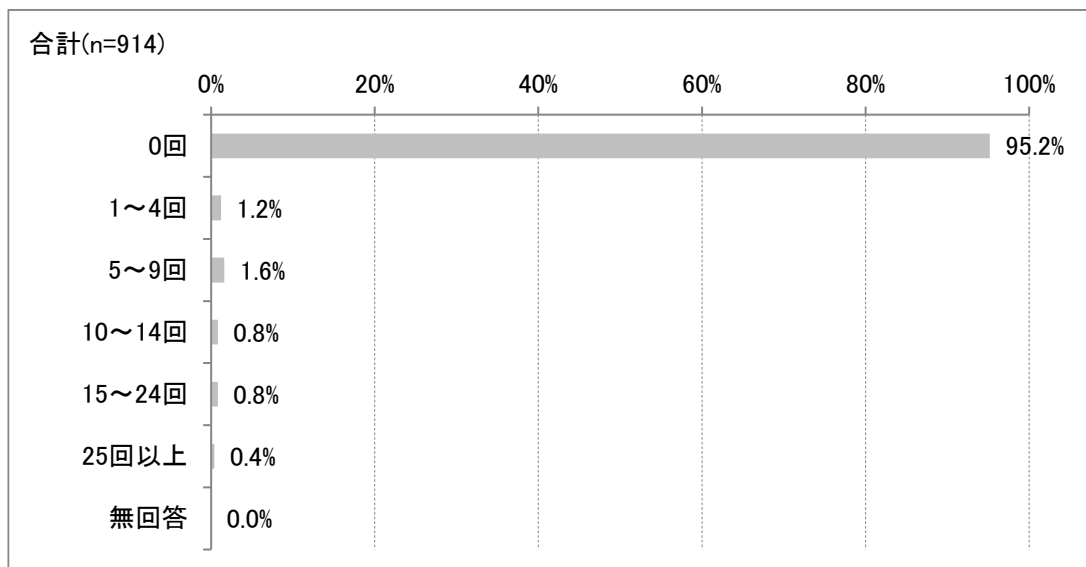
図表3-6 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く95.2%となっています。次いで、「5～9回(1.6%)」、「1～4回(1.2%)」となっています。

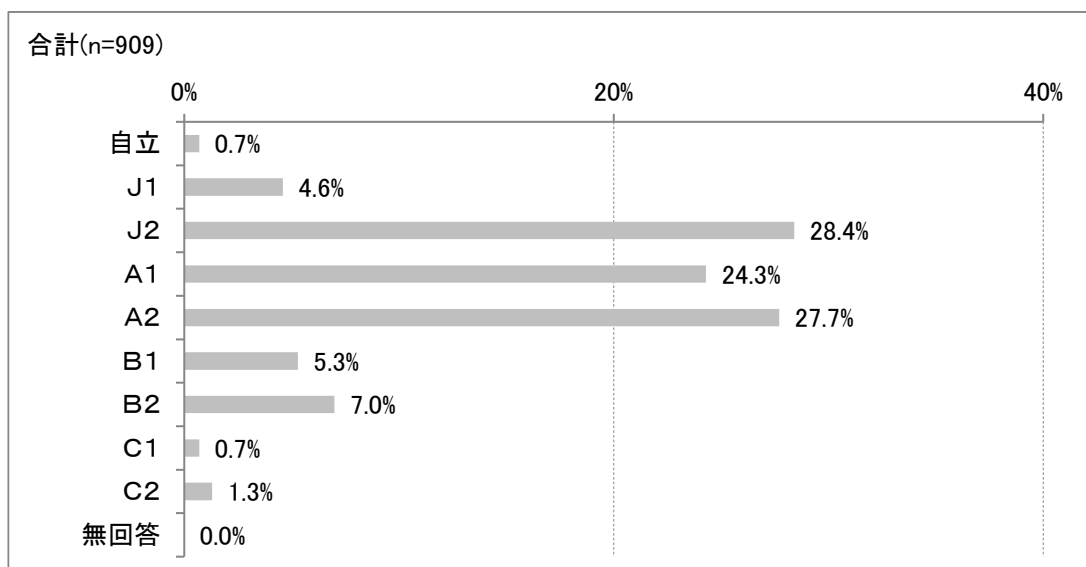
図表3-7 サービスの利用回数 (短期系)



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「J2」の割合が最も高く28.4%となっています。次いで、「A2(27.7%)」、「A1(24.3%)」となっています。

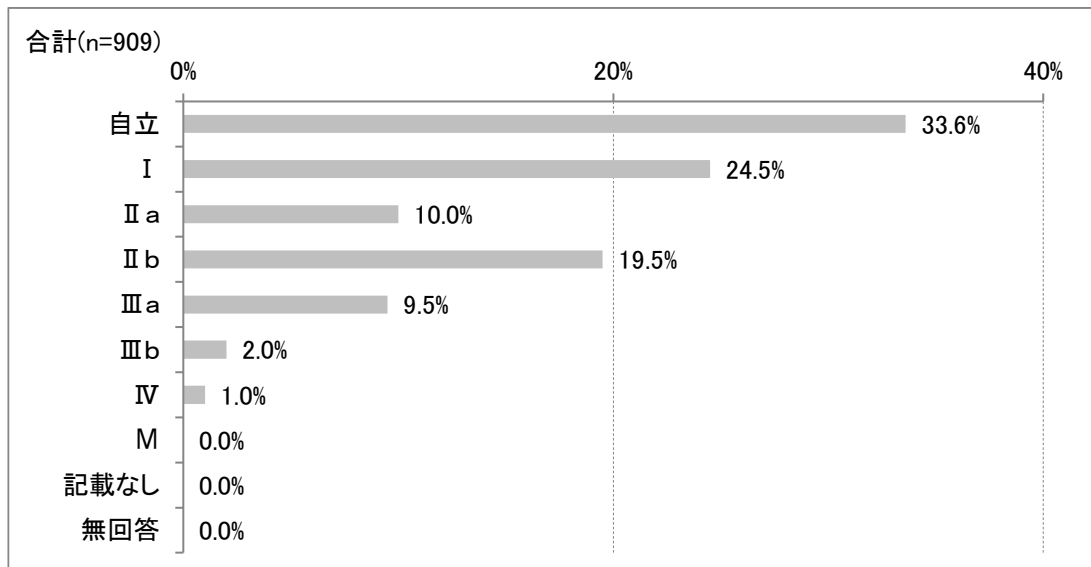
図表3-8 障害高齢者の日常生活自立度



### (9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」の割合が最も高く33.6%となっています。次いで、「I (24.5%)」、「IIb(19.5%)」となっています。

図表3-9 認知症高齢者の日常生活自立度





### **第3章 介護保険事業計画の策定に向けた検討**

## 1. 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

### 1. 1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができるのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

### 1. 2 結果と着目すべきポイント

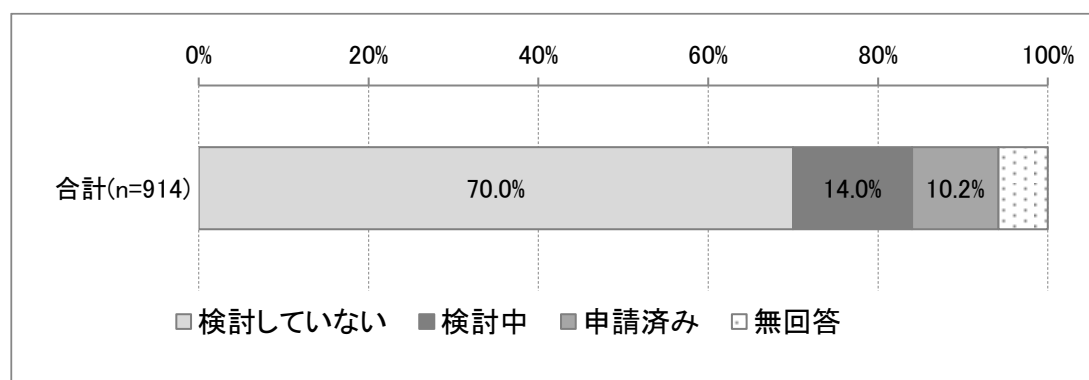
#### (1) 基礎集計

- 施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っています(図表1-1~図表1-3)。
- 要介護度の重度化に伴う、施設等検討状況の変化や世帯類型ごとの施設等検討状況についてその状況を確認してください。

#### 【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く70.0%となっています。次いで、「検討中(14.0%)」、「申請済み(10.2%)」となっています。

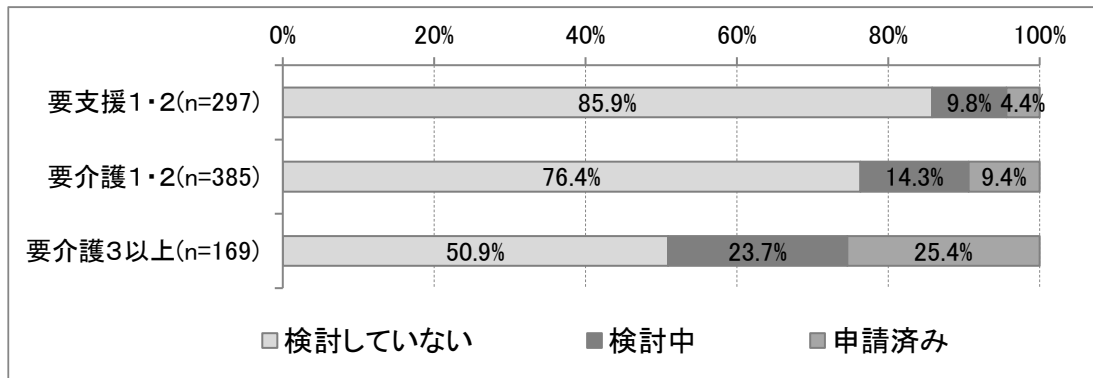
図表1-1 施設等検討の状況



【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が85.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が9.8%、「申請済み」が4.4%となっています。「要介護1・2」では「検討していない」が76.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が14.3%、「申請済み」が9.4%となっています。「要介護3以上」では「検討していない」が50.9%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が25.4%、「検討中」が23.7%となっています。

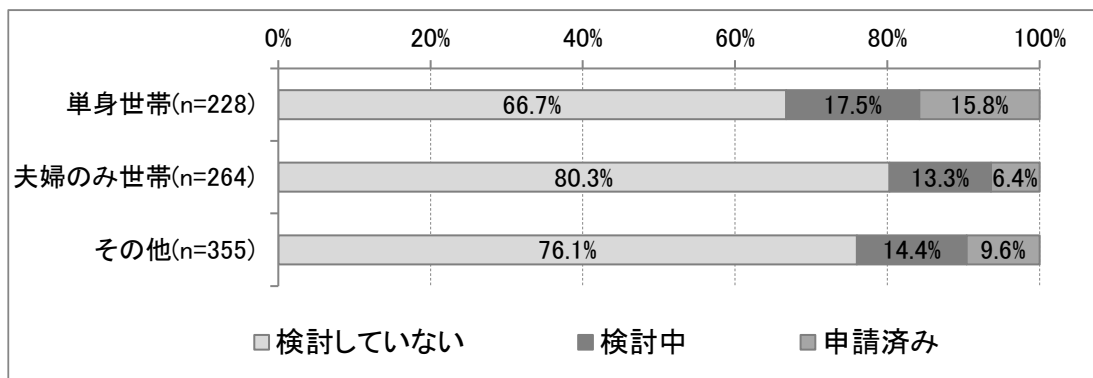
図表1-2 要介護度別・施設等検討の状況<\*\*\*>



【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が17.5%、「申請済み」が15.8%となっています。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が80.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が13.3%、「申請済み」が6.4%となっています。「その他」では「検討していない」が76.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が14.4%、「申請済み」が9.6%となっています。

図表1-3 世帯類型別・施設等検討の状況<\*\*\*>



## (2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

### 【着目すべきポイント】

- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化について、集計分析をしています(図表1-4、図表1-5)。
- ここでの「主な介護者が不安に感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等」のことです。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。
- ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安に感じる介護等を把握することができます。
- また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に着目することで、在宅限界点に大きな影響を与えられ「主な介護者が不安に感じる介護」を推測することも可能になります。

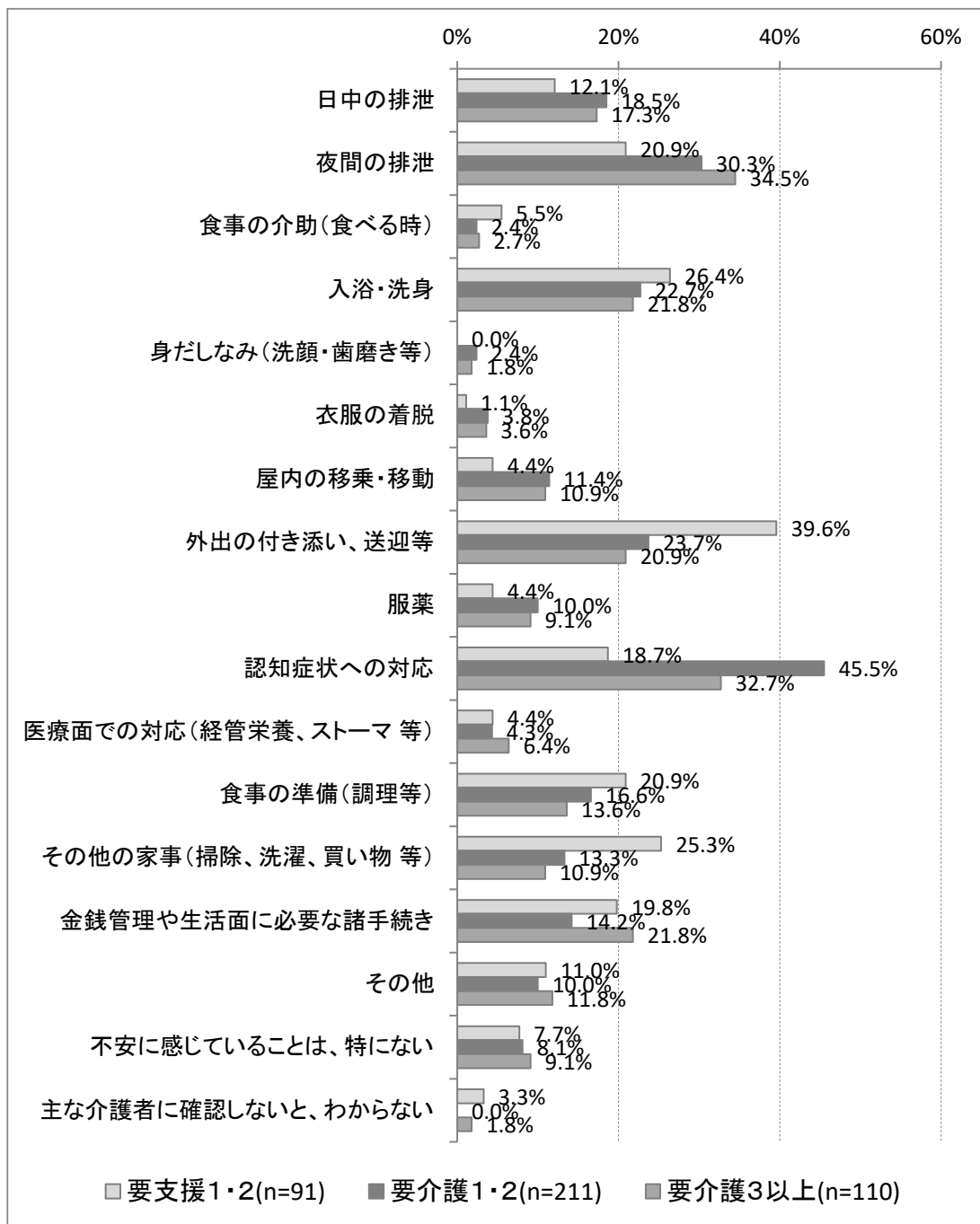
### 【留意事項】

- なお、「医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)」については、特に、実際に行われている割合が低い可能性が高いと考えられます。したがって、仮に選択した回答者が少ない場合でも、実際に医療ニーズのある要介護者を介護しているケースでは、主な介護者の不安は大きいことも考えられます。
- そのような観点から、在宅限界点に与える影響が過小評価される項目もあると考えられることから、注意が必要です。

【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が39.6%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が26.4%、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が25.3%となっています。「要介護1・2」では「認知症状への対応」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が30.3%、「外出の付き添い、送迎等」が23.7%となっています。「要介護3以上」では「夜間の排泄」が34.5%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が32.7%、「入浴・洗身」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が21.8%となっています。

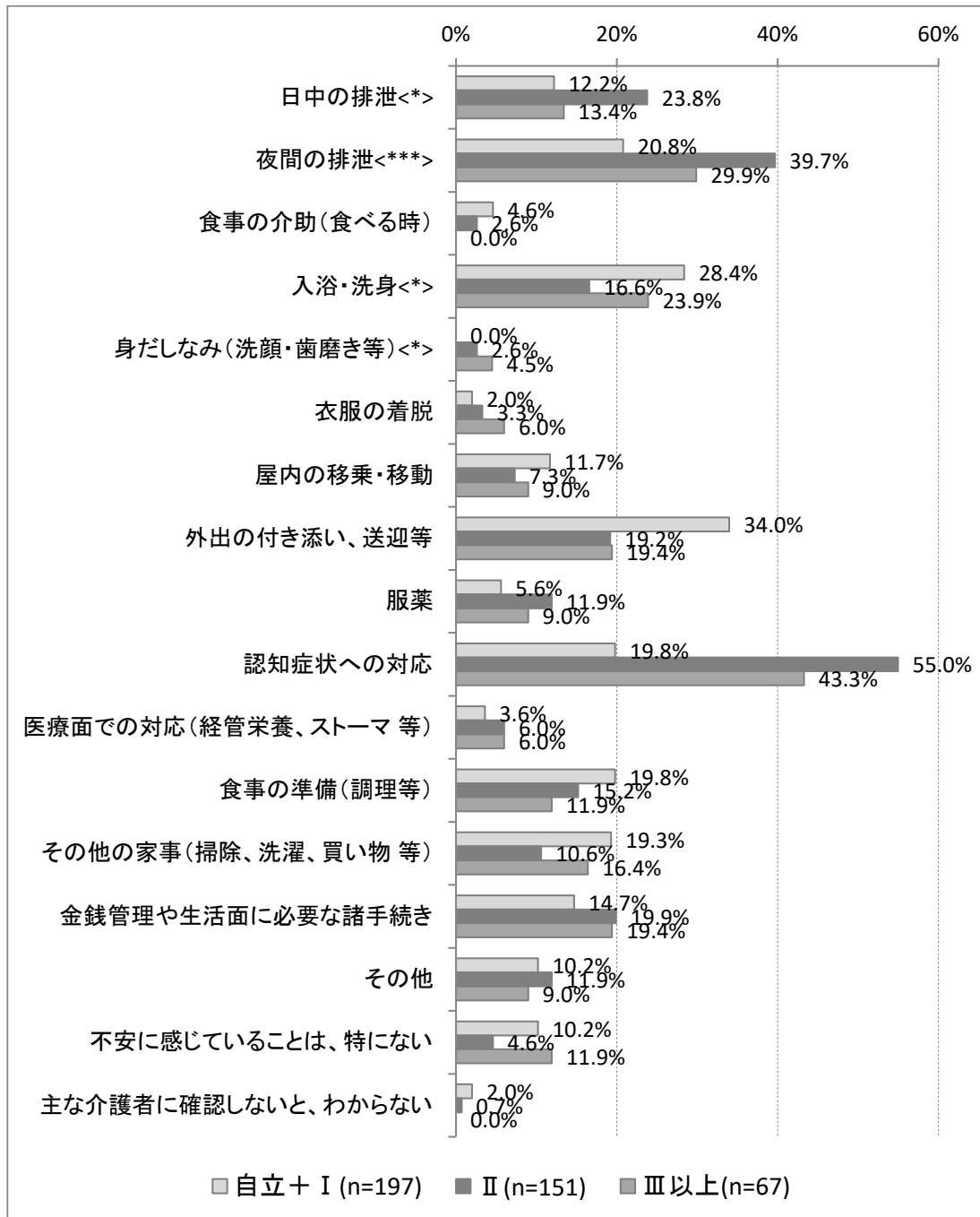
図表1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「外出の付き添い、送迎等」が34.0%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が28.4%、「夜間の排泄」が20.8%となっています。「Ⅱ」では「認知症状への対応」が55.0%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が39.7%、「日中の排泄」が23.8%となっています。「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が43.3%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が29.9%、「入浴・洗身」が23.9%となっています。

図表1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



### (3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

#### 【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析を行います(図表1-6、図表1-7)。
- 特に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- さらに、例えば今後の中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

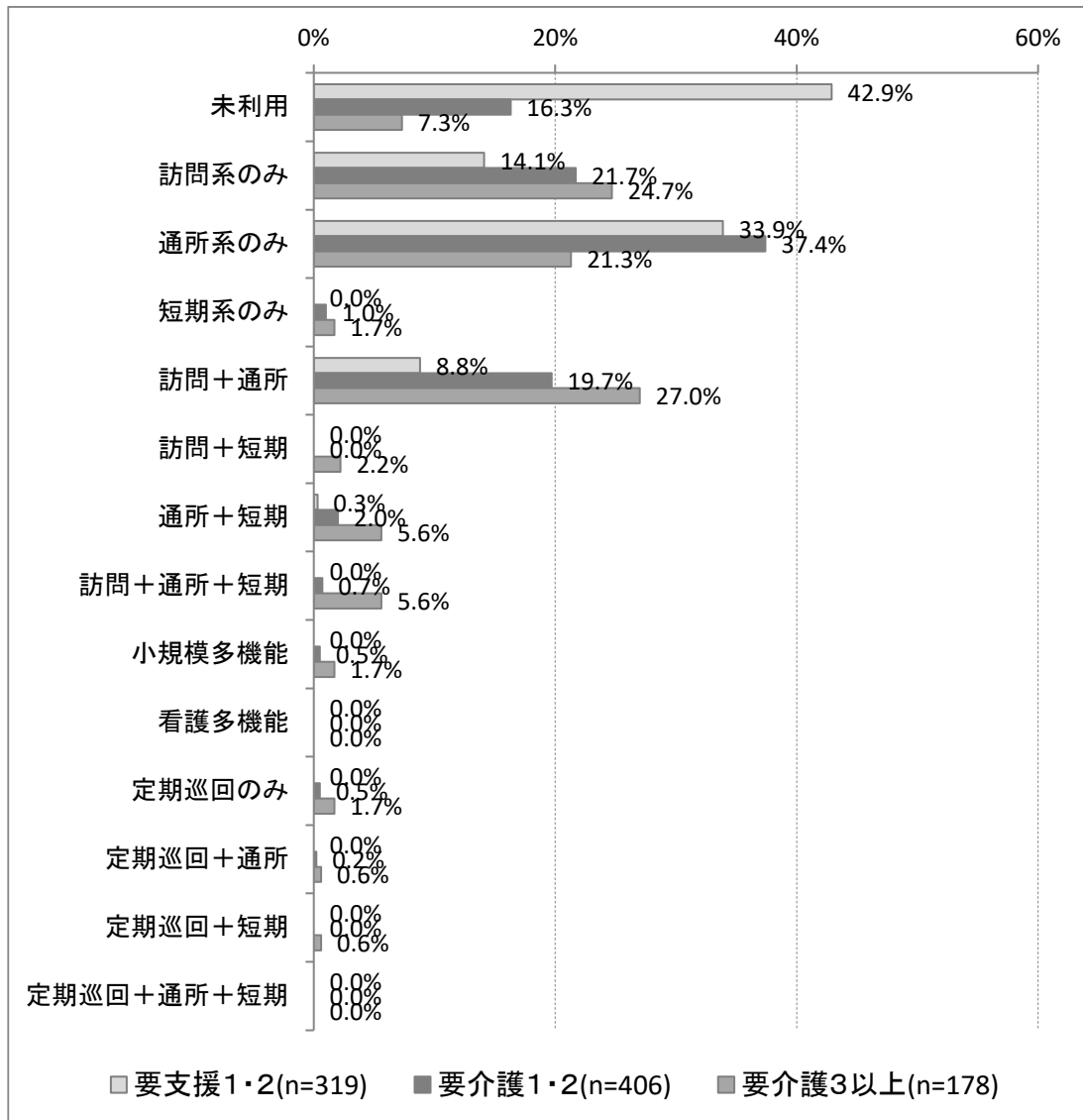
#### 【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が42.9%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が33.9%、「訪問系のみ」が14.1%となっています。「要介護1・2」では「通所系のみ」が37.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が21.7%、「訪問+通所」が19.7%となっています。「要介護3以上」では「訪問+通所」が27.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が24.7%、「通所系のみ」が21.3%となっています。

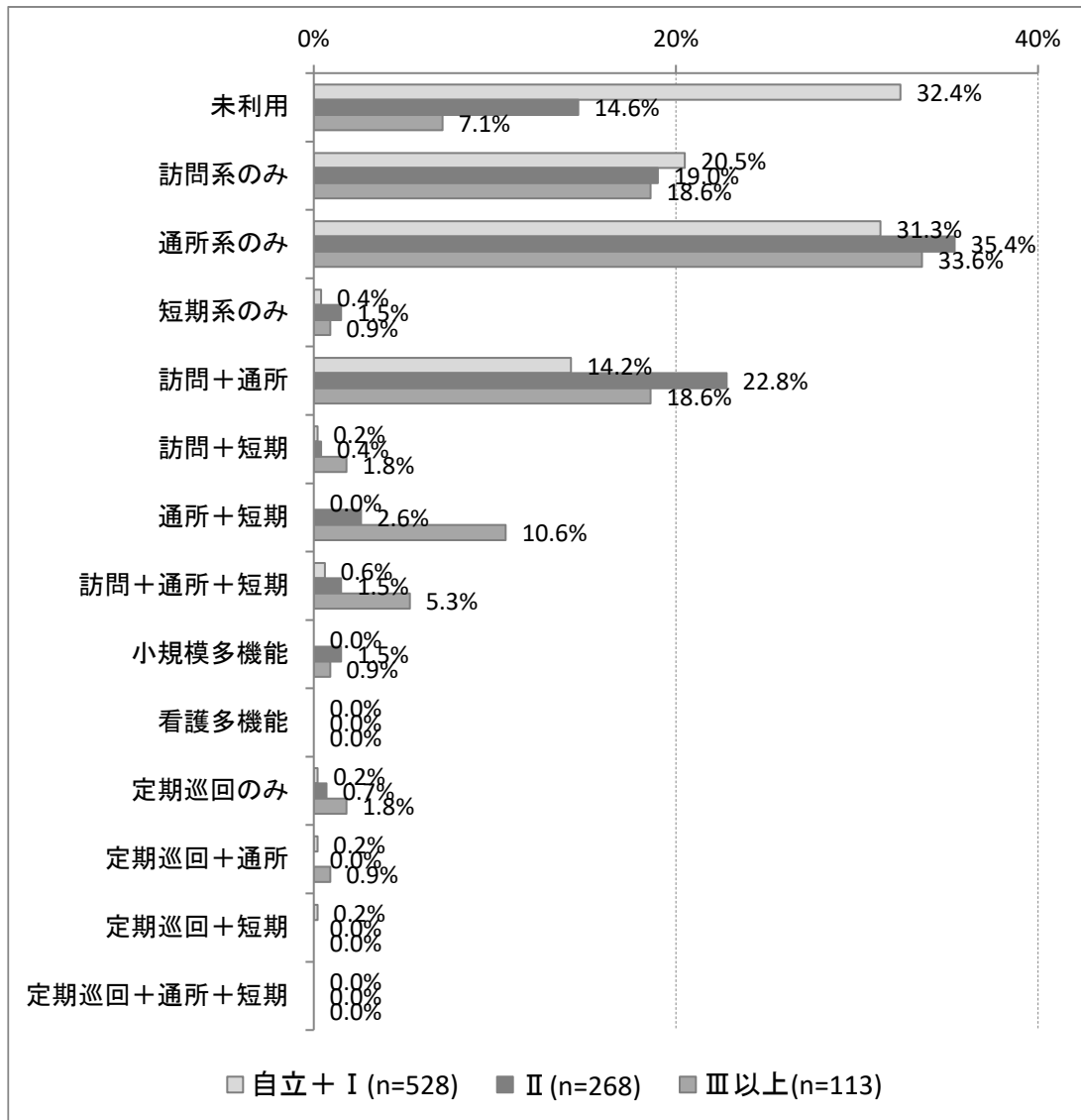
図表1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<\*\*\*>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「未利用」が32.4%ともっとも割合が高く、次いで「通所系のみ」が31.3%、「訪問系のみ」が20.5%となっています。「Ⅱ」では「通所系のみ」が35.4%ともっとも割合が高く、次いで「訪問+通所」が22.8%、「訪問系のみ」が19.0%となっています。「Ⅲ以上」では「通所系のみ」が33.6%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「訪問+通所」が18.6%、「通所+短期」が10.6%となっています。

図表1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<\*\*\*>



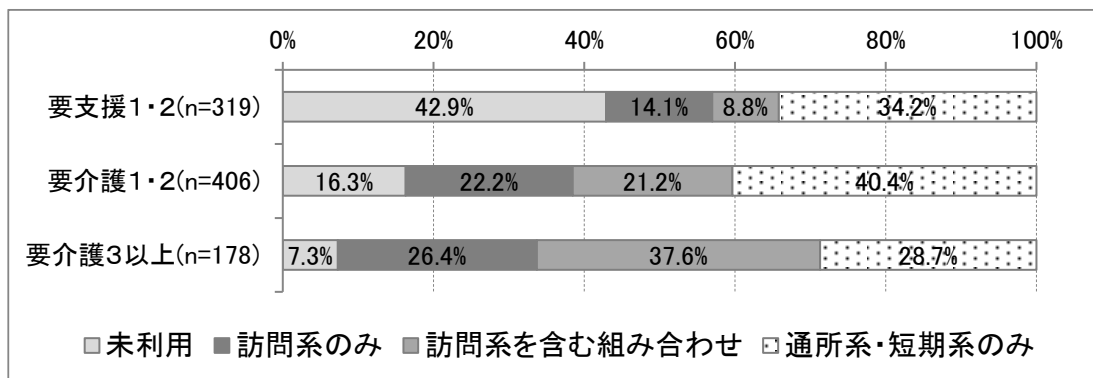
【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています(図表1-8、図表1-9)。
- 具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類(未利用除く)に分類したものです。
- 組み合わせのパターンが細分化された集計分析(図表1-6、図表1-7)と比較して、上記のような視点から、重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化の傾向等を分かりやすく示すことを目的としたものです。
- 前掲の集計分析(図表1-6、図表1-7)と同様に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- また、中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が34.2%、「訪問系のみ」が14.1%となっています。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が40.4%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が22.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が21.2%となっています。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が37.6%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が28.7%、「訪問系のみ」が26.4%となっています。

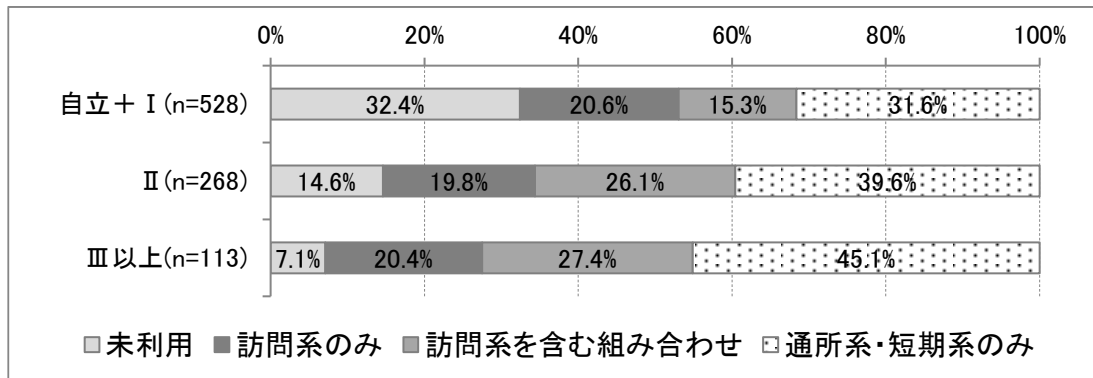
図表1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<\*\*\*>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「未利用」が32.4%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が31.6%、「訪問系のみ」が20.6%となっています。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が39.6%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.1%、「訪問系のみ」が19.8%となっています。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が45.1%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が27.4%、「訪問系のみ」が20.4%となっています。

図表1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<\*\*\*>



#### (4)「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

##### 【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表1-10～図表1-12は、「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析したもので、特に「サービス利用の組み合わせ」ごとの「施設等検討の状況」の比較が容易です。
- また、図表1-13～図表1-15は、表側と表頭を逆にして集計したもので、「施設等検討の状況」別の「サービス利用の組み合わせ」をみることができます。これにより、例えば施設等への入所・入居を「検討していない」ケースのような「適切な在宅生活の継続を実現している」と考えられる要介護者について、実際に「どのような組み合わせのサービスを利用しているか」を把握することができます。
- したがって、例えば「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

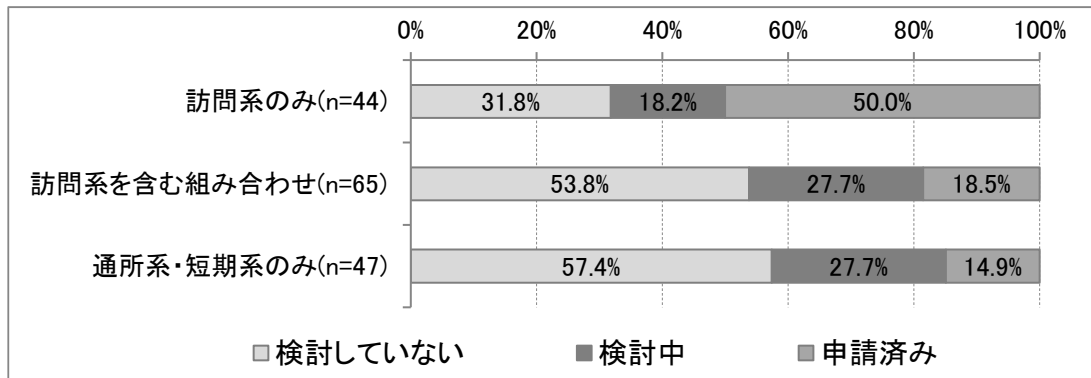
##### 【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論を交えながら、地域ごとにその効果等についての考察を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要となります。

【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「申請済み」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が31.8%、「検討中」が18.2%となっています。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が53.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.7%、「申請済み」が18.5%となっています。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が57.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.7%、「申請済み」が14.9%となっています。

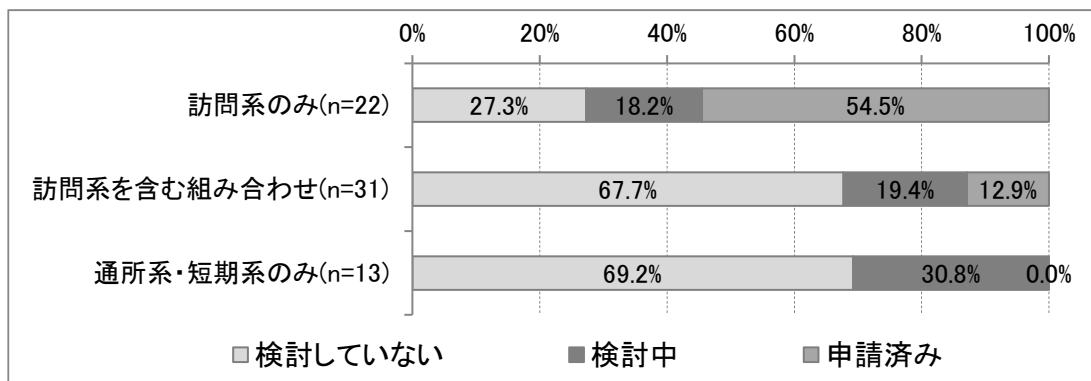
図表1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上） <\*\*\*>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「申請済み」が54.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が27.3%、「検討中」が18.2%となっています。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が67.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が19.4%、「申請済み」が12.9%となっています。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が69.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が30.8%、「申請済み」が0.0%となっています。

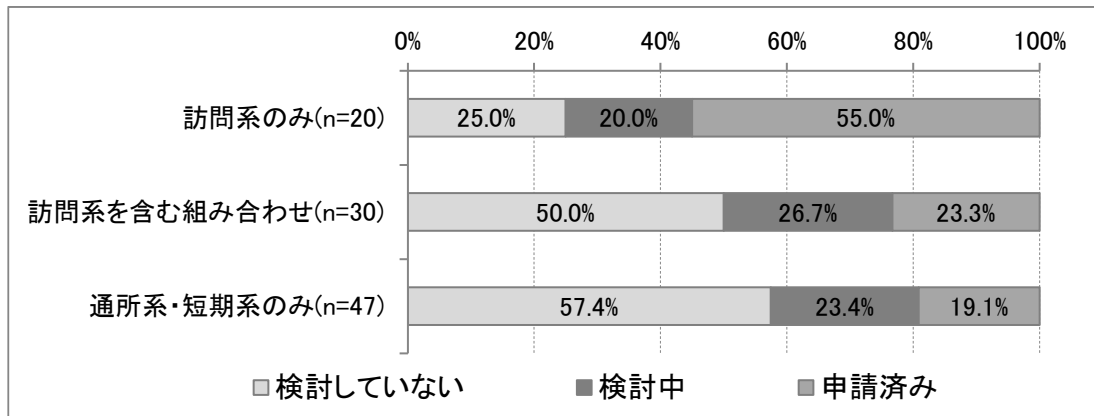
図表1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上） <\*\*\*>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「申請済み」が55.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が25.0%、「検討中」が20.0%となっています。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が26.7%、「申請済み」が23.3%となっています。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が57.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が23.4%、「申請済み」が19.1%となっています。

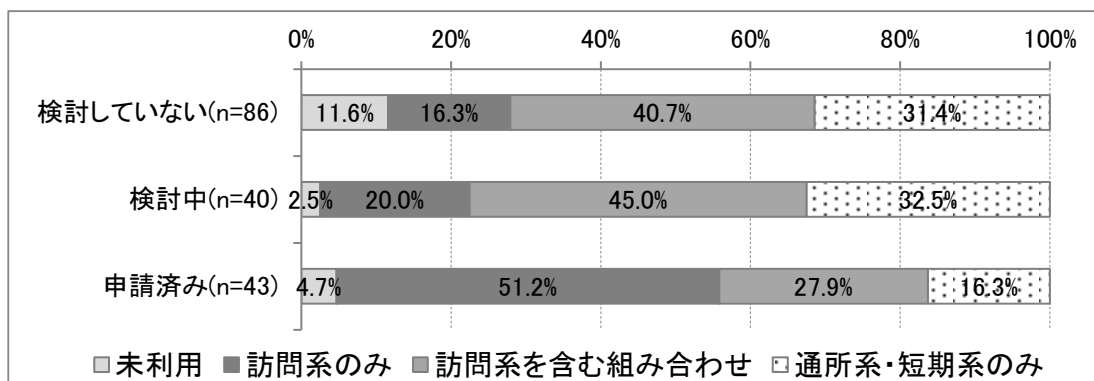
図表1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）<\*>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が40.7%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が31.4%、「訪問系のみ」が16.3%となっています。「検討中」では「訪問系を含む組み合わせ」が45.0%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が32.5%、「訪問系のみ」が20.0%となっています。「申請済み」では「訪問系のみ」が51.2%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が27.9%、「通所系・短期系のみ」が16.3%となっています。

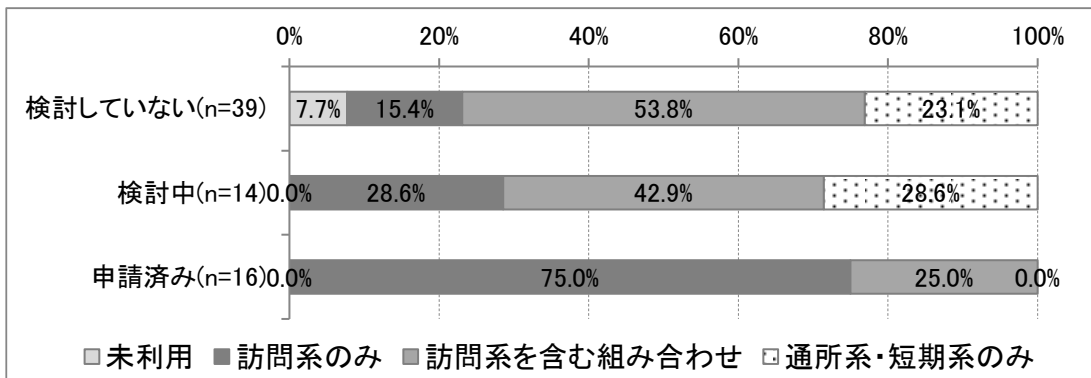
図表1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）<\*\*\*>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が53.8%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が23.1%、「訪問系のみ」が15.4%となっています。「検討中」では「訪問系を含む組み合わせ」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が28.6%、「未利用」が0.0%となっています。「申請済み」では「訪問系のみ」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.0%、「未利用」、「通所系・短期系のみ」が0.0%となっています。

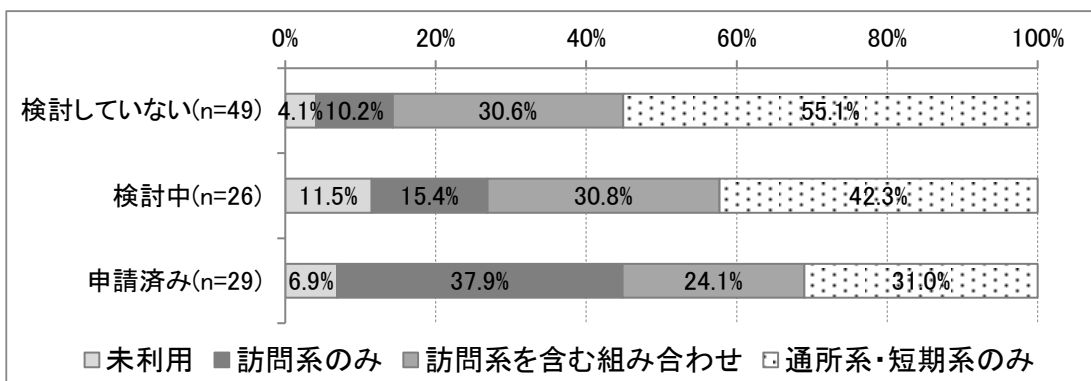
図表1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）<\*\*>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「通所系・短期系のみ」が55.1%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が30.6%、「訪問系のみ」が10.2%となっています。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が42.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が30.8%、「訪問系のみ」が15.4%となっています。「申請済み」では「訪問系のみ」が37.9%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が31.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が24.1%となっています。

図表1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）<+>



#### (5)「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

##### 【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、集計分析をしています(図表1-16、図表1-17)。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護(主な介護者の不安が大きな介護 等)」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の一つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- したがって、「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

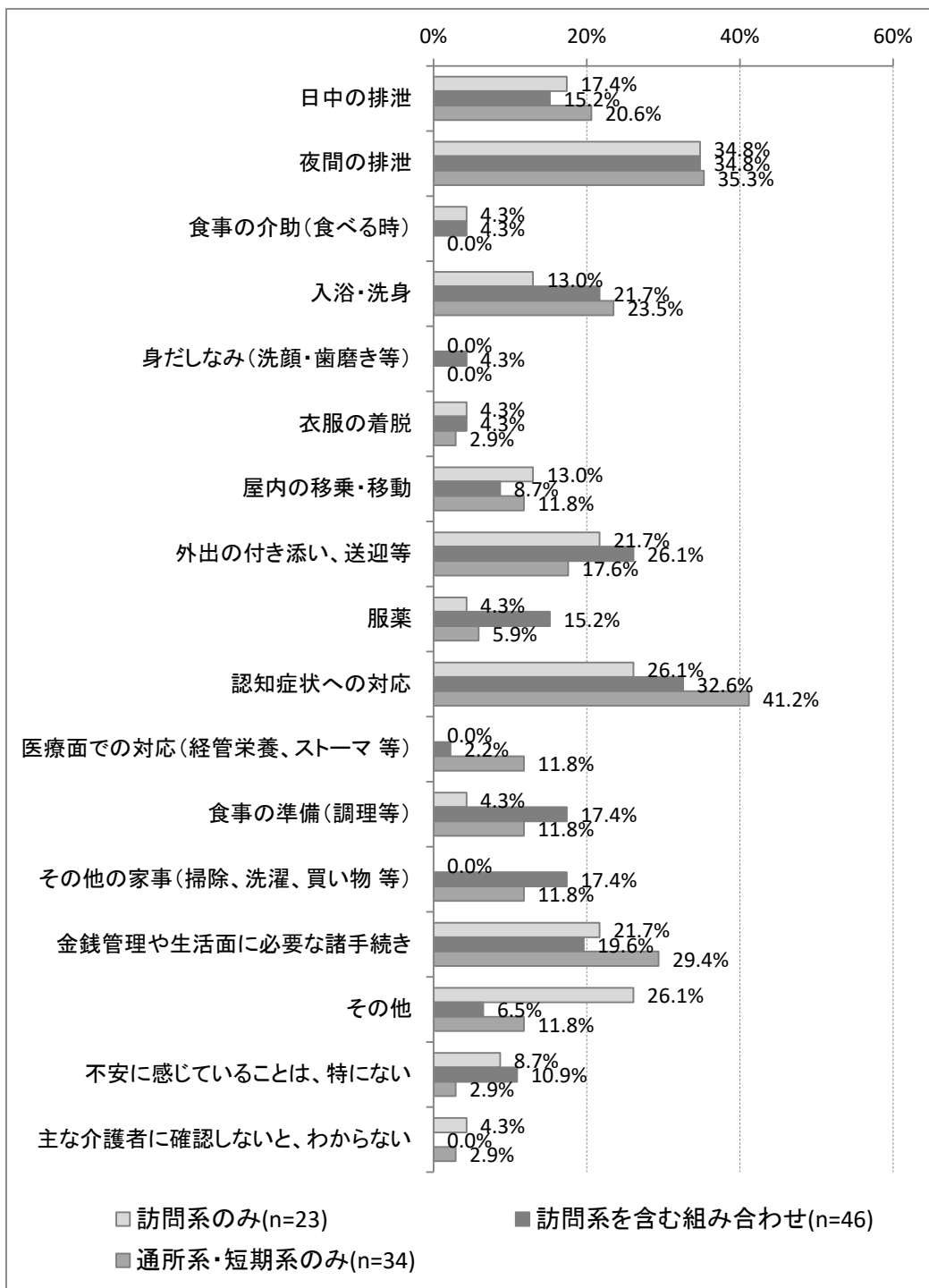
##### 【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、○○の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、○○の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「夜間の排泄」が34.8%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」、「その他」が26.1%、「外出の付き添い、送迎等」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が21.7%となっています。「訪問系を含む組み合わせ」では「夜間の排泄」が34.8%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が32.6%、「外出の付き添い、送迎等」が26.1%となっています。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が41.2%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が35.3%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が29.4%となっています。

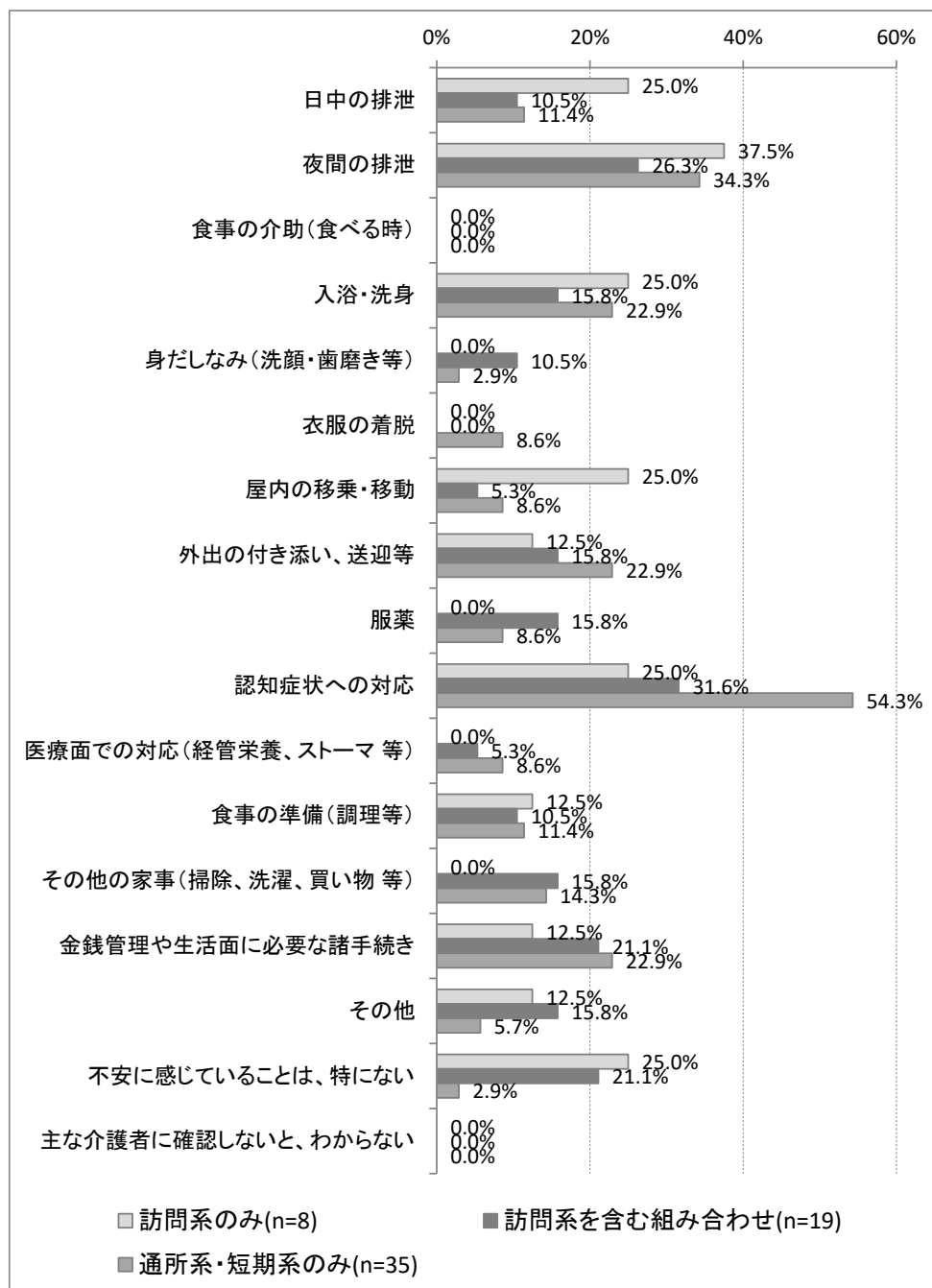
図表1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「夜間の排泄」が37.5%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」、「不安に感じていることは、特にない」が25.0%、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「その他」が12.5%となっています。「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が31.6%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が26.3%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「不安に感じていることは、特にない」が21.1%となっています。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が54.3%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が34.3%、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が22.9%となっています。

図表1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



**(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係****【着目すべきポイント】**

- (4)では、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表1-18と図表1-19が訪問系、図表1-20と図表1-21通所系、図表1-22と図表1-23が短期系について集計分析した結果です。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、施設等への入所・入居を「検討していない」割合が高くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

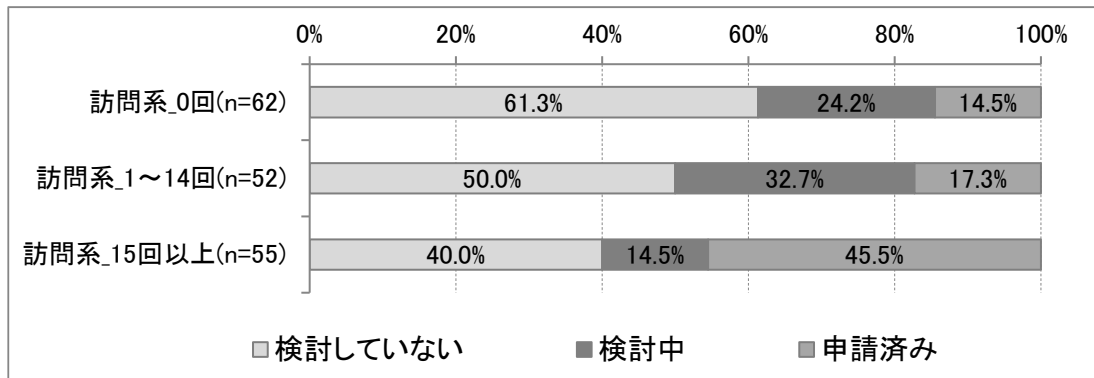
**【留意事項】**

- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、在宅限界点の向上に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系\_0回」では「検討していない」が61.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が24.2%、「申請済み」が14.5%となっています。「訪問系\_1～14回」では「検討していない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が32.7%、「申請済み」が17.3%となっています。「訪問系\_15回以上」では「申請済み」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が40.0%、「検討中」が14.5%となっています。

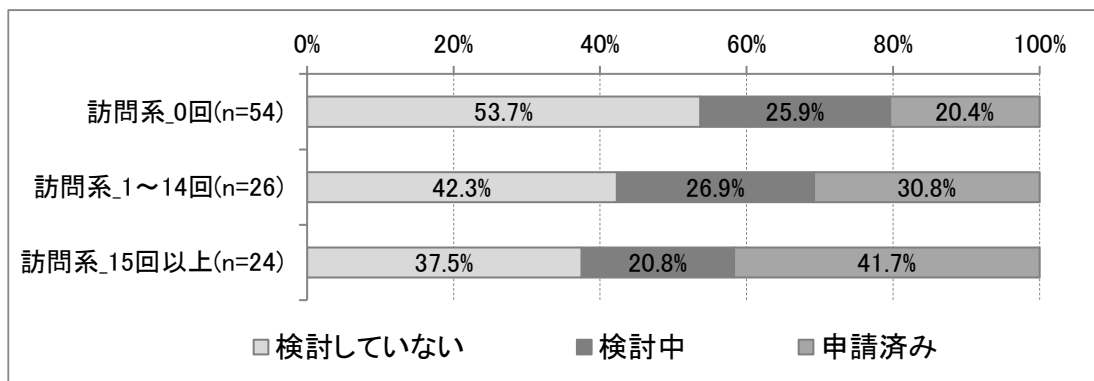
図表1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上） <\*\*\*>



【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系\_0回」では「検討していない」が53.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.9%、「申請済み」が20.4%となっています。「訪問系\_1～14回」では「検討していない」が42.3%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が30.8%、「検討中」が26.9%となっています。「訪問系\_15回以上」では「申請済み」が41.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が37.5%、「検討中」が20.8%となっています。

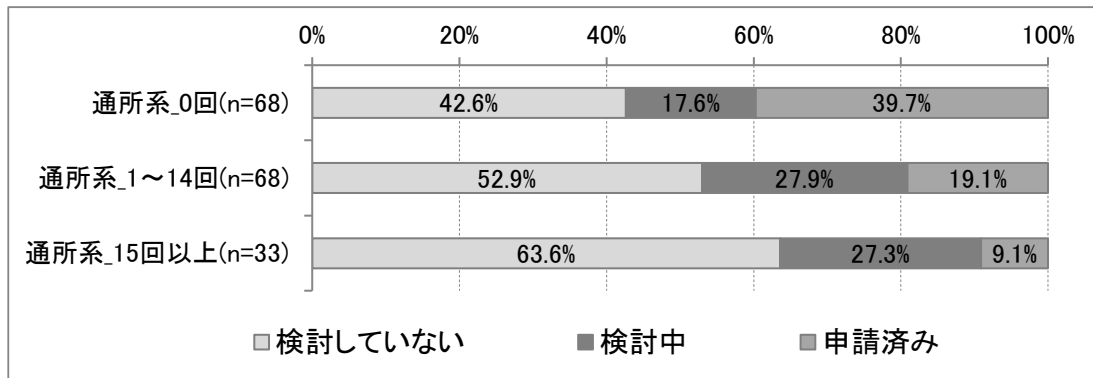
図表1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系\_0回」では「検討していない」が42.6%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が39.7%、「検討中」が17.6%となっています。「通所系\_1～14回」では「検討していない」が52.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.9%、「申請済み」が19.1%となっています。「通所系\_15回以上」では「検討していない」が63.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.3%、「申請済み」が9.1%となっています。

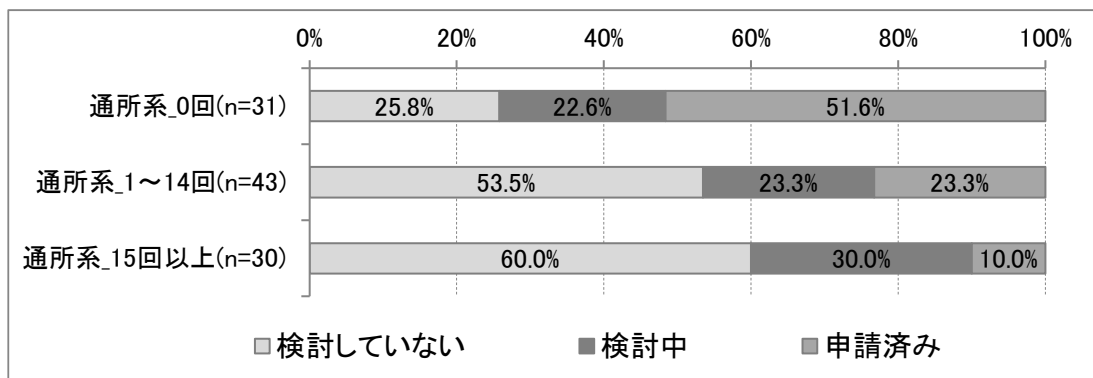
図表1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上） <\*\*\*>



【サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系\_0回」では「申請済み」が51.6%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が25.8%、「検討中」が22.6%となっています。「通所系\_1～14回」では「検討していない」が53.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が23.3%となっています。「通所系\_15回以上」では「検討していない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が30.0%、「申請済み」が10.0%となっています。

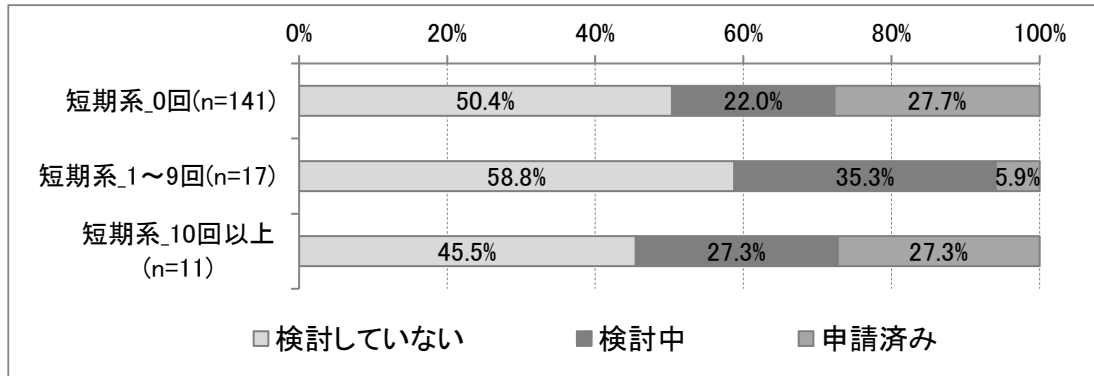
図表1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上） <\*\*\*>



【サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系\_0回」では「検討していない」が50.4%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が27.7%、「検討中」が22.0%となっています。「短期系\_1～9回」では「検討していない」が58.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が35.3%、「申請済み」が5.9%となっています。「短期系\_10回以上」では「検討していない」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が27.3%となっています。

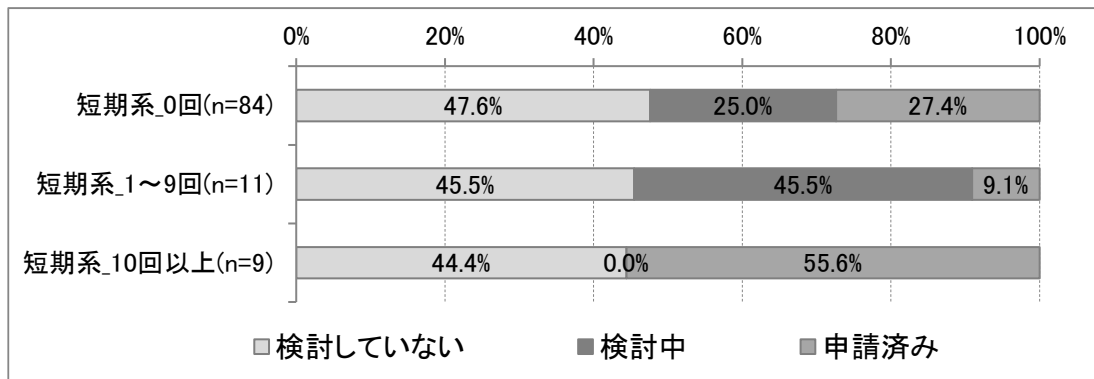
図表1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系\_0回」では「検討していない」が47.6%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が27.4%、「検討中」が25.0%となっています。「短期系\_1～9回」では「検討していない」、「検討中」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が9.1%となっています。「短期系\_10回以上」では「申請済み」が55.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が44.4%、「検討中」が0.0%となっています。

図表1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上） <+>



## (7)「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

### 【着目すべきポイント】

- (5)では、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護(主な介護者の不安が大きな介護 等)」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の一つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表1-24と図表1-25が訪問系、図表1-26と図表1-27が通所系、図表1-28と図表1-29が短期系について集計分析した結果です。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、「主な介護者が不安に感じる」割合が低くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

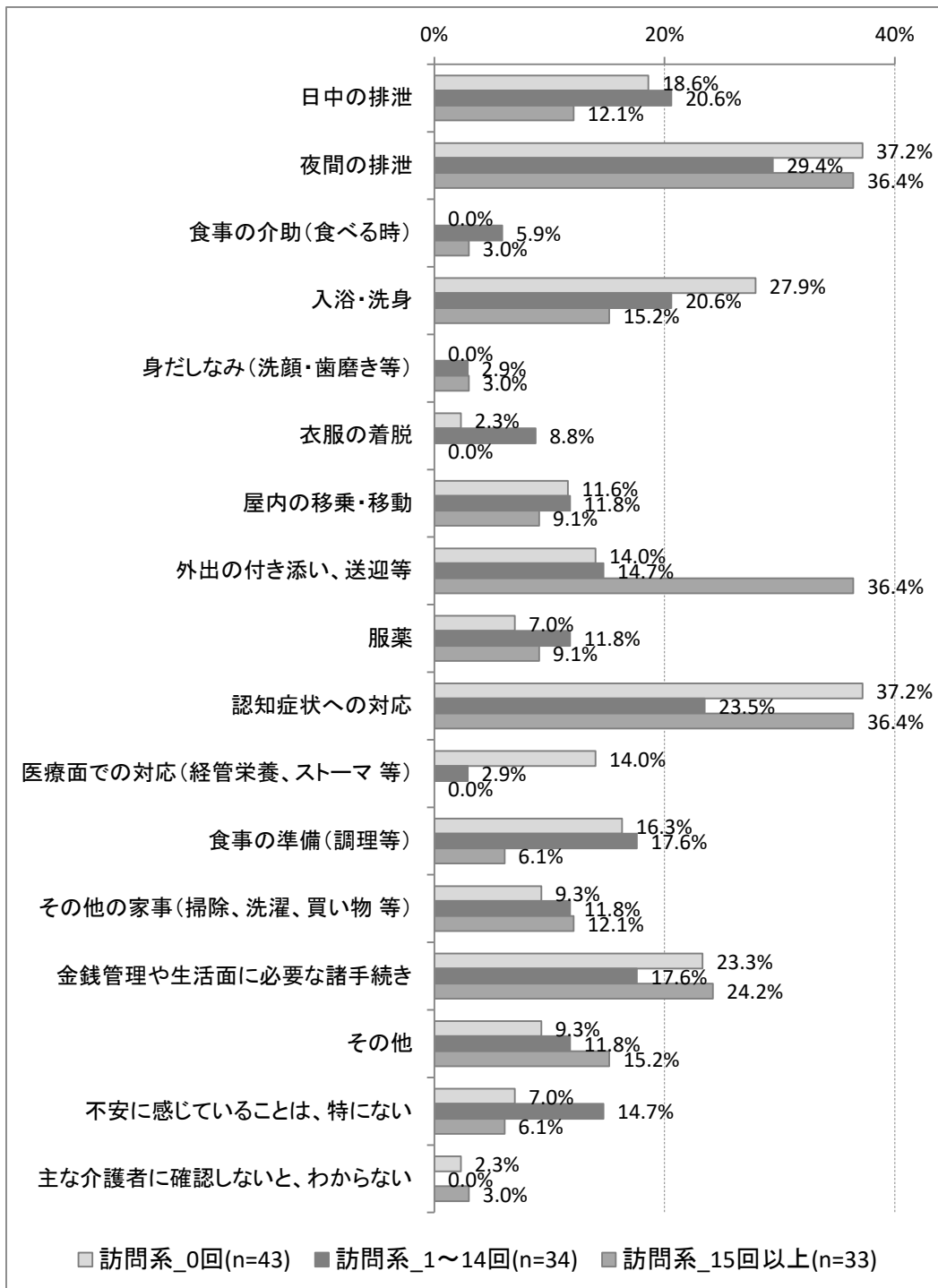
### 【留意事項】

- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、介護者不安の軽減に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系\_0回」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が37.2%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が27.9%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が23.3%となっています。「訪問系\_1～14回」では「夜間の排泄」が29.4%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が23.5%、「日中の排泄」、「入浴・洗身」が20.6%となっています。「訪問系\_15回以上」では「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」が36.4%ともっとも割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が24.2%、「入浴・洗身」、「その他」が15.2%となっています。

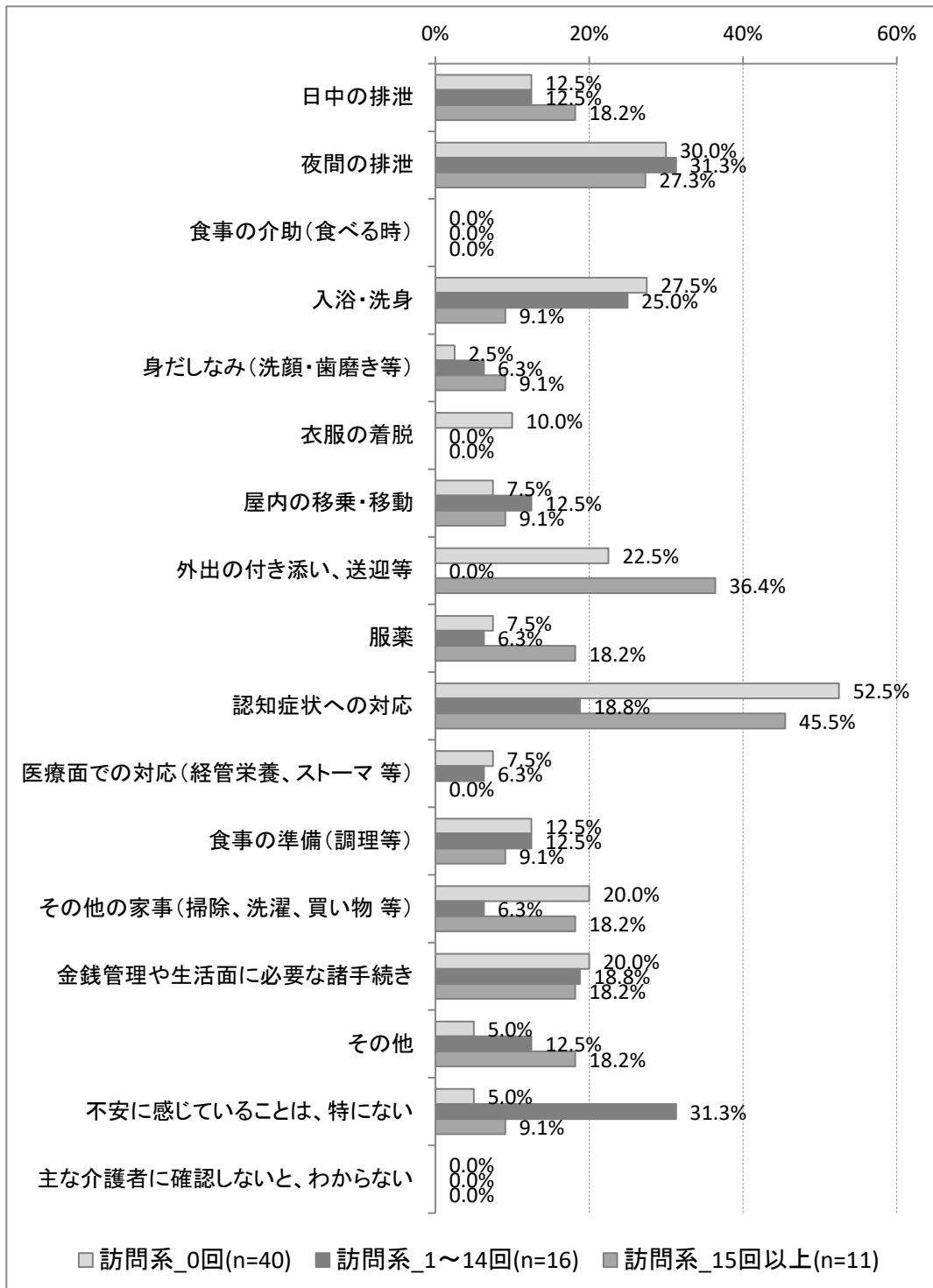
図表1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系\_0回」では「認知症状への対応」が52.5%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が30.0%、「入浴・洗身」が27.5%となっています。「訪問系\_1～14回」では「夜間の排泄」、「不安に感じていることは、特にない」が31.3%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が25.0%、「認知症状への対応」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が18.8%となっています。「訪問系\_15回以上」では「認知症状への対応」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が36.4%、「夜間の排泄」が27.3%となっています。

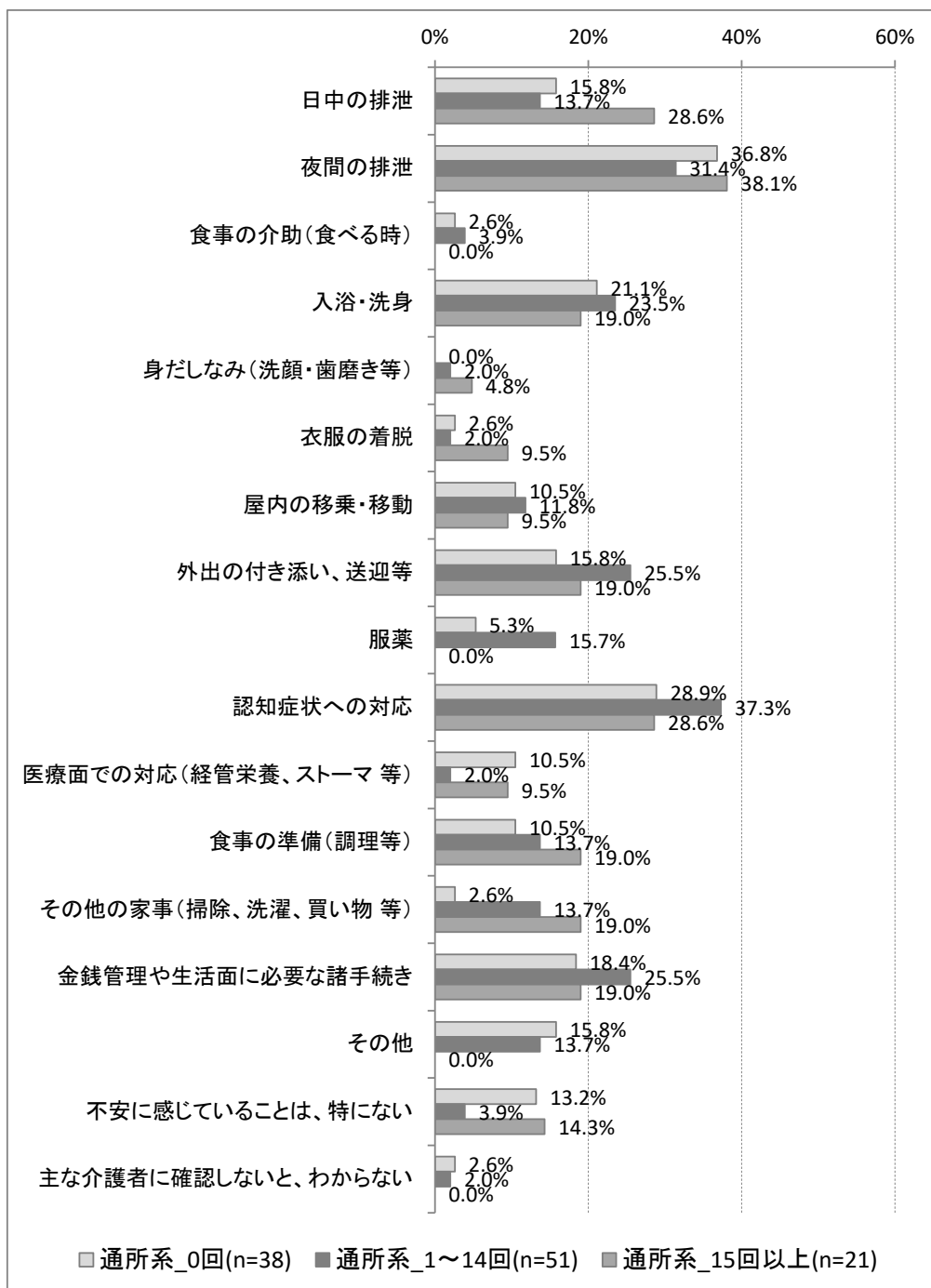
図表1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系\_0回」では「夜間の排泄」が36.8%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が28.9%、「入浴・洗身」が21.1%となっています。「通所系\_1～14回」では「認知症状への対応」が37.3%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が31.4%、「外出の付き添い、送迎等」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が25.5%となっています。「通所系\_15回以上」では「夜間の排泄」が38.1%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「認知症状への対応」が28.6%、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が19.0%となっています。

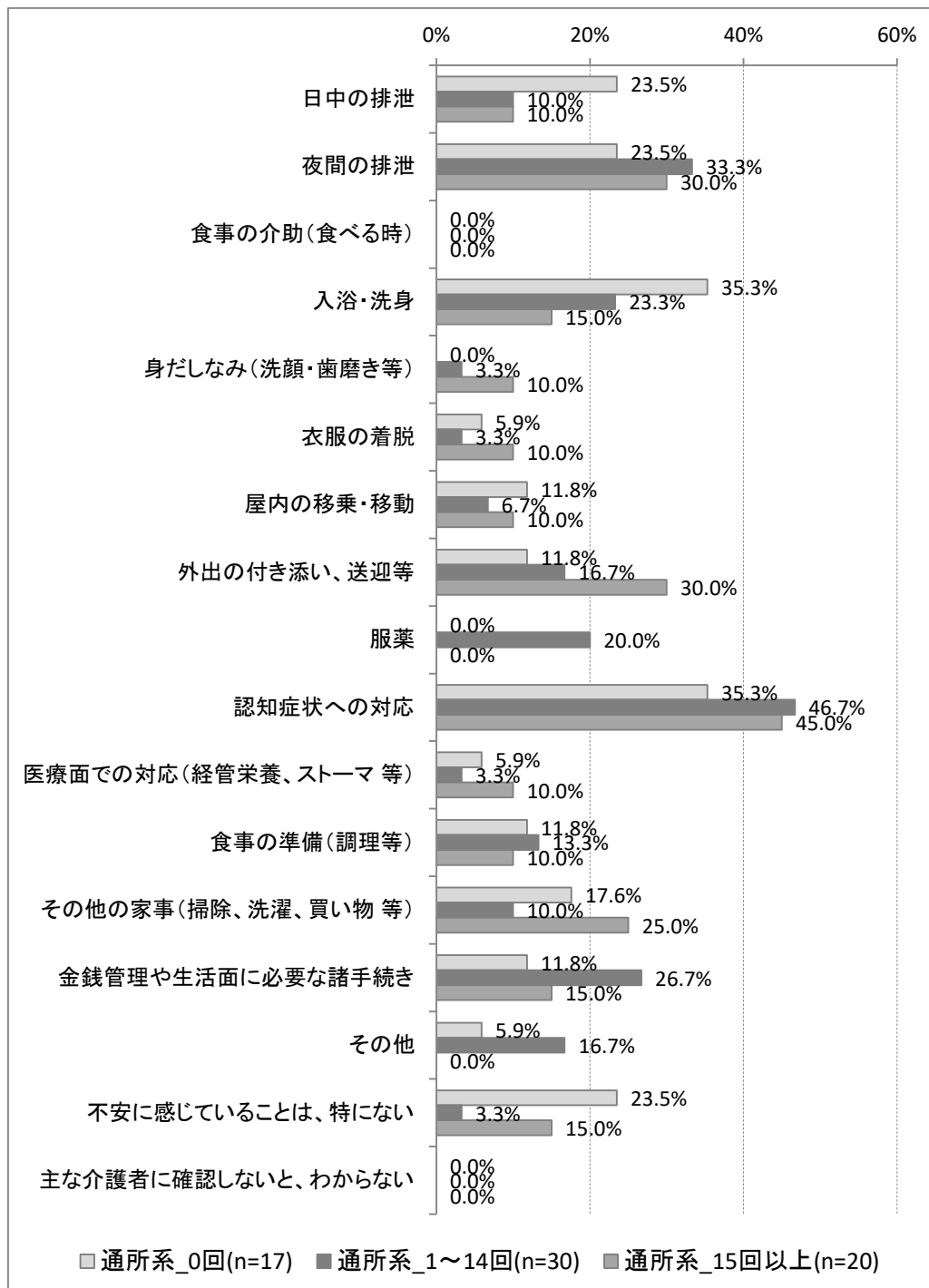
図表1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系\_0回」では「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が35.3%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「不安に感じていることは、特にない」が23.5%、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が17.6%となっています。「通所系\_1～14回」では「認知症状への対応」が46.7%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が33.3%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が26.7%となっています。「通所系\_15回以上」では「認知症状への対応」が45.0%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が30.0%、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が25.0%となっています。

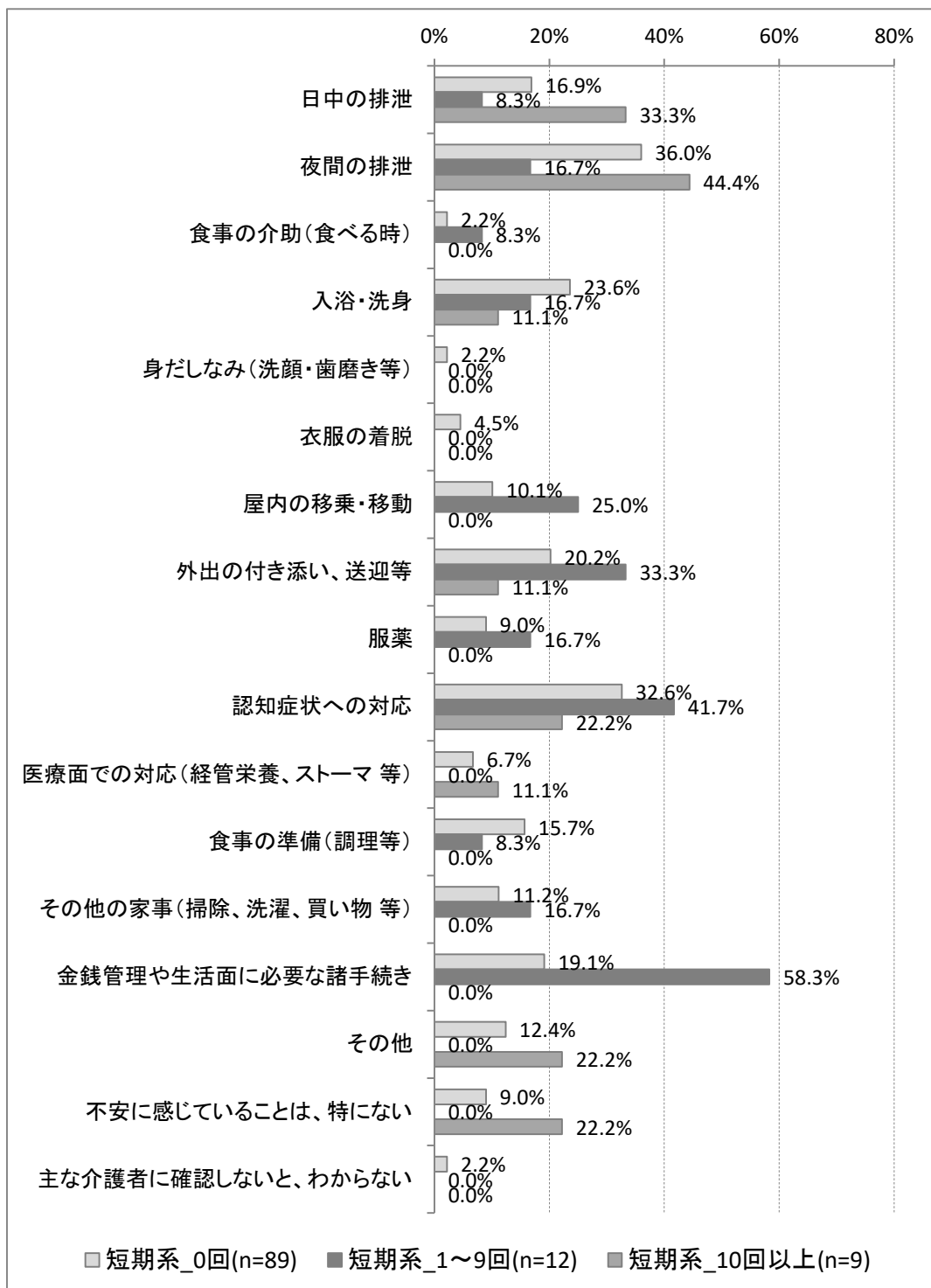
図表1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系\_0回」では「夜間の排泄」が36.0%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が32.6%、「入浴・洗身」が23.6%となっています。「短期系\_1～9回」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が58.3%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が41.7%、「外出の付き添い、送迎等」が33.3%となっています。「短期系\_10回以上」では「夜間の排泄」が44.4%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が33.3%、「認知症状への対応」、「その他」、「不安に感じていることは、特にない」が22.2%となっています。

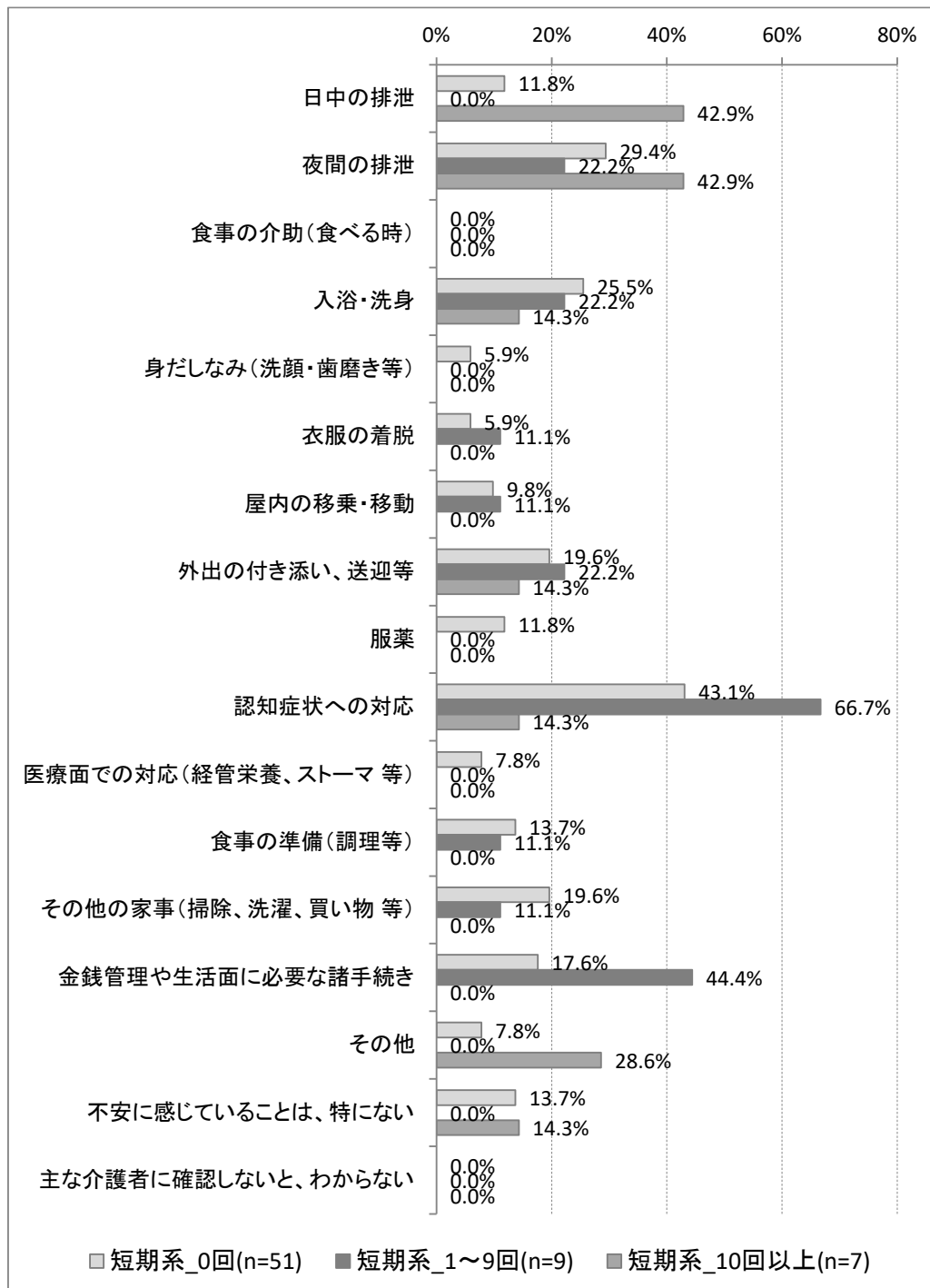
図表1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系\_0回」では「認知症状への対応」が43.1%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が29.4%、「入浴・洗身」が25.5%となっています。「短期系\_1～9回」では「認知症状への対応」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が44.4%、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が22.2%となっています。「短期系\_10回以上」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が28.6%、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「不安に感じていることは、特にない」が14.3%となっています。

図表1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



## 2. 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

### 2. 1 集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

### 2. 2 集計結果と着目すべきポイント

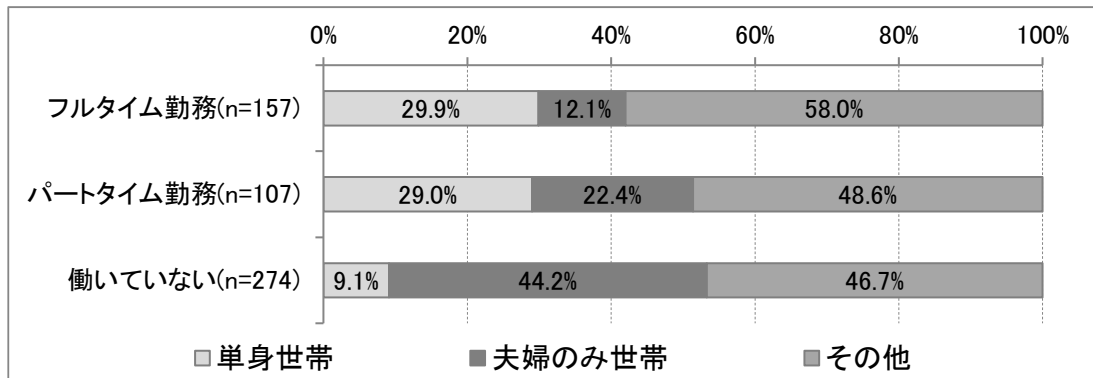
#### (1) 基本集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。
- 主な介護者の属性や、要介護者の要介護度・認知症自立度について、就労状況別にその状況を確認してください。

【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他」が58.0%ともっとも割合が高く、次いで「単身世帯」が29.9%、「夫婦のみ世帯」が12.1%となっています。「パートタイム勤務」では「その他」が48.6%ともっとも割合が高く、次いで「単身世帯」が29.0%、「夫婦のみ世帯」が22.4%となっています。「働いていない」では「その他」が46.7%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が44.2%、「単身世帯」が9.1%となっています。

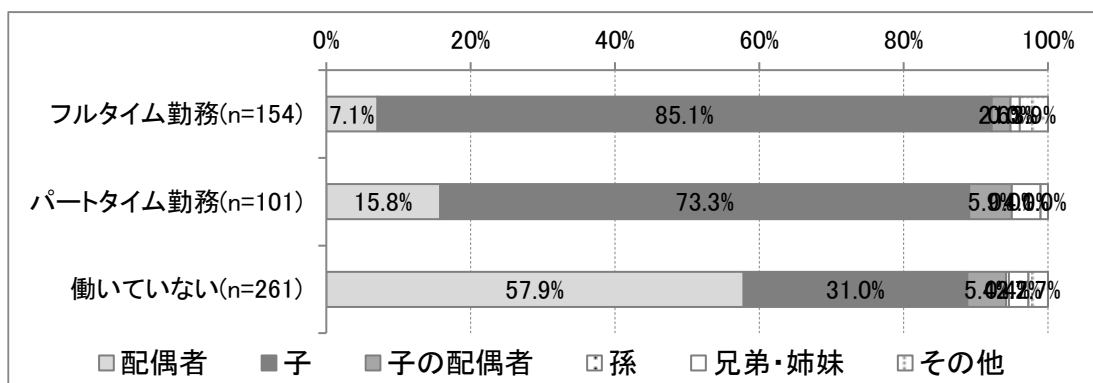
図表2-1 就労状況別・世帯類型<\*\*\*>



【就労状況別・★主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が85.1%ともっとも割合が高く、次いで「配偶者」が7.1%、「その他」が3.9%となっています。「パートタイム勤務」では「子」が73.3%ともっとも割合が高く、次いで「配偶者」が15.8%、「子の配偶者」が5.9%となっています。「働いていない」では「配偶者」が57.9%ともっとも割合が高く、次いで「子」が31.0%、「子の配偶者」が5.4%となっています。

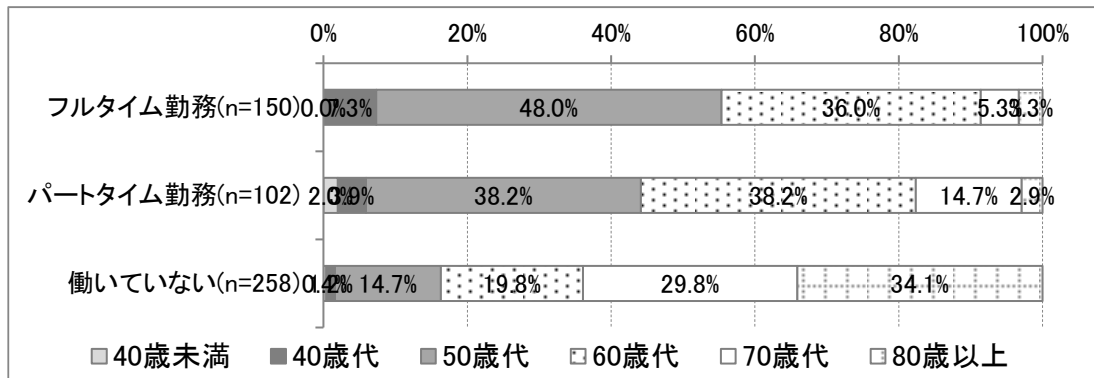
図表2-2 就労状況別・★主な介護者の本人との関係<\*\*\*>



【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50歳代」が48.0%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が36.0%、「40歳代」が7.3%となっています。「パートタイム勤務」では「50歳代」、「60歳代」が38.2%と最も割合が高く、次いで「70歳代」が14.7%、「40歳代」が3.9%となっています。「働いていない」では「80歳以上」が34.1%と最も割合が高く、次いで「70歳代」が29.8%、「60歳代」が19.8%となっています。

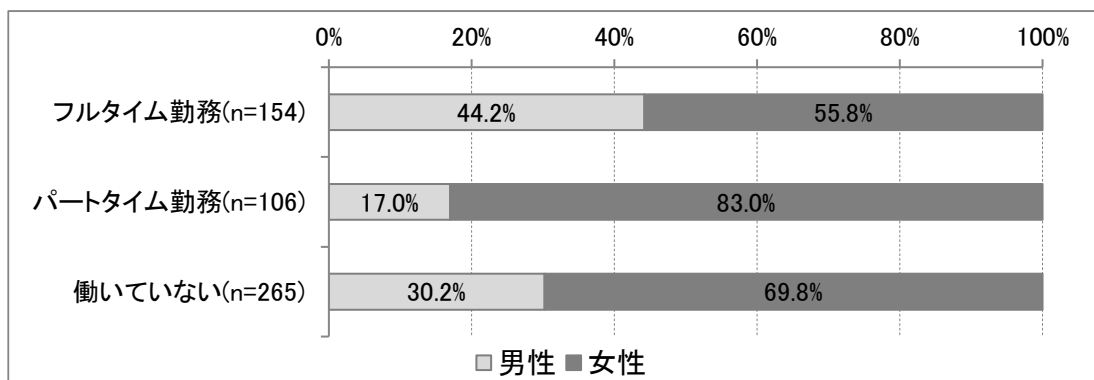
図表2-3 就労状況別・主な介護者の年齢<\*\*\*>



【就労状況別・主な介護者の性別】

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「女性」が55.8%と最も割合が高く、次いで「男性」が44.2%となっています。「パートタイム勤務」では「女性」が83.0%と最も割合が高く、次いで「男性」が17.0%となっています。「働いていない」では「女性」が69.8%と最も割合が高く、次いで「男性」が30.2%となっています。

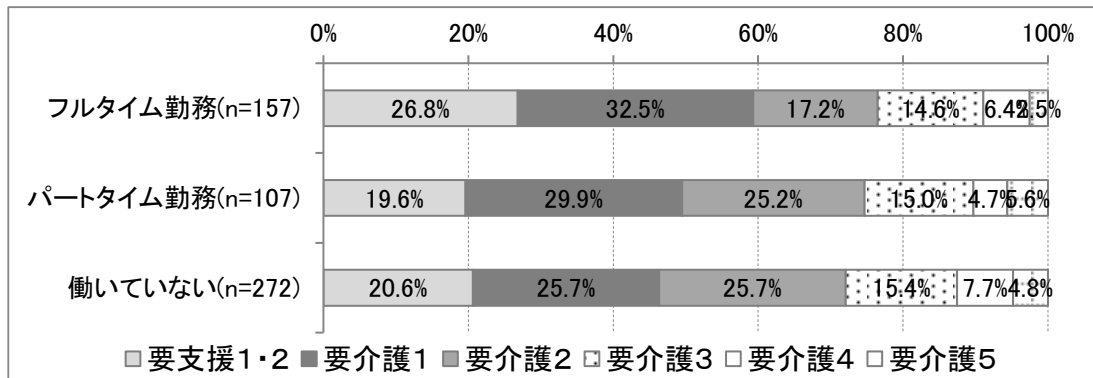
図表2-4 就労状況別・主な介護者の性別<\*\*\*>



【就労状況別・要介護度】

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要介護1」が32.5%ともっとも割合が高く、次いで「要支援1・2」が26.8%、「要介護2」が17.2%となっています。「パートタイム勤務」では「要介護1」が29.9%ともっとも割合が高く、次いで「要介護2」が25.2%、「要支援1・2」が19.6%となっています。「働いていない」では「要介護1」、「要介護2」が25.7%ともっとも割合が高く、次いで「要支援1・2」が20.6%、「要介護3」が15.4%となっています。

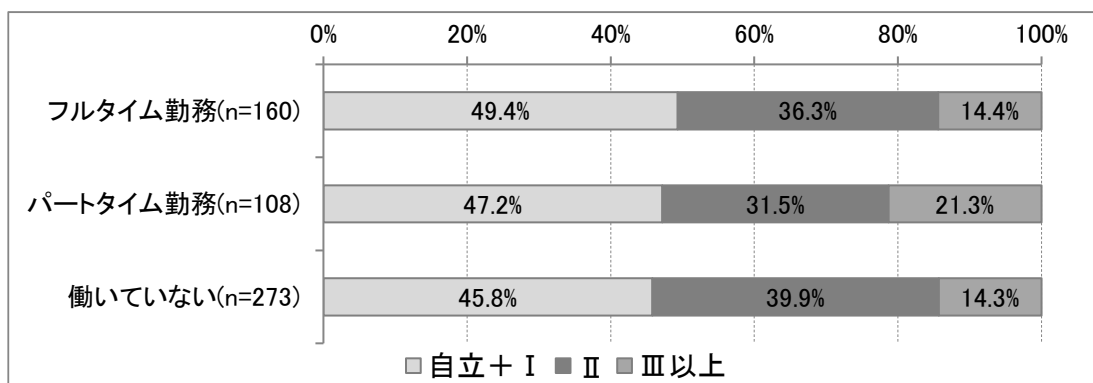
図表2-5 就労状況別・要介護度



【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「自立+Ⅰ」が49.4%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅱ」が36.3%、「Ⅲ以上」が14.4%となっています。「パートタイム勤務」では「自立+Ⅰ」が47.2%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅱ」が31.5%、「Ⅲ以上」が21.3%となっています。「働いていない」では「自立+Ⅰ」が45.8%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅱ」が39.9%、「Ⅲ以上」が14.3%となっています。

図表2-6 就労状況別・認知症自立度



(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

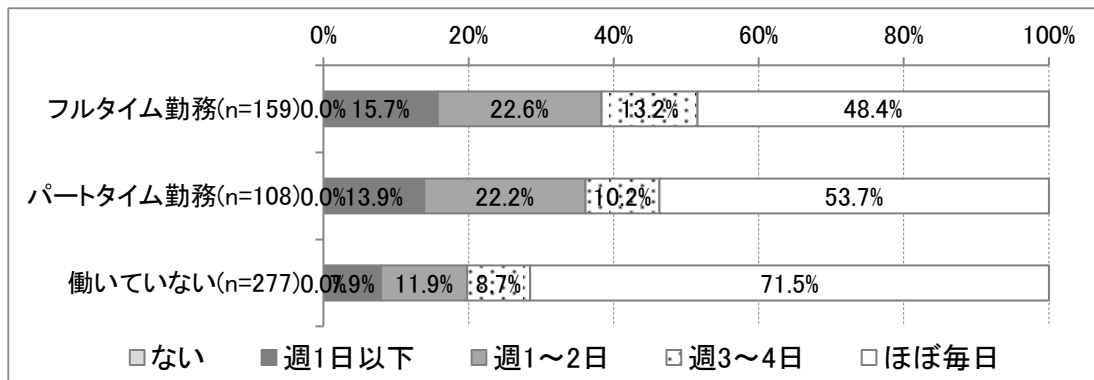
【着目すべきポイント】

- ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています(図表2-8、図表2-9)。
- 「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。
- 「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができます。
- なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の2つの指標に着目しています(図表2-10、図表2-11)。

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が48.4%ともっとも割合が高く、次いで「週1~2日」が22.6%、「週1日以下」が15.7%となっています。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が53.7%ともっとも割合が高く、次いで「週1~2日」が22.2%、「週1日以下」が13.9%となっています。「働いていない」では「ほぼ毎日」が71.5%ともっとも割合が高く、次いで「週1~2日」が11.9%、「週3~4日」が8.7%となっています。

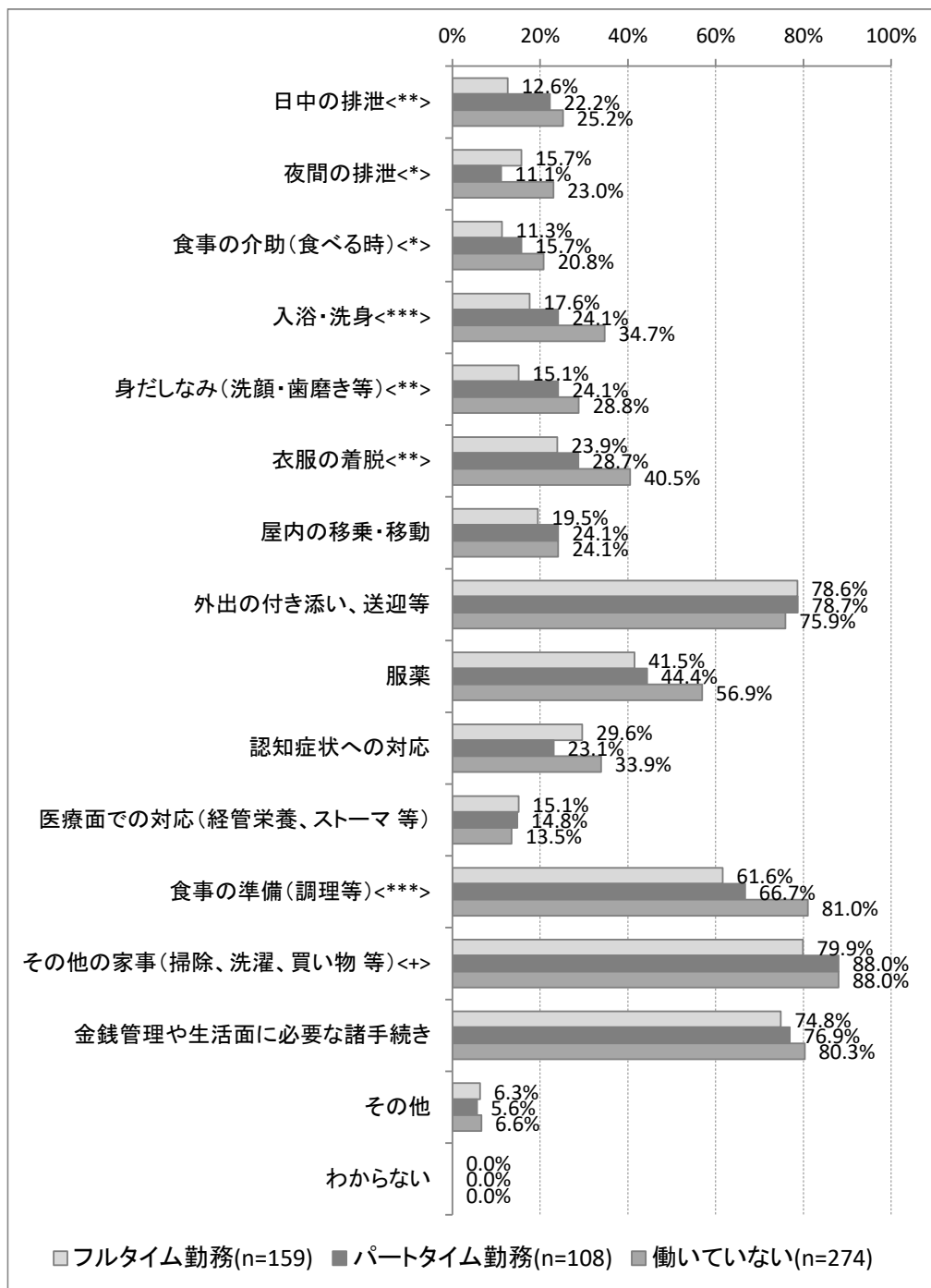
図表2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度<\*\*\*>



【就労状況別・★主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が79.9%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が78.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が74.8%となっています。「パートタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が88.0%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が78.7%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が76.9%となっています。「働いていない」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が88.0%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が81.0%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が80.3%となっています。

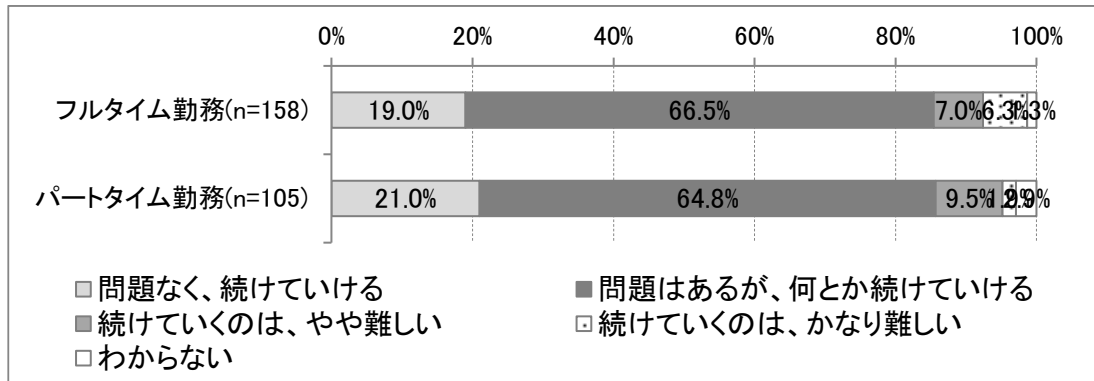
図表2-8 就労状況別・★主な介護者が行っている介護



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が66.5%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が19.0%、「続けていくのは、やや難しい」が7.0%となっています。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が64.8%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が21.0%、「続けていくのは、やや難しい」が9.5%となっています。

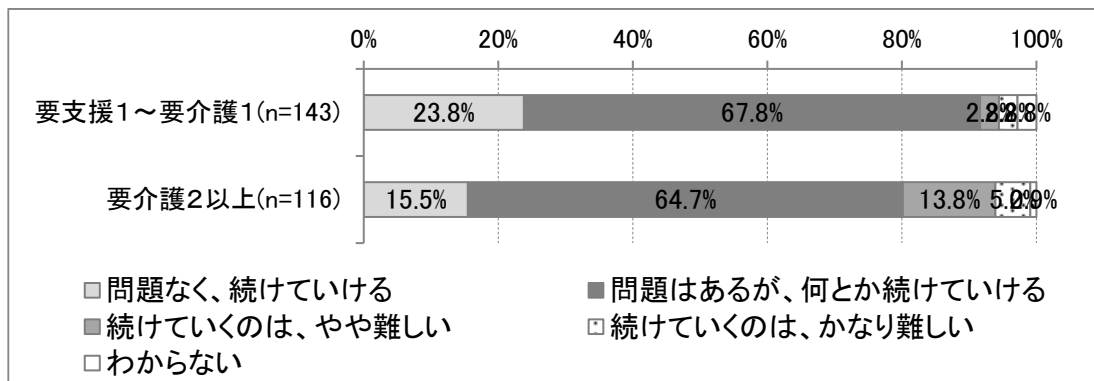
図表2-9 就労状況別・就労継続見込み



【要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が67.8%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が23.8%、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」、「わからない」が2.8%となっています。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が64.7%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が15.5%、「続けていくのは、やや難しい」が13.8%となっています。

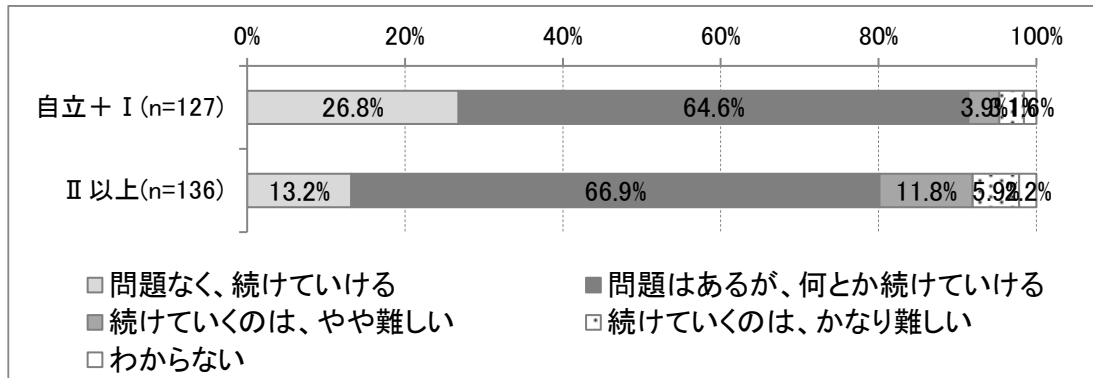
図表2-10 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務） <\*\*\*>



【認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「問題はあるが、何とか続けていける」が64.6%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が26.8%、「続けていくのは、やや難しい」が3.9%となっています。「Ⅱ以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が66.9%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が13.2%、「続けていくのは、やや難しい」が11.8%となっています。

図表2-11 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務） <\*>



(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

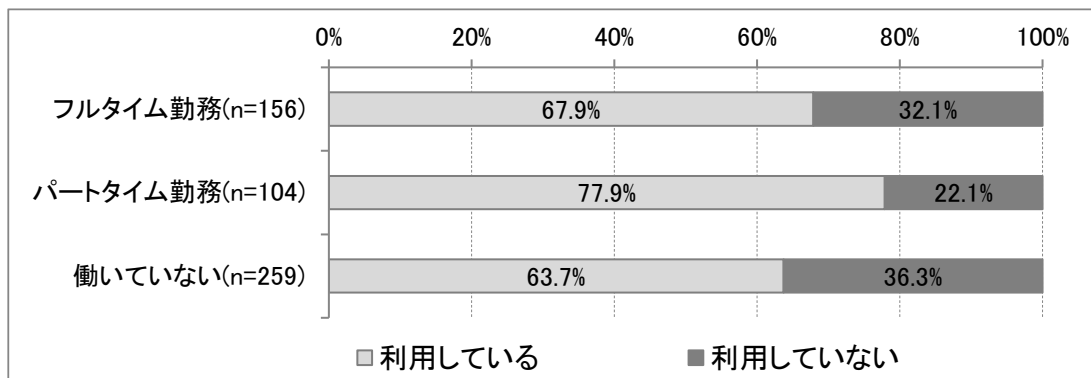
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています(図表2-12~図表2-15)。
- 「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができます。さらに、サービスを利用していない人の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える人が、そうでない人と比較して特徴がみられる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができます。
- 例えば、就労継続が困難と考える人において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないこととなります(図表2-13、図表2-14)。
- 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。

【就労状況別・★介護保険サービス利用の有無】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が67.9%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が32.1%となっています。「パートタイム勤務」では「利用している」が77.9%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が22.1%となっています。「働いていない」では「利用している」が63.7%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が36.3%となっています。

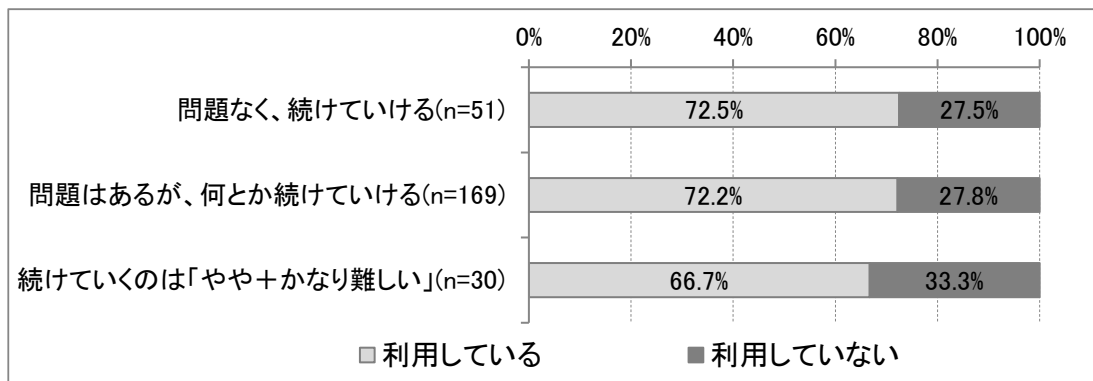
図表2-12 就労状況別・★介護保険サービス利用の有無<\*>



【就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が72.5%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が27.5%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が72.2%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が27.8%となっています。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「利用している」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が33.3%となっています。

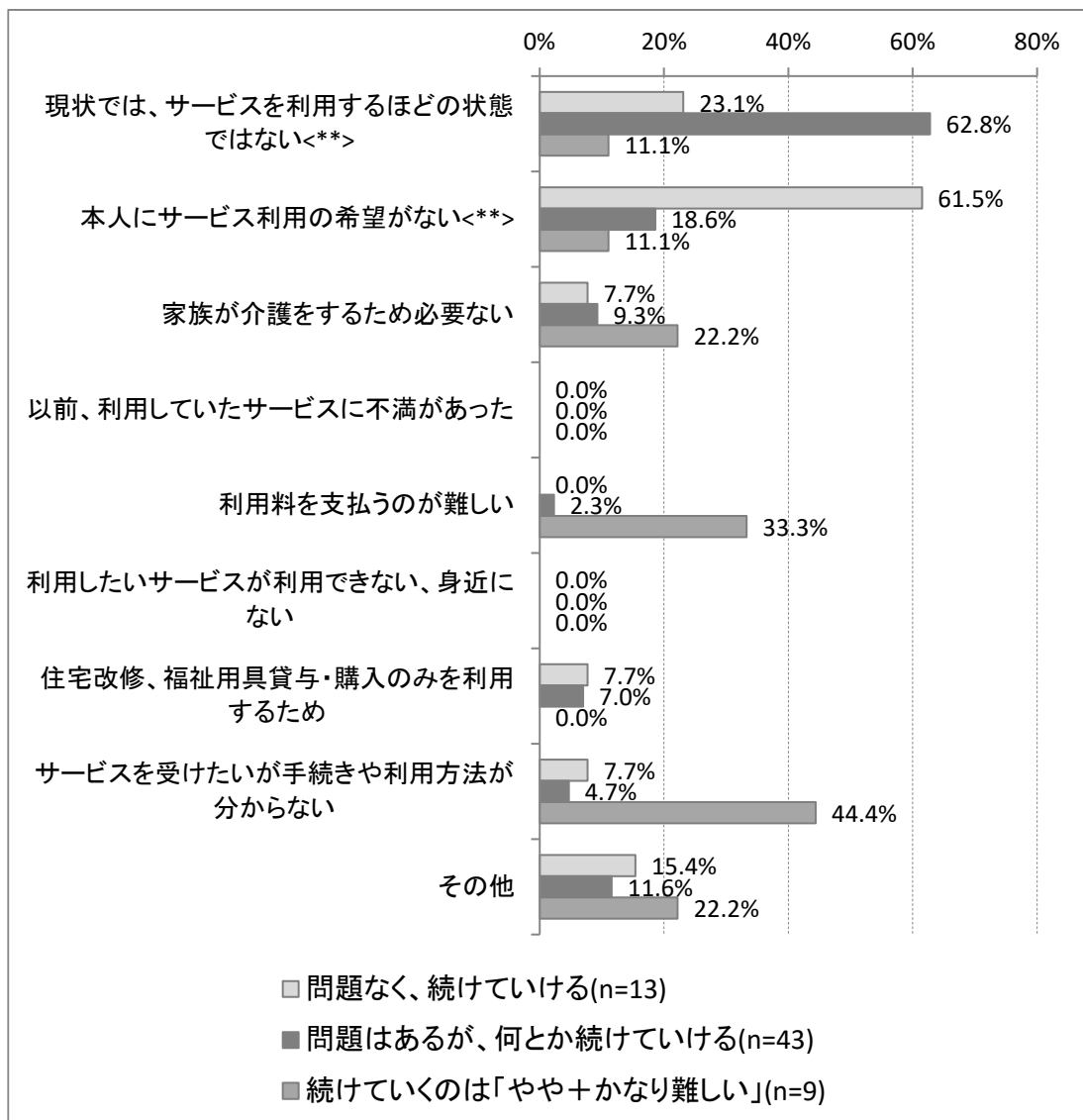
図表2-13 就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



【就労継続見込み別・★サービス未利用の理由（フルタイム勤務+パート勤務）】

未利用の理由を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「本人にサービス利用の希望がない」が61.5%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が23.1%、「その他」が15.4%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が62.8%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が18.6%、「その他」が11.6%となっています。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が44.4%ともっとも割合が高く、次いで「利用料を支払うのが難しい」が33.3%、「家族が介護をするため必要ない」、「その他」が22.2%となっています。

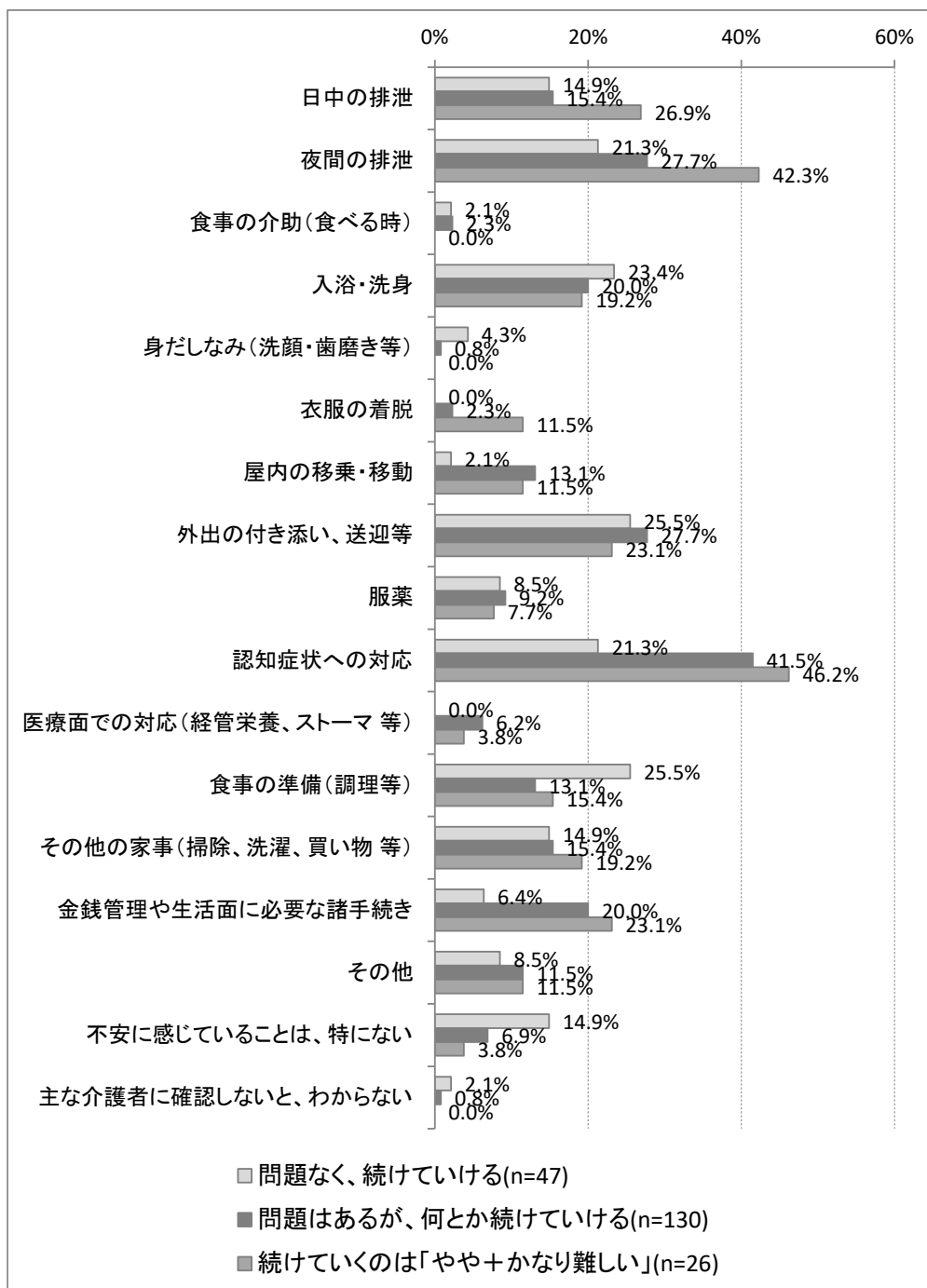
図表2-14 就労継続見込み別・★サービス未利用の理由（フルタイム勤務+パート勤務）



【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」が25.5%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が23.4%、「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が21.3%となっています。「問題はあがあるが、何とか続けていける」では「認知症状への対応」が41.5%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が27.7%、「入浴・洗身」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が20.0%となっています。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「認知症状への対応」が46.2%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が42.3%、「日中の排泄」が26.9%となっています。

図表2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

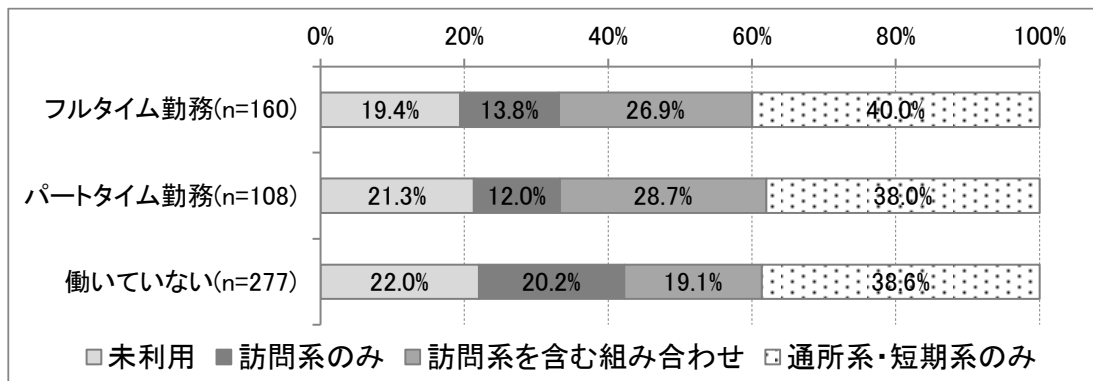
【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護2以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています(図表2-16～図表2-18)。
- ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差がみられるかどうかを把握することができます。
- また、「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.9%、「未利用」が19.4%となっています。「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が38.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が28.7%、「未利用」が21.3%となっています。「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が38.6%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が22.0%、「訪問系のみ」が20.2%となっています。

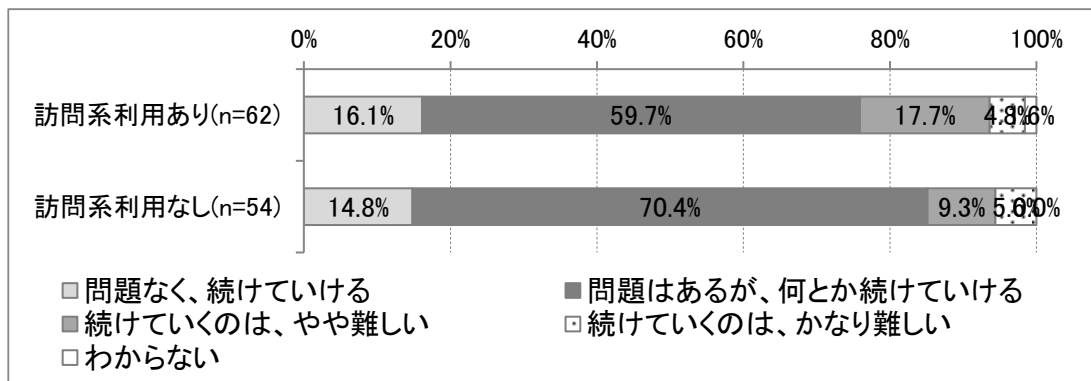
図表2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が59.7%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が17.7%、「問題なく、続けていける」が16.1%となっています。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が70.4%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が14.8%、「続けていくのは、やや難しい」が9.3%となっています。

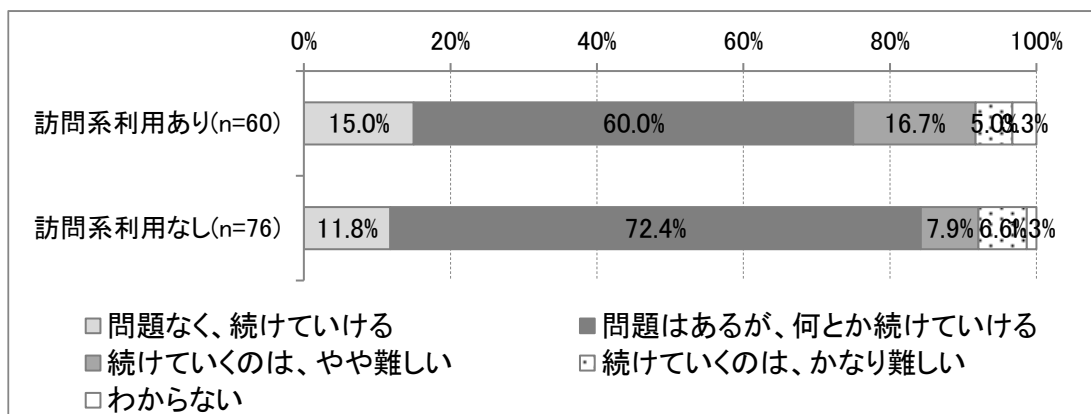
図表2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が60.0%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が16.7%、「問題なく、続けていける」が15.0%となっています。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が72.4%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が11.8%、「続けていくのは、やや難しい」が7.9%となっています。

図表2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）



#### (5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

##### 【着目すべきポイント】

- ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」、「訪問診療の利用の有無」、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています(図表2-19~図表2-22)。
- 「利用している保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差をみることにより、働いている介護者が必要と感じているが、実際には利用されていない生活支援サービスを把握することができます。
- また、「訪問診療の利用の有無」と就労状況との関係を集計分析することで、訪問診療の利用が就労状況により異なるかどうかを把握することができます。
- 「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としています。
- さらに、要介護2以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える人のうち、どの程度の人が施設を検討しているかに着目しています。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性と、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができます。

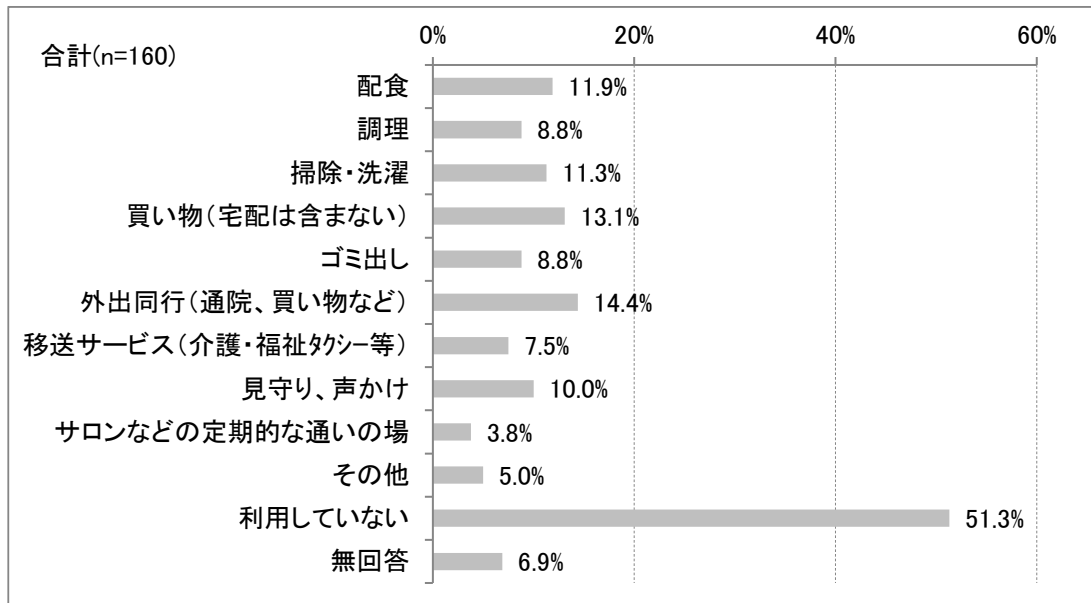
##### 【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。
- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。

【★利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）】

「利用していない」の割合が最も高く51.3%となっています。次いで、「外出同行（通院、買い物など）（14.4%）」、「買い物（宅配は含まない）（13.1%）」となっています。

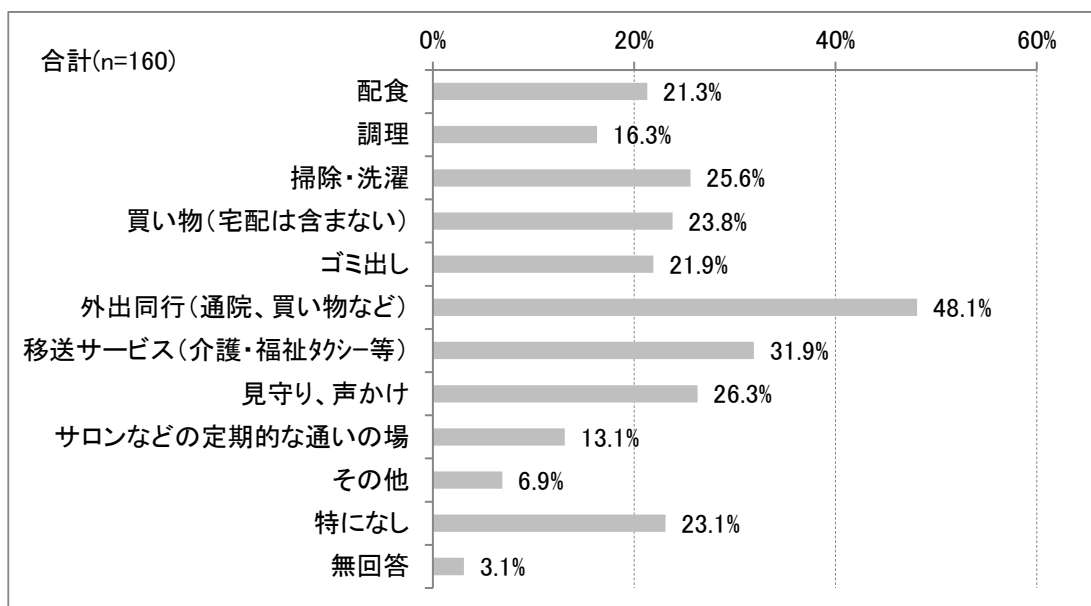
図表2-19\_1 ★利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



【★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）】

「外出同行（通院、買い物など）」の割合が最も高く48.1%となっています。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（31.9%）」、「見守り、声かけ（26.3%）」となっています。

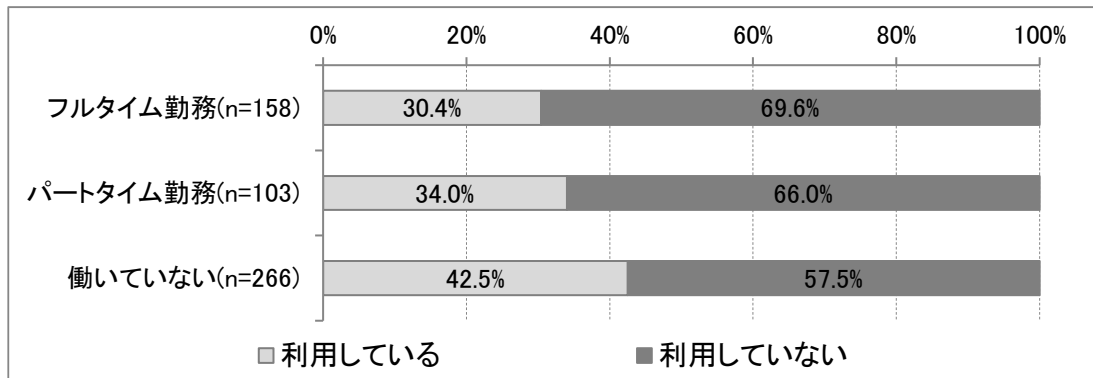
図表2-19\_2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



【就労状況別・★訪問診療の利用の有無】

訪問診療の利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用していない」が69.6%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が30.4%となっています。「パートタイム勤務」では「利用していない」が66.0%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が34.0%となっています。「働いていない」では「利用していない」が57.5%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が42.5%となっています。

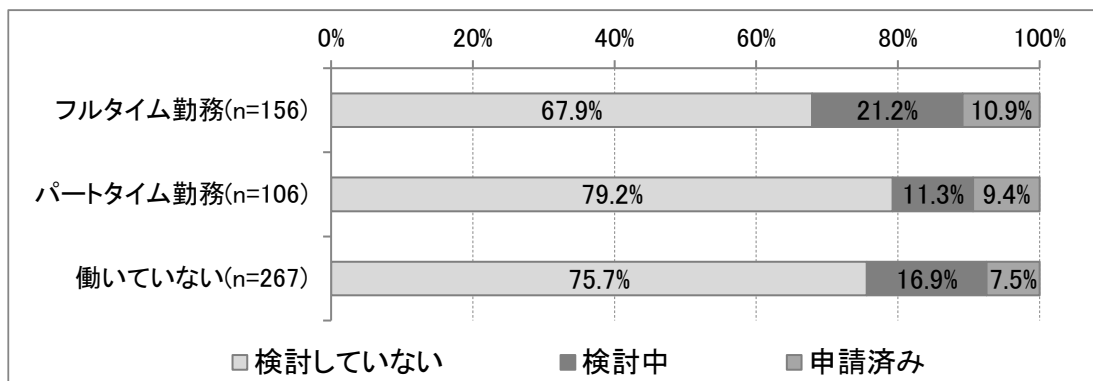
図表2-20 就労状況別・★訪問診療の利用の有無<\*>



【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が67.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が21.2%、「申請済み」が10.9%となっています。「パートタイム勤務」では「検討していない」が79.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が11.3%、「申請済み」が9.4%となっています。「働いていない」では「検討していない」が75.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が16.9%、「申請済み」が7.5%となっています。

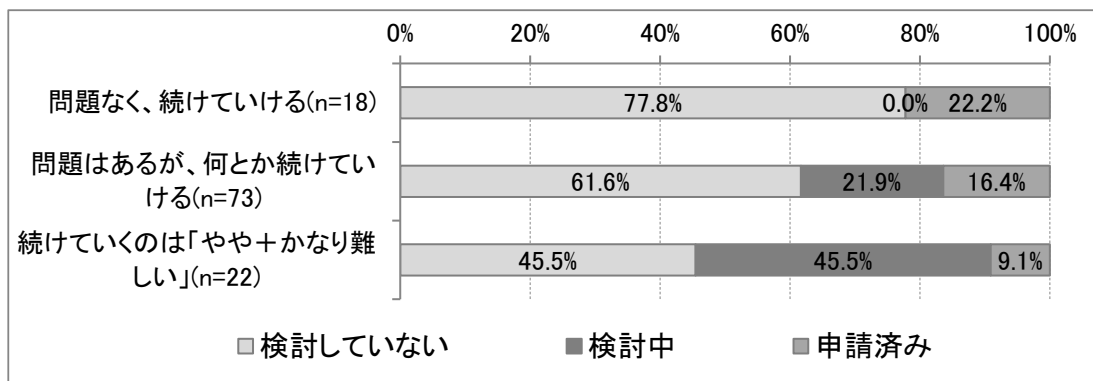
図表2-21 就労状況別・施設等検討の状況



【就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「検討していない」が77.8%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が22.2%、「検討中」が0.0%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が61.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が21.9%、「申請済み」が16.4%となっています。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「検討していない」、「検討中」が45.5%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が9.1%となっています。

図表2-22 就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）<\*>



#### (6) 労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

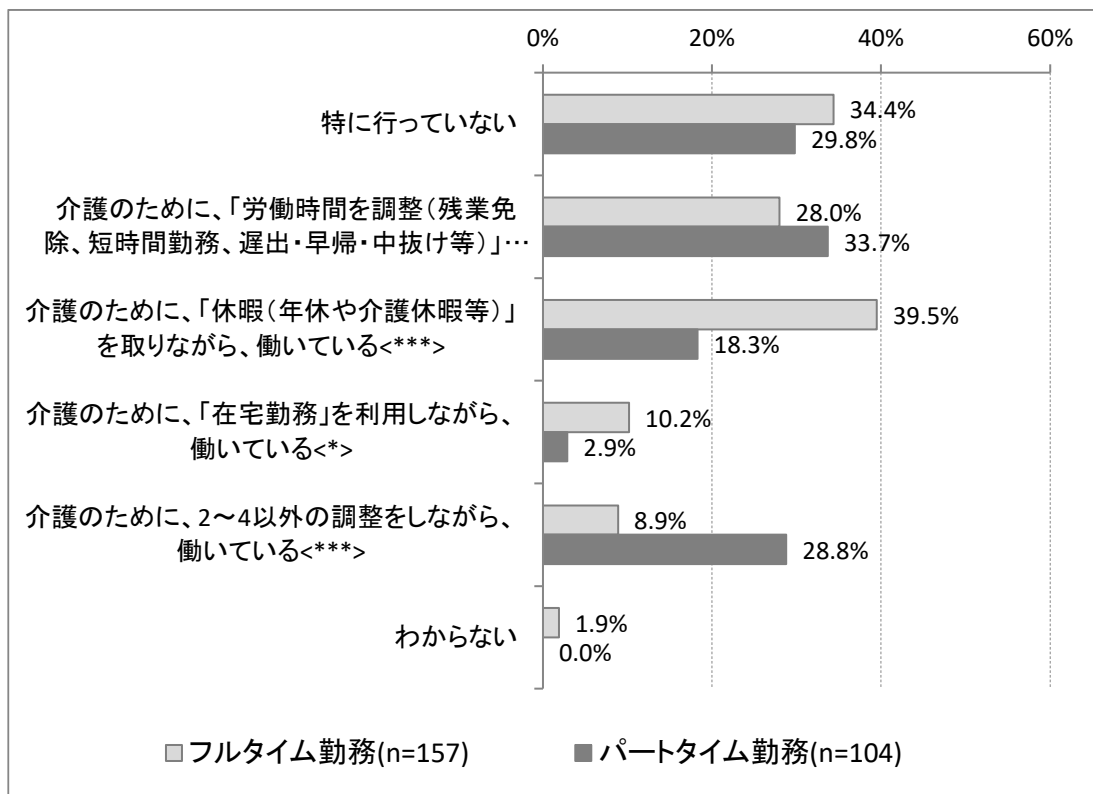
##### 【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護のための働き方の調整」と、「効果的な勤め先からの支援」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています(図表2-23~図表2-26)。
- 就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。
- ただし、「問題なく、続けていける」とする人において、働き方の調整を「特に行っていない」割合、もしくは効果的な勤め先の支援として「特にない」が高いケースは、職場が恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況にはなく、介護のために特段働き方の調整や勤め先からの支援を行わなくても、両立可能な職場であることが考えられます。
- このように、職場の状況や業務の内容によっても、必要な調整や支援の内容が異なることに留意することが必要です。

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が39.5%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が34.4%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が28.0%となっています。「パートタイム勤務」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が33.7%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が29.8%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が28.8%となっています。

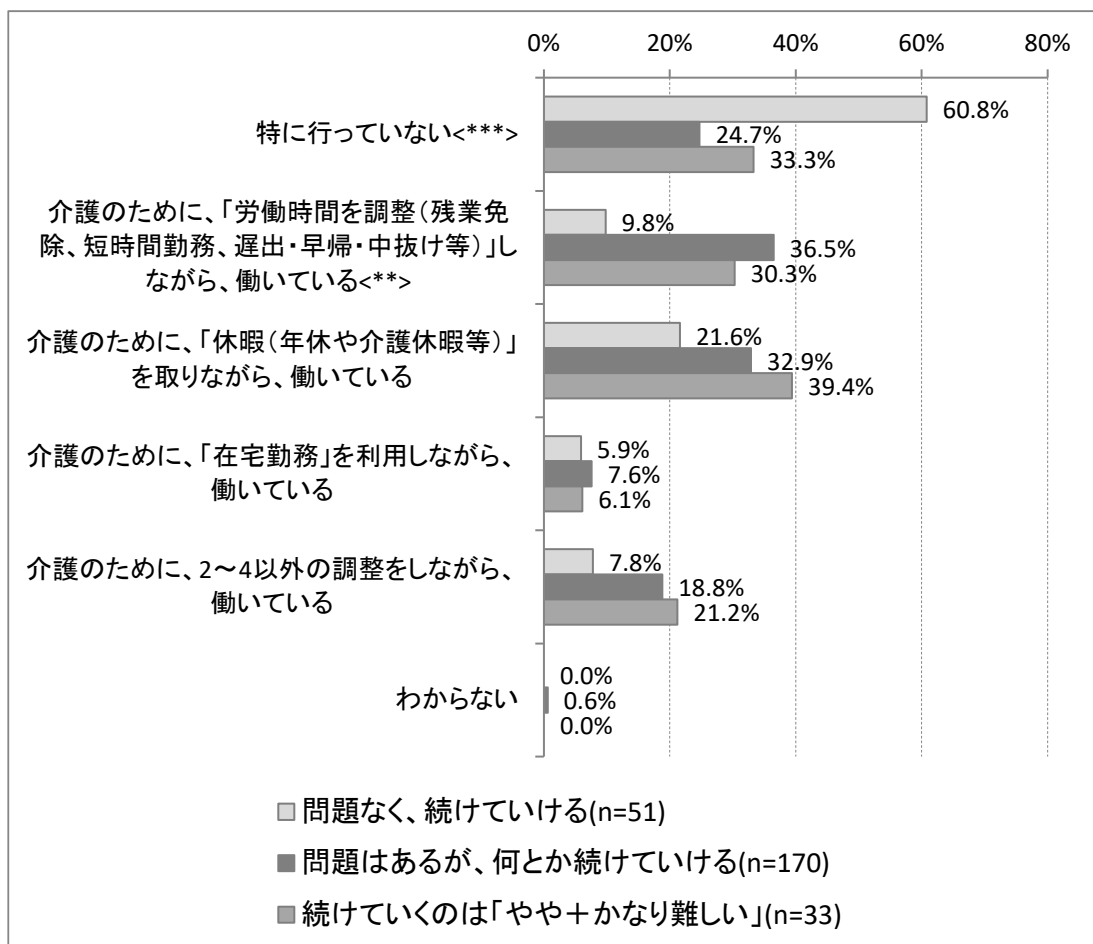
図表2-23 就労状況別・介護のための働き方の調整



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が60.8%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が21.6%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が9.8%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が36.5%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が32.9%、「特に行っていない」が24.7%となっています。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が39.4%ともっとも割合が高く、次いで「特に行っていない」が33.3%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が30.3%となっています。

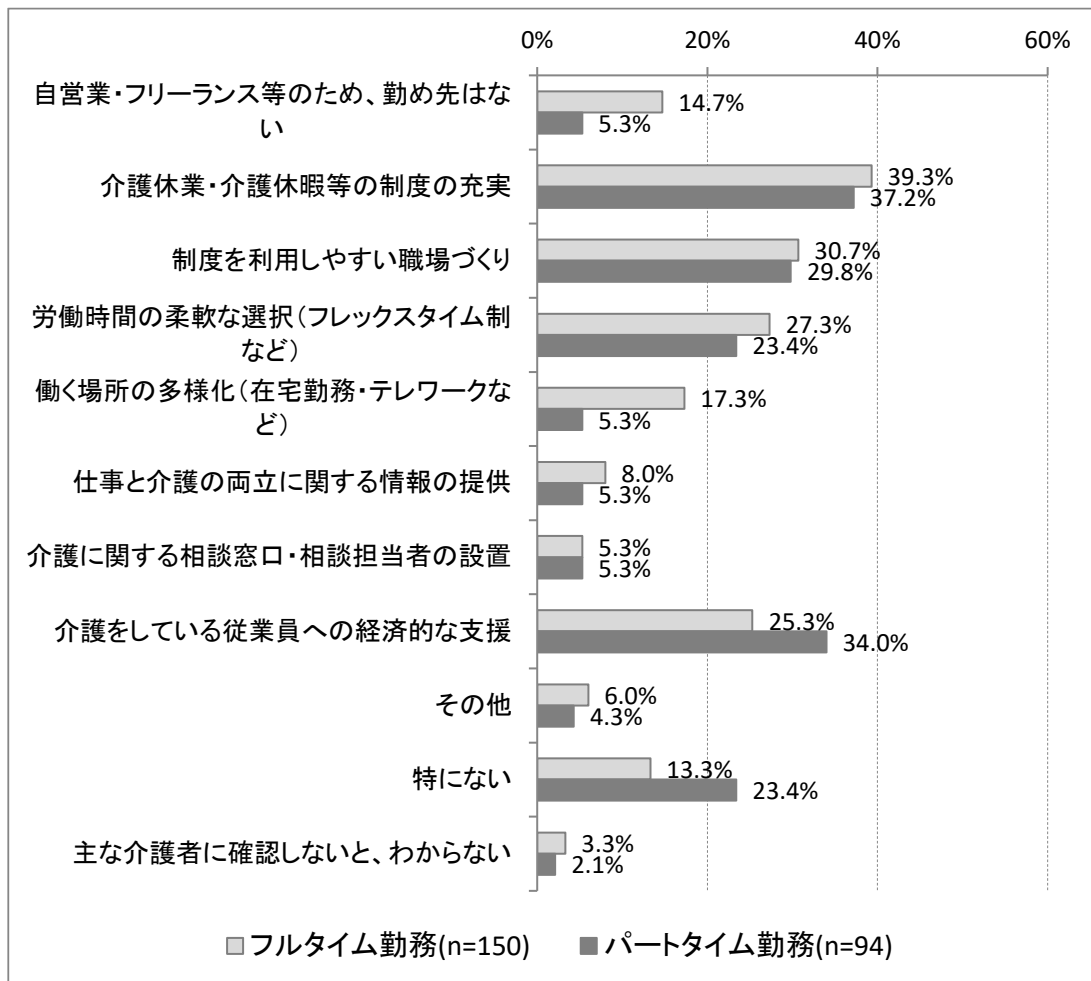
図表2-24 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



【就労状況別・★効果的な勤め先からの支援】

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が39.3%ともっとも割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が30.7%、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が27.3%となっています。「パートタイム勤務」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が37.2%ともっとも割合が高く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が34.0%、「制度を利用しやすい職場づくり」が29.8%となっています。

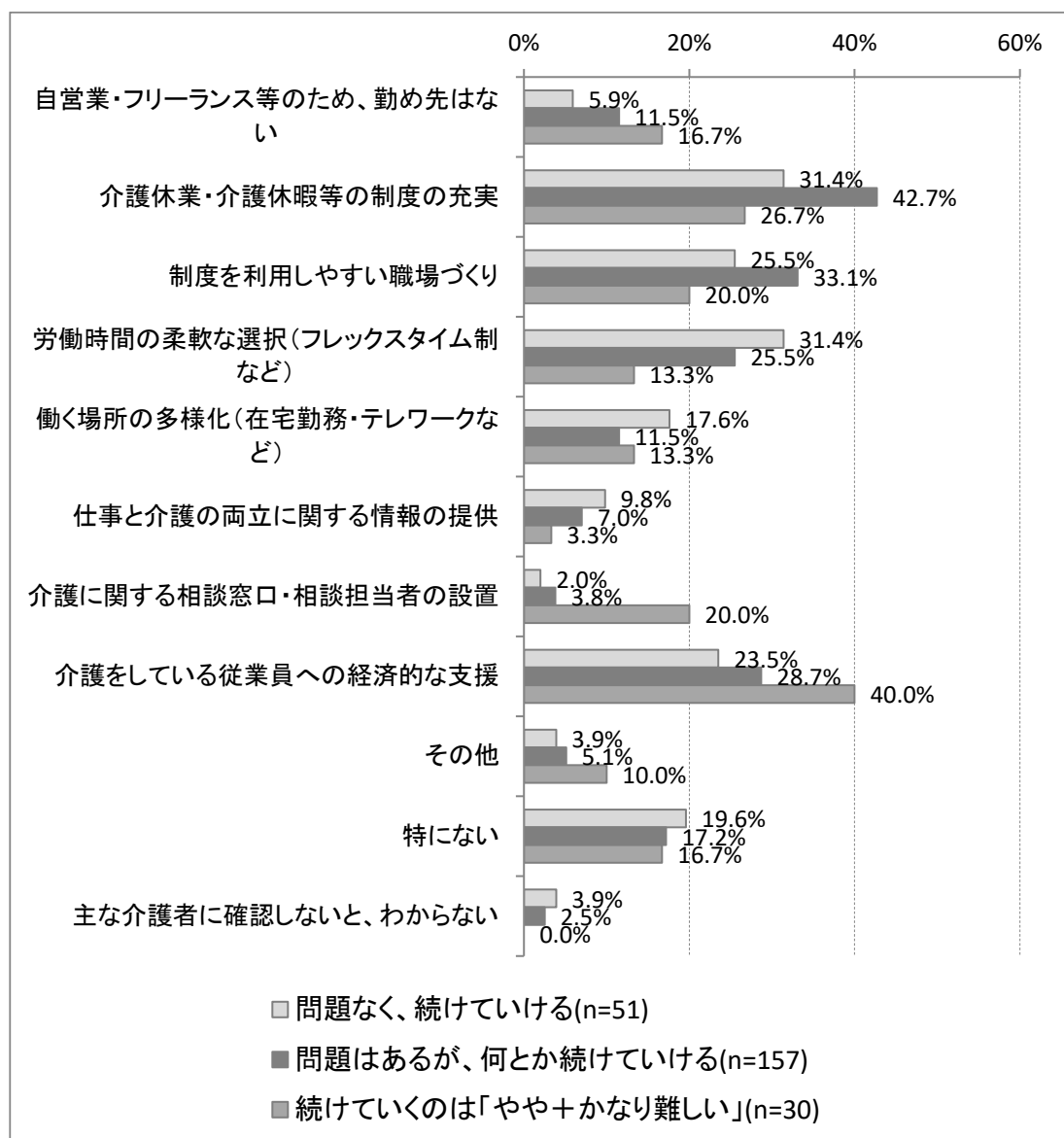
図表2-25 就労状況別・★効果的な勤め先からの支援



【就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

効果的な勤め先からの支援を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が31.4%ともっとも割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が25.5%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が23.5%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が42.7%ともっとも割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が33.1%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が28.7%となっています。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「介護をしている従業員への経済的な支援」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が26.7%、「制度を利用しやすい職場づくり」、「介護に関する相談窓口・相談担当者の設置」が20.0%となっています。

図表2-26 就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



### 3. 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

#### 3. 1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。
- 具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行います。
- なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していません。

#### 3. 2 集計結果と着目すべきポイント

##### (1) 基礎集計

##### 【着目すべきポイント】

- 「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表3-1、図表3-2）。
- 例えば、「保険外の支援・サービスの利用状況」については、現状の把握のみでなく、保険外の支援・サービスの利用促進の取組に係るアウトプットとして、その「利用割合」を設定することで、経年的にその成果をモニタリングしていくことも可能になると考えられます。
- さらに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」からは、在宅限界点の向上という地域目標の達成に向けて、その地域において特に重要となる支援・サービスの種類を把握することができます。

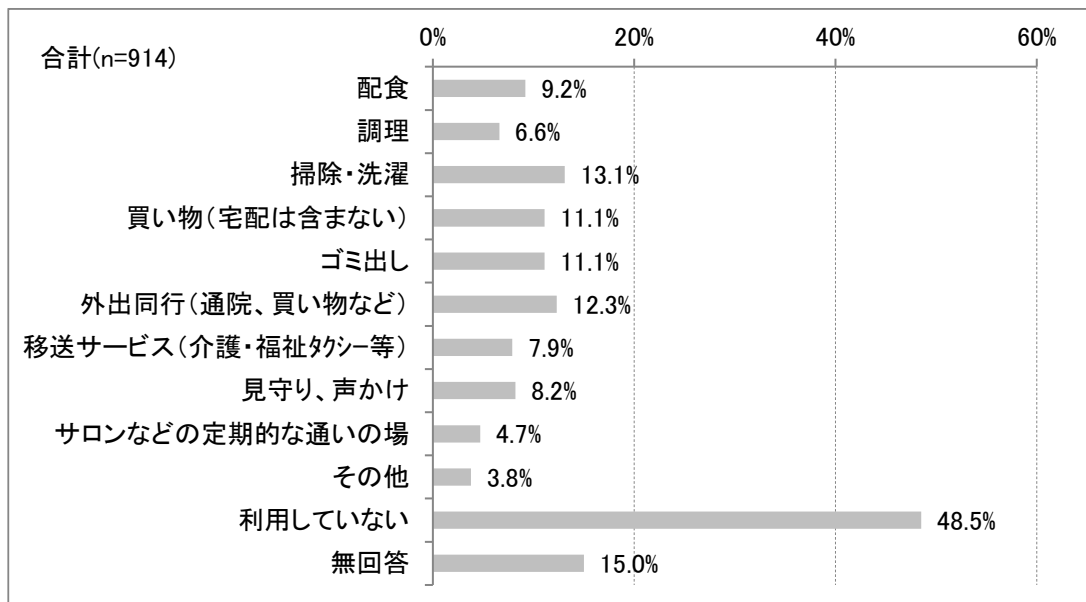
##### 【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。

【★保険外の支援・サービスの利用状況】

「利用していない」の割合が最も高く48.5%となっています。次いで、「掃除・洗濯（13.1%）」、「外出同行（通院、買い物など）（12.3%）」となっています。

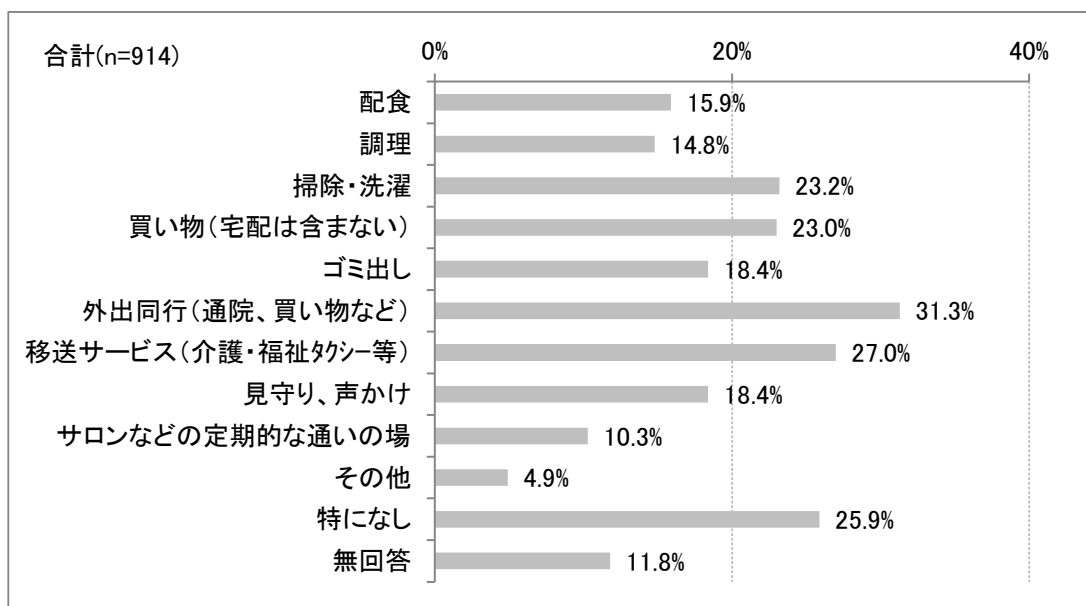
図表3-1 ★保険外の支援・サービスの利用状況



【★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

「外出同行（通院、買い物など）」の割合が最も高く31.3%となっています。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（27.0%）」、「特になし（25.9%）」となっています。

図表3-2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



## (2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

### 【着目すべきポイント】

- 世帯類型別に「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています(図表3-3、図表3-4)。
- 「保険外の支援・サービスの利用割合」については、世帯類型別の割合をアウトプット指標としてモニタリングしていくも考えられます。
- また、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、世帯類型別に異なる傾向がみられた場合は、世帯類型に応じたアプローチを検討していくことが重要になると考えられます。

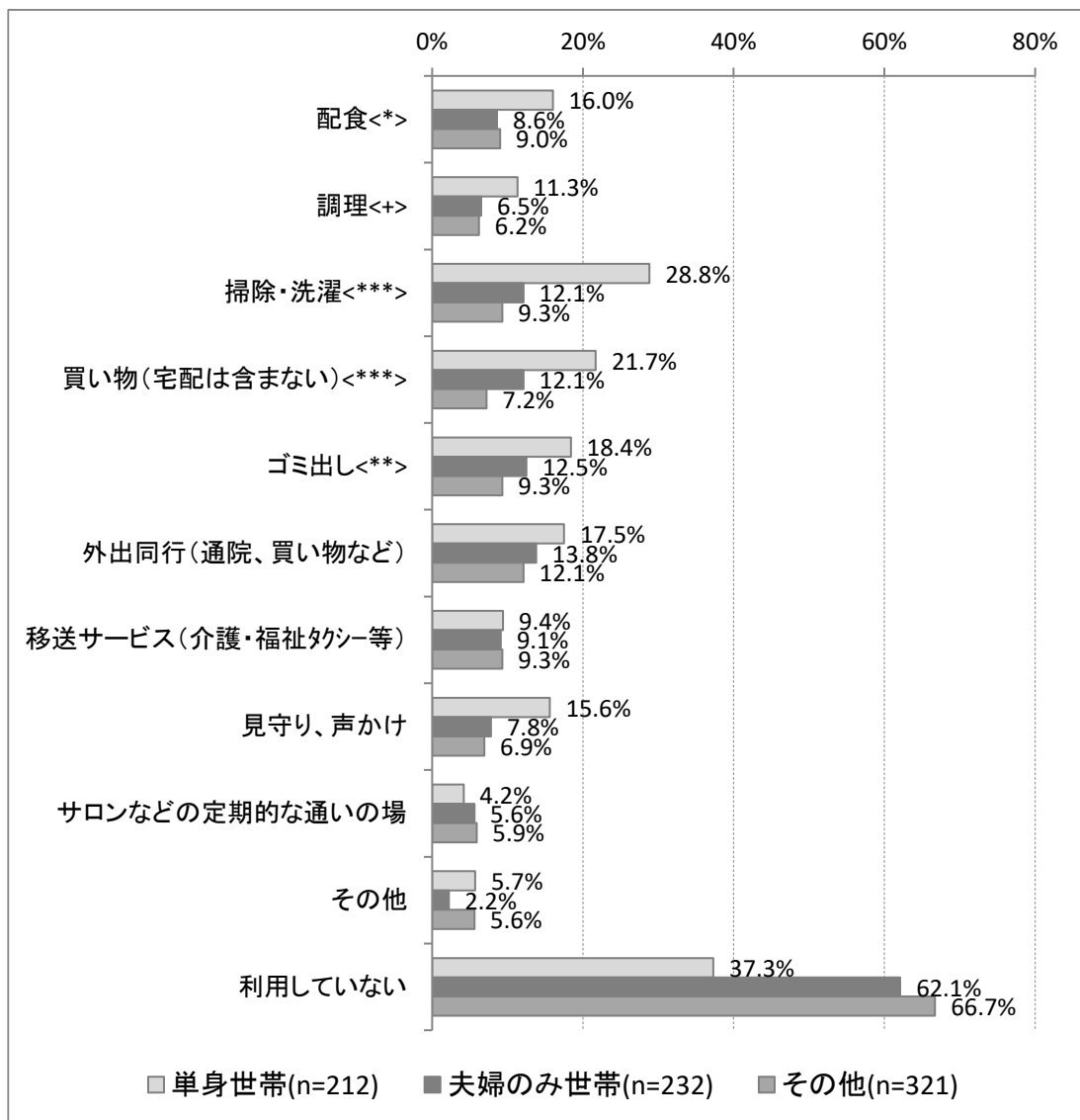
### 【留意事項】

- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。
- 「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、特に「複数の支援・サービスを比較して、より優先順位の高い支援・サービスを明らかにする」といった視点でみることが重要です。

【世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が37.3%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が28.8%、「買い物(宅配は含まない)」が21.7%となっています。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が62.1%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が13.8%、「ゴミ出し」が12.5%となっています。「その他」では「利用していない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が12.1%、「掃除・洗濯」、「ゴミ出し」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が9.3%となっています。

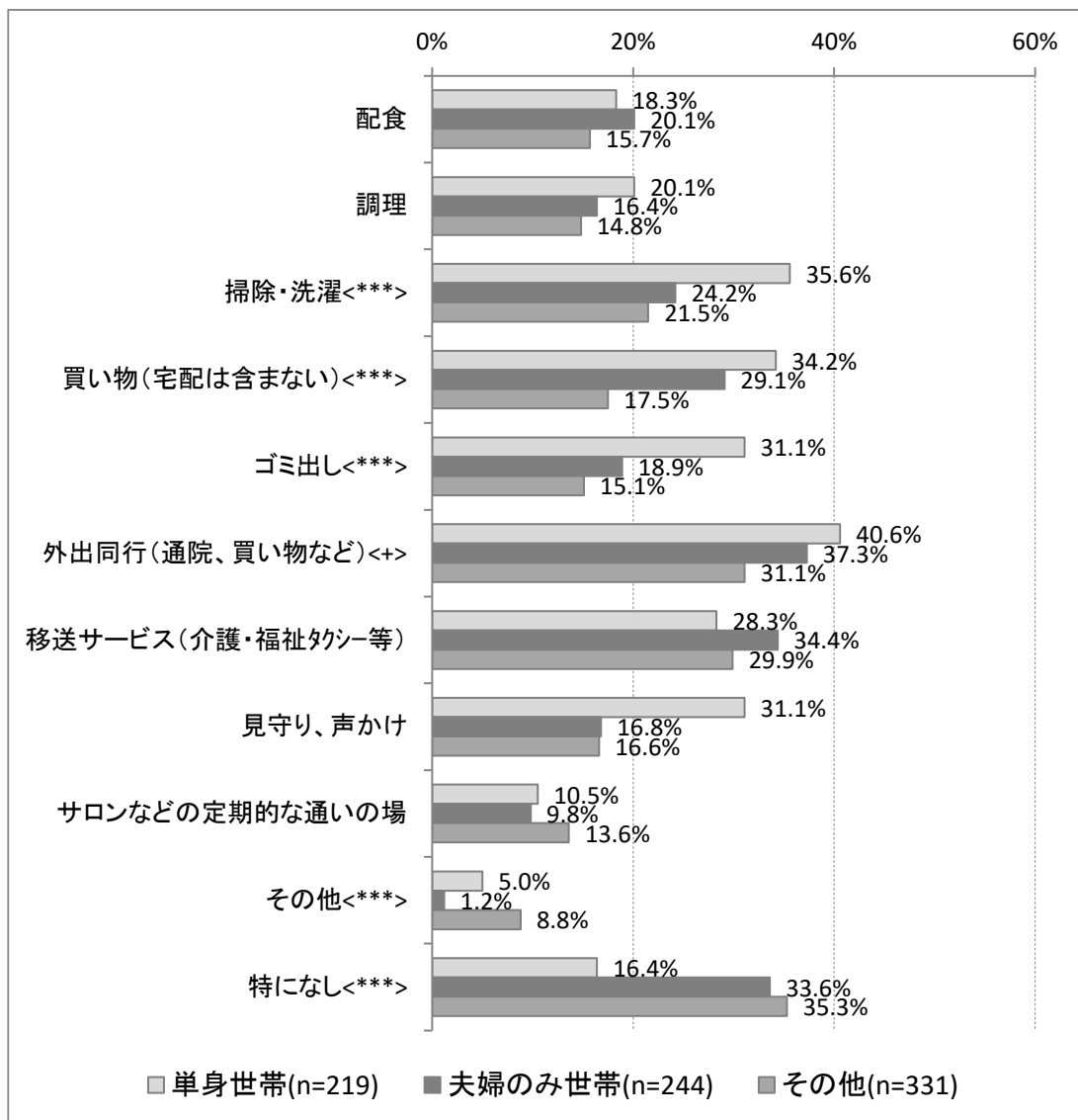
図表3-3 世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況



【世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「外出同行（通院、買い物など）」が40.6%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が35.6%、「買い物（宅配は含まない）」が34.2%となっています。「夫婦のみ世帯」では「外出同行（通院、買い物など）」が37.3%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が34.4%、「特になし」が33.6%となっています。「その他」では「特になし」が35.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が31.1%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が29.9%となっています。

図表3-4 世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

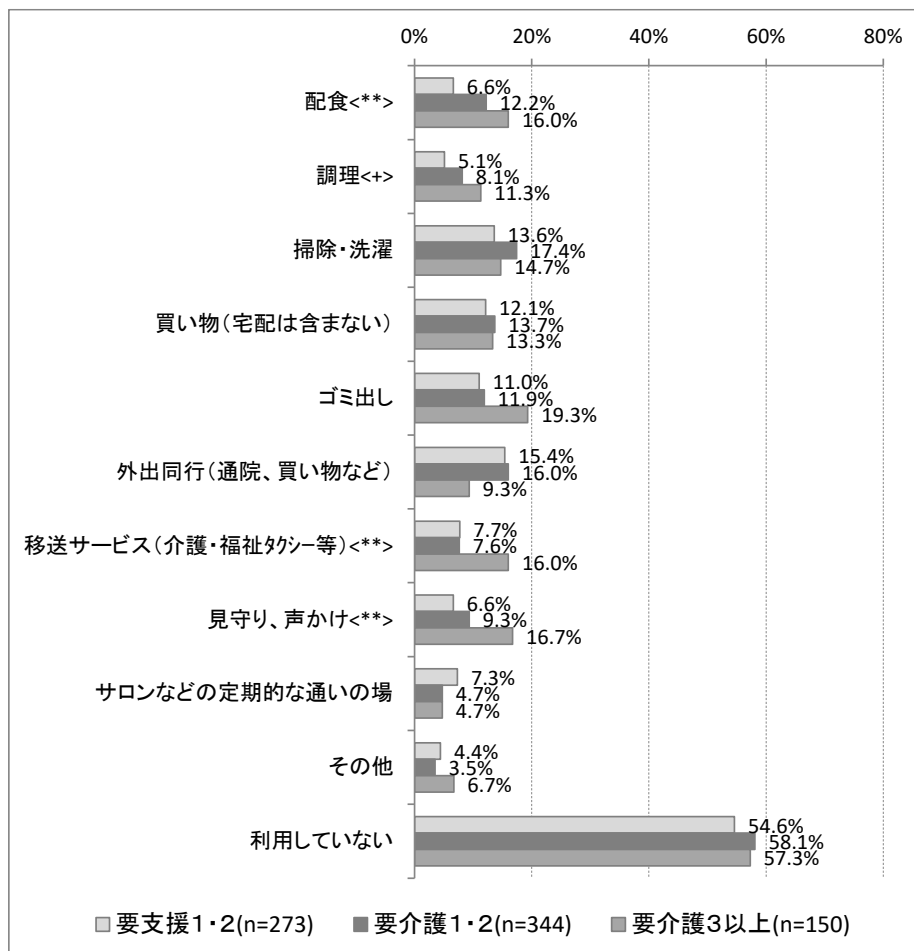
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「保険外の支援・サービスの利用状況」について、集計分析をしています(図表3-5~図表3-8)。
- 利用割合の低い世帯類型であっても、要介護度の重度化に伴い利用割合が増加している支援・サービスがあることも考えられます。
- 介護保険サービスと同様、重度化に伴い、どのような支援・サービスの利用割合が増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような支援・サービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。

【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が54.6%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が15.4%、「掃除・洗濯」が13.6%となっています。「要介護1・2」では「利用していない」が58.1%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が17.4%、「外出同行(通院、買い物など)」が16.0%となっています。「要介護3以上」では「利用していない」が57.3%と最も割合が高く、次いで「ゴミ出し」が19.3%、「見守り、声かけ」が16.7%となっています。

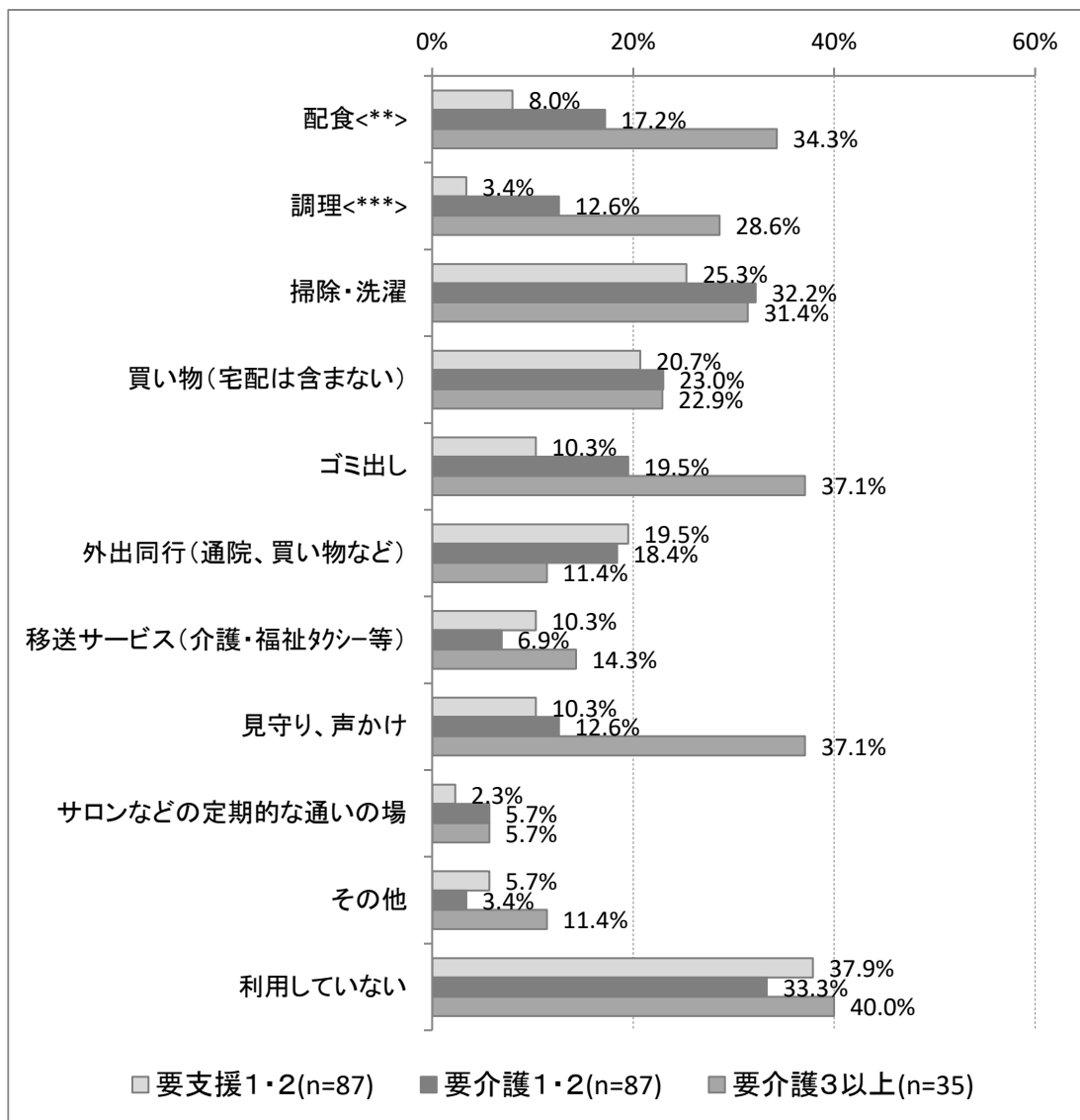
図表3-5 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が37.9%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が25.3%、「買い物（宅配は含まない）」が20.7%となっています。「要介護1・2」では「利用していない」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が32.2%、「買い物（宅配は含まない）」が23.0%となっています。「要介護3以上」では「利用していない」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「ゴミ出し」、「見守り、声かけ」が37.1%、「配食」が34.3%となっています。

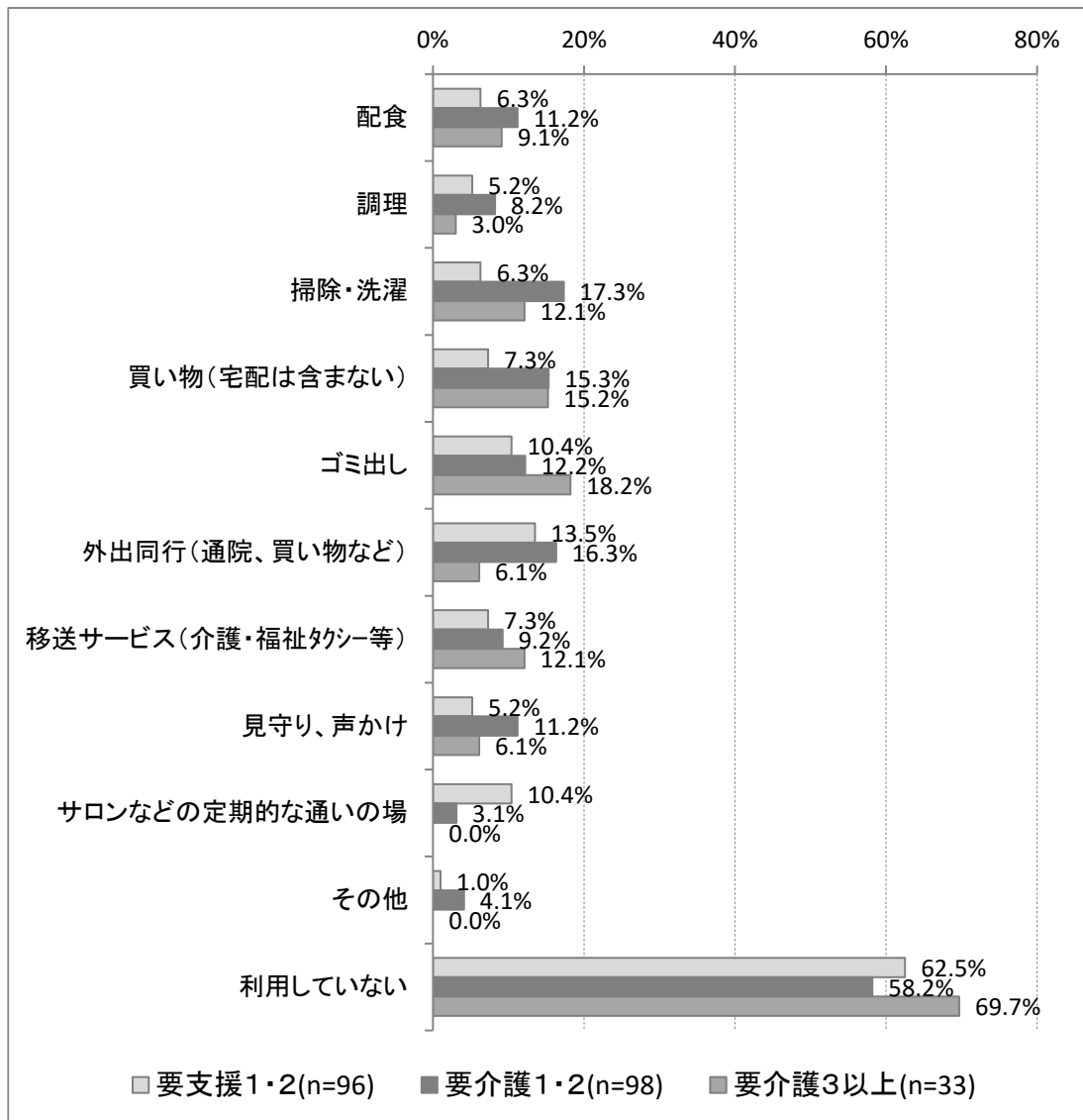
図表3-6 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が62.5%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が13.5%、「ゴミ出し」、「サロンなどの定期的な通いの場」が10.4%となっています。「要介護1・2」では「利用していない」が58.2%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が17.3%、「外出同行（通院、買い物など）」が16.3%となっています。「要介護3以上」では「利用していない」が69.7%ともっとも割合が高く、次いで「ゴミ出し」が18.2%、「買い物（宅配は含まない）」が15.2%となっています。

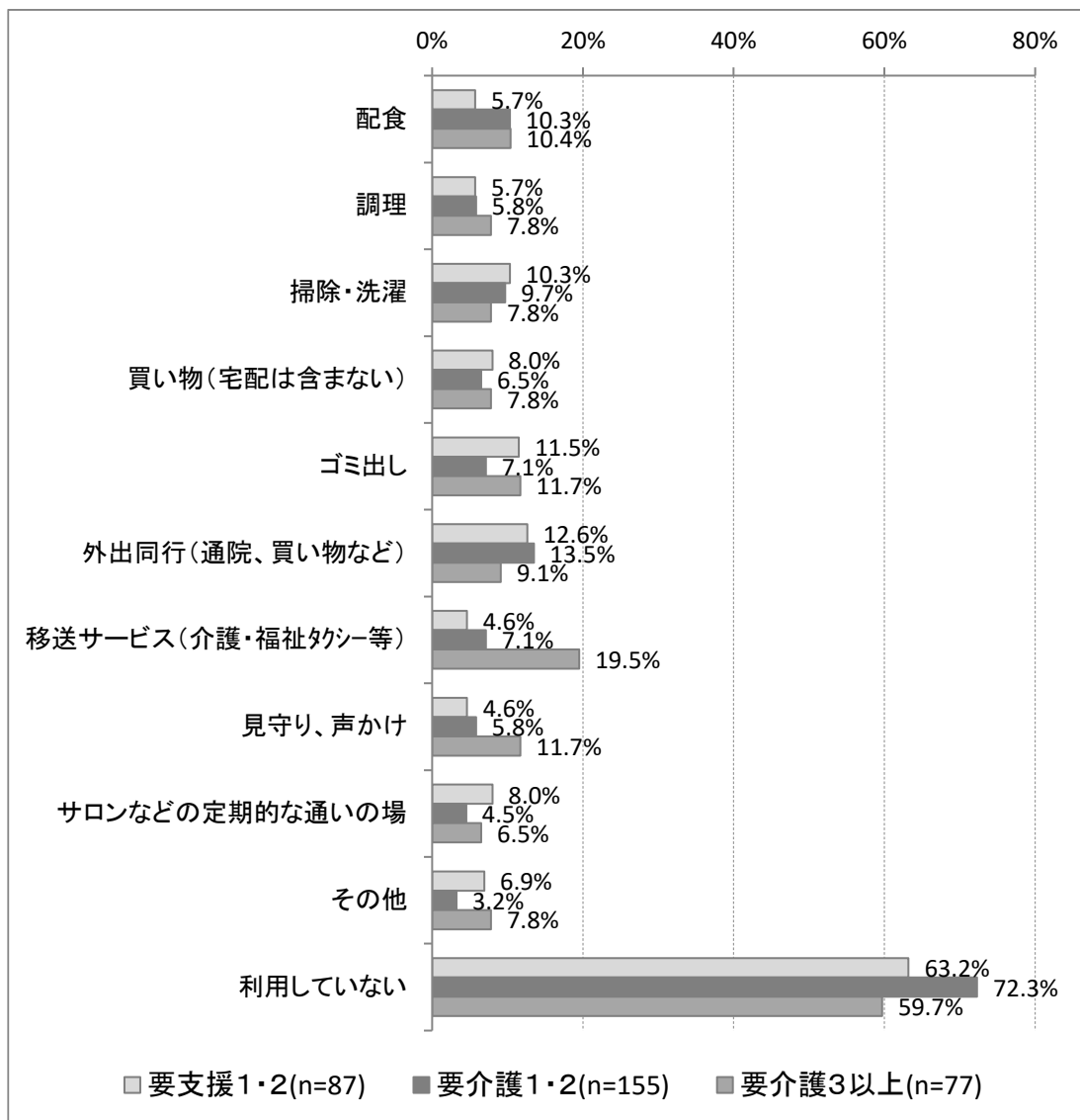
図表3-7 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が63.2%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が12.6%、「ゴミ出し」が11.5%となっています。「要介護1・2」では「利用していない」が72.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が13.5%、「配食」が10.3%となっています。「要介護3以上」では「利用していない」が59.7%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が19.5%、「ゴミ出し」、「見守り、声かけ」が11.7%となっています。

図表3-8 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）



(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

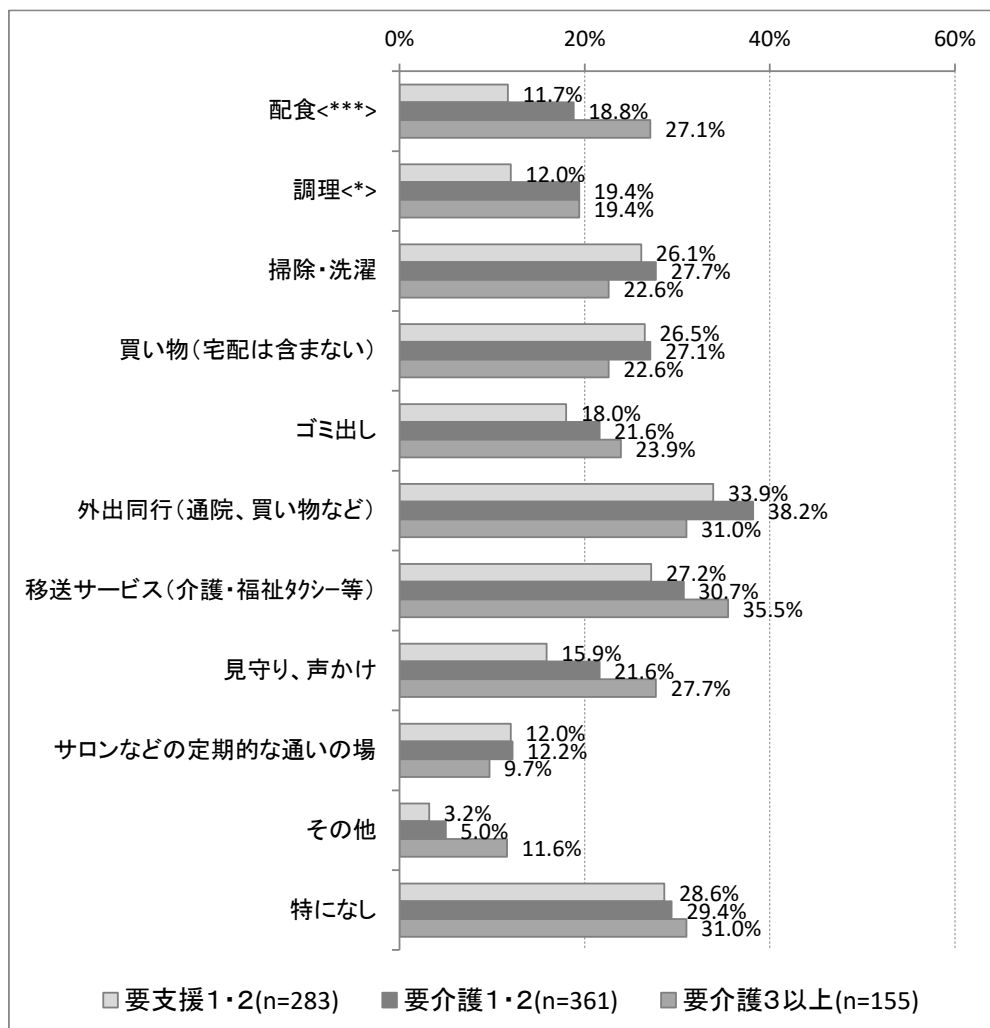
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています(図表3-9~図表3-12)。
- 特に、各世帯類型の要介護度別のニーズに着目しながら、各地域の実情に応じた取組を推進していく必要があります。

【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出同行(通院、買い物など)」が33.9%と最も割合が高く、次いで「特になし」が28.6%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が27.2%となっています。「要介護1・2」では「外出同行(通院、買い物など)」が38.2%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が30.7%、「特になし」が29.4%となっています。「要介護3以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が35.5%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」、「特になし」が31.0%、「見守り、声かけ」が27.7%となっています。

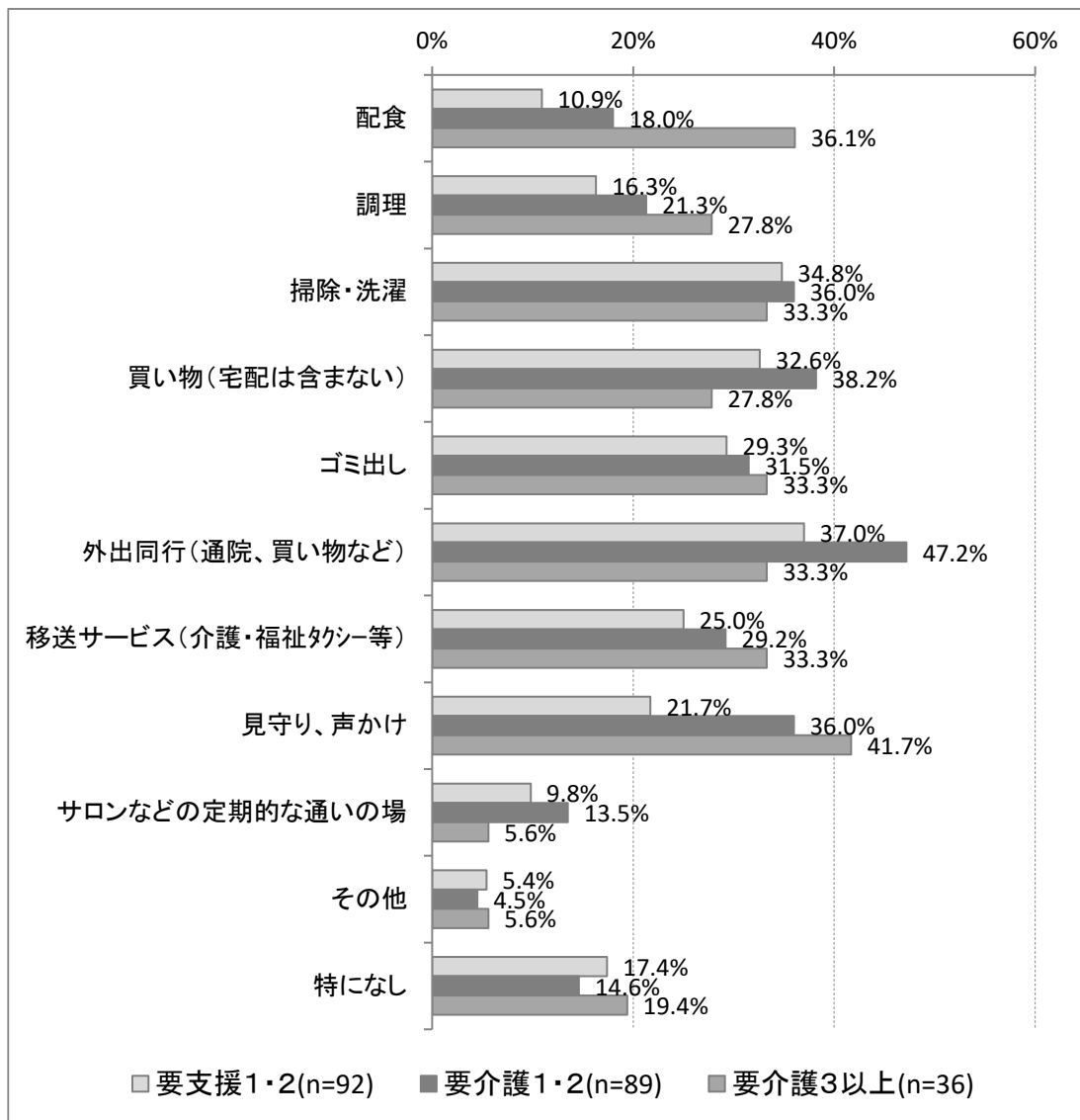
図表3-9 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出同行（通院、買い物など）」が37.0%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が34.8%、「買い物（宅配は含まない）」が32.6%となっています。「要介護1・2」では「外出同行（通院、買い物など）」が47.2%ともっとも割合が高く、次いで「買い物（宅配は含まない）」が38.2%、「掃除・洗濯」、「見守り、声かけ」が36.0%となっています。「要介護3以上」では「見守り、声かけ」が41.7%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が36.1%、「掃除・洗濯」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が33.3%となっています。

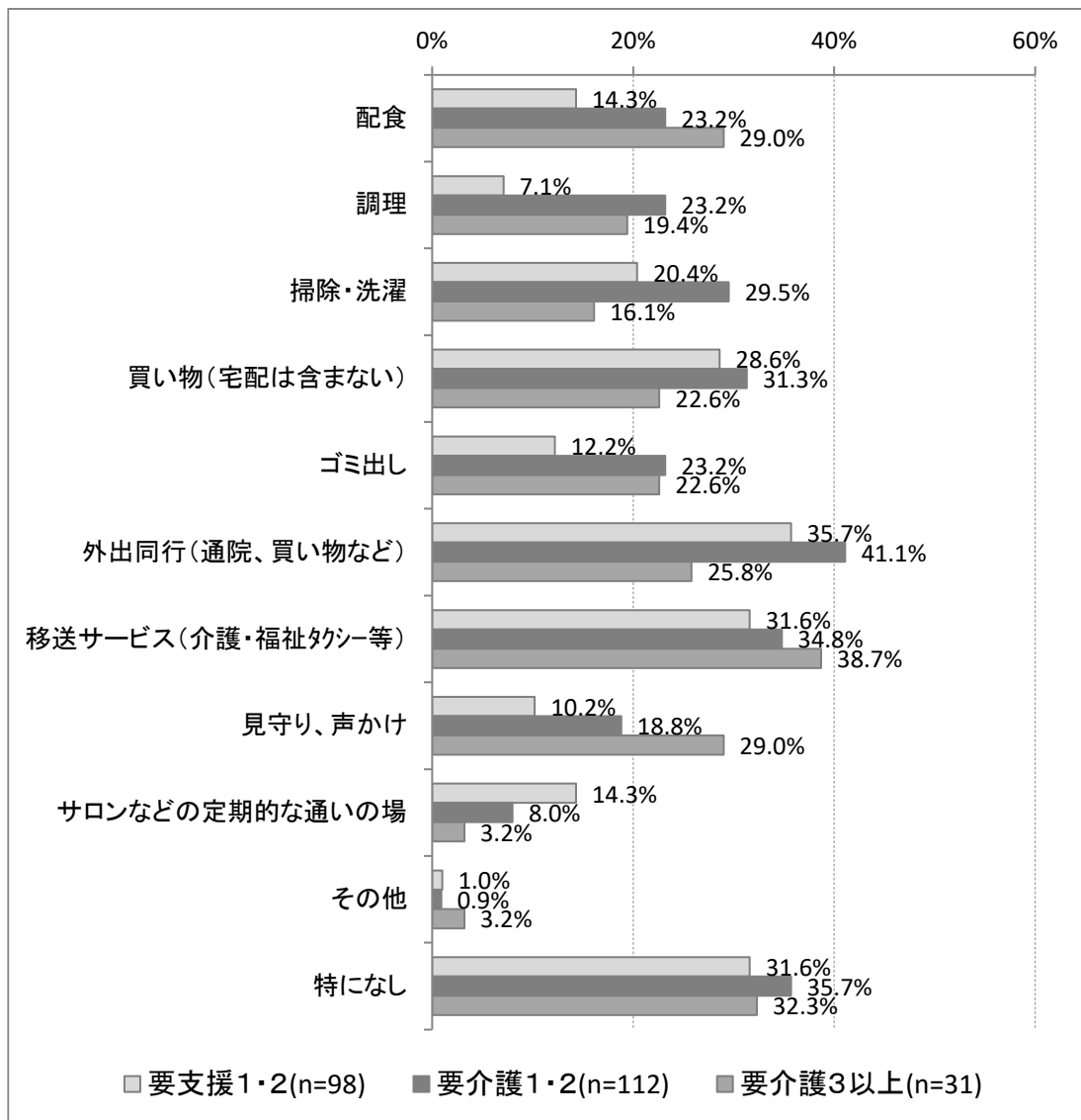
図表3-10 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出同行（通院、買い物など）」が35.7%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が31.6%、「特になし」が31.6%、「買い物（宅配は含まない）」が28.6%となっています。「要介護1・2」では「外出同行（通院、買い物など）」が41.1%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が35.7%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が34.8%となっています。「要介護3以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が38.7%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が32.3%、「配食」、「見守り、声かけ」が29.0%となっています。

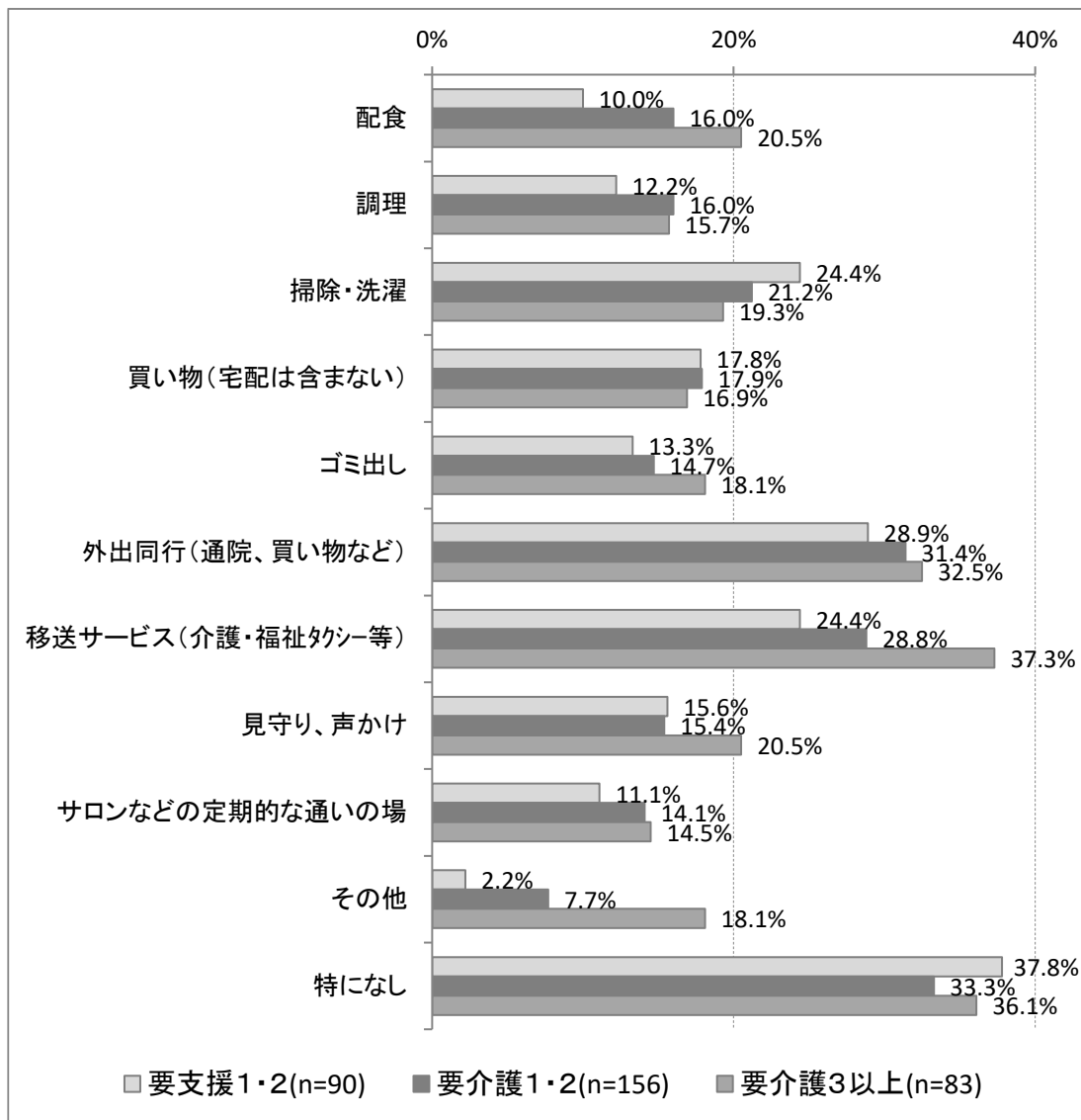
図表3-11 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が37.8%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が28.9%、「掃除・洗濯」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が24.4%となっています。「要介護1・2」では「特になし」が33.3%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が31.4%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が28.8%となっています。「要介護3以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が37.3%と最も割合が高く、次いで「特になし」が36.1%、「外出同行（通院、買い物など）」が32.5%となっています。

図表3-12 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



## 4. 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

### 4. 1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。
- 将来の高齢世帯の世帯類型の構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

### 4. 2 集計結果と着目すべきポイント

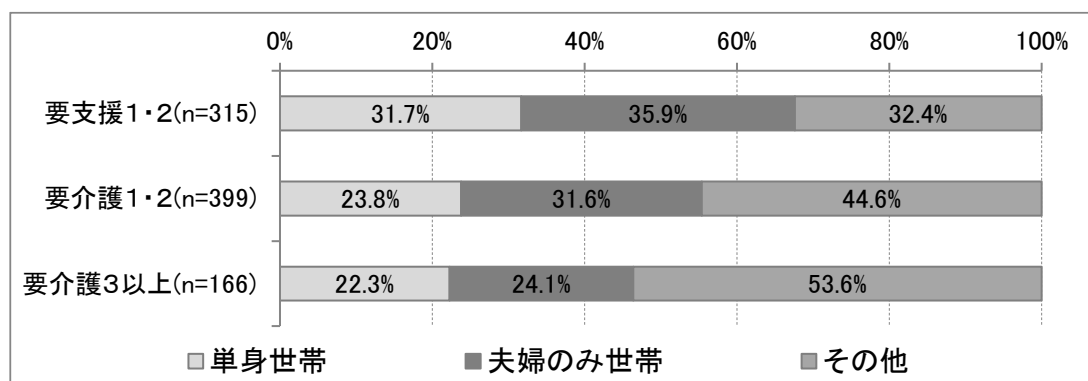
#### (1) 基礎集計

- 「要介護度別の世帯類型の割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています(図表4-1、図表4-2)。
- 要介護度の重度化に伴う、世帯類型の変化などを確認してください。

#### 【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「夫婦のみ世帯」が35.9%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が32.4%、「単身世帯」が31.7%となっています。「要介護1・2」では「その他」が44.6%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が31.6%、「単身世帯」が23.8%となっています。「要介護3以上」では「その他」が53.6%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が24.1%、「単身世帯」が22.3%となっています。

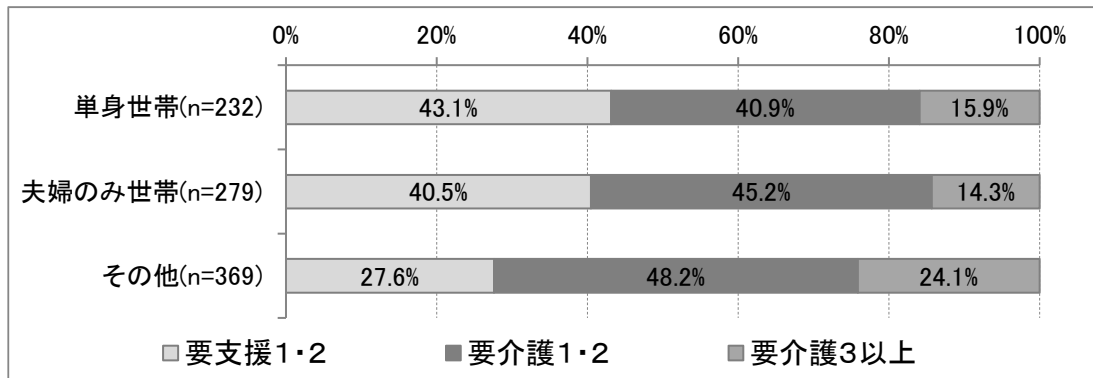
図表4-1 要介護度別・世帯類型<\*\*\*>



【世帯類型別・要介護度】

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要支援1・2」が43.1%ともっとも割合が高く、次いで「要介護1・2」が40.9%、「要介護3以上」が15.9%となっています。「夫婦のみ世帯」では「要介護1・2」が45.2%ともっとも割合が高く、次いで「要支援1・2」が40.5%、「要介護3以上」が14.3%となっています。「その他」では「要介護1・2」が48.2%ともっとも割合が高く、次いで「要支援1・2」が27.6%、「要介護3以上」が24.1%となっています。

図表4-2 世帯類型別・要介護度<\*\*\*>



(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

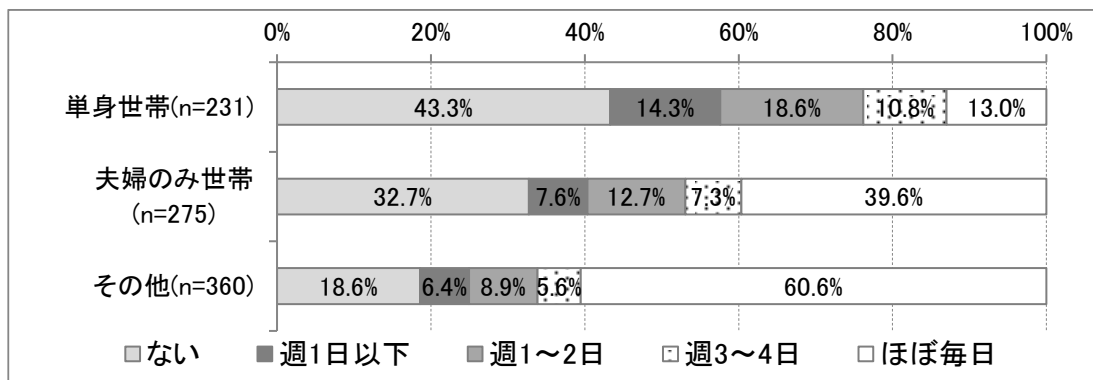
【着目すべきポイント】

- 図表4-3では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、図表4-4～図表4-6では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。
- 「単身世帯」については、同居の家族等はいなくても、近居の家族等による介護が行われているケースも多いと考えられます。中重度の単身世帯のうち、家族等の介護がない中で在宅生活を送っているケースがどの程度あるかなど、現状についてご確認ください。

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「ない」が43.3%ともっとも割合が高く、次いで「週1～2日」が18.6%、「週1日以下」が14.3%となっています。「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が39.6%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が32.7%、「週1～2日」が12.7%となっています。「その他」では「ほぼ毎日」が60.6%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が18.6%、「週1～2日」が8.9%となっています。

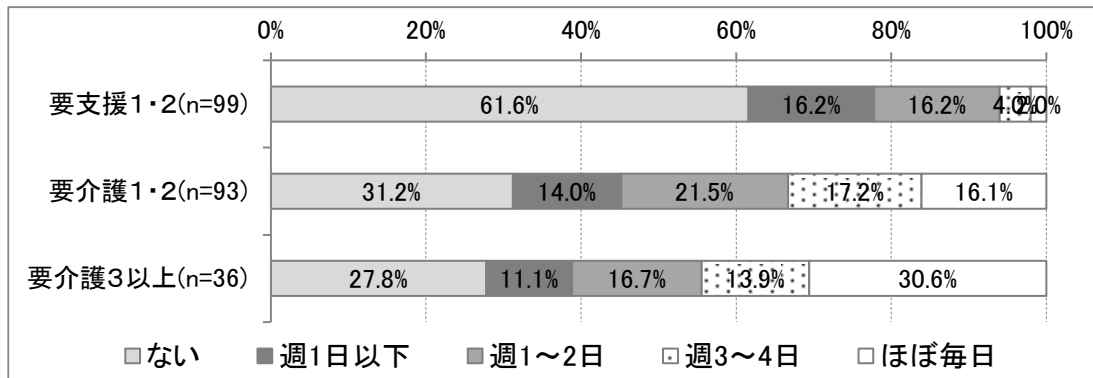
図表4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度<\*\*\*>



【要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が61.6%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」、「週1～2日」が16.2%、「週3～4日」が4.0%となっています。「要介護1・2」では「ない」が31.2%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が21.5%、「週3～4日」が17.2%となっています。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が30.6%と最も割合が高く、次いで「ない」が27.8%、「週1～2日」が16.7%となっています。

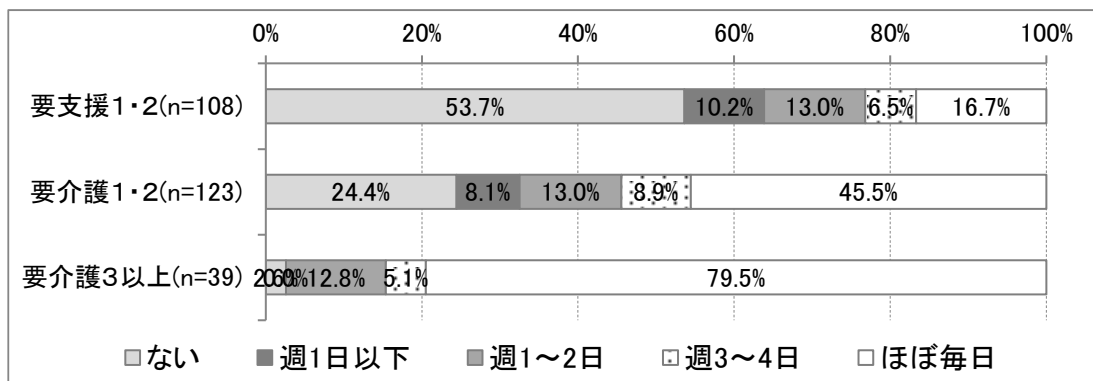
図表4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯） <\*\*\*>



【要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が53.7%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が16.7%、「週1～2日」が13.0%となっています。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が45.5%と最も割合が高く、次いで「ない」が24.4%、「週1～2日」が13.0%となっています。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が79.5%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が12.8%、「週3～4日」が5.1%となっています。

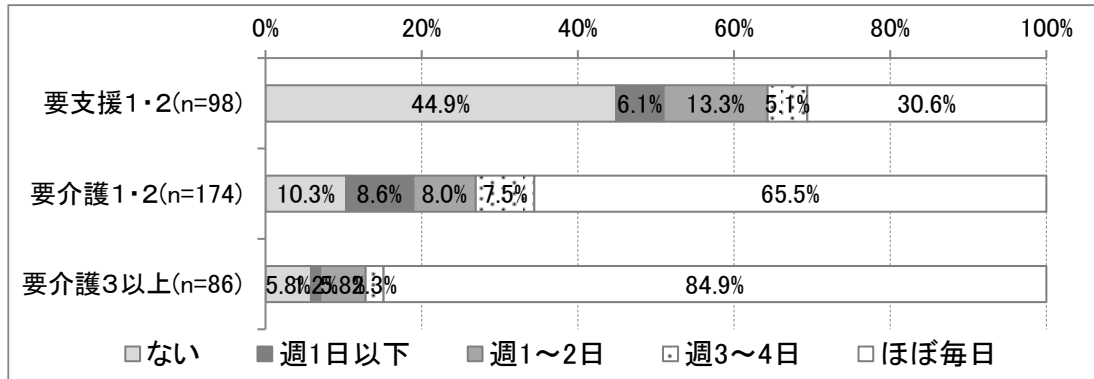
図表4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯） <\*\*\*>



【要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が44.9%ともっとも割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が30.6%、「週1～2日」が13.3%となっています。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が65.5%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が10.3%、「週1日以下」が8.6%となっています。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が84.9%ともっとも割合が高く、次いで「ない」、「週1～2日」が5.8%、「週3～4日」が2.3%となっています。

図表4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯） <\*\*\*>



### (3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

#### 【着目すべきポイント】

- 要介護度別・認知症自立度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています(図表4-7~図表4-12)。
- サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類(未利用除く)に簡略化したものを使用しています。
- 重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを、世帯類型別に把握することができます。
- また、世帯類型別の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。
- 例えば、特に今後「要介護度が中重度の単身世帯」が増加すると見込まれる場合は、単身世帯の要介護者が要介護度の重度化に伴いどのようなサービス利用の組み合わせを増加させているかに着目し、推測することなどが考えられます。

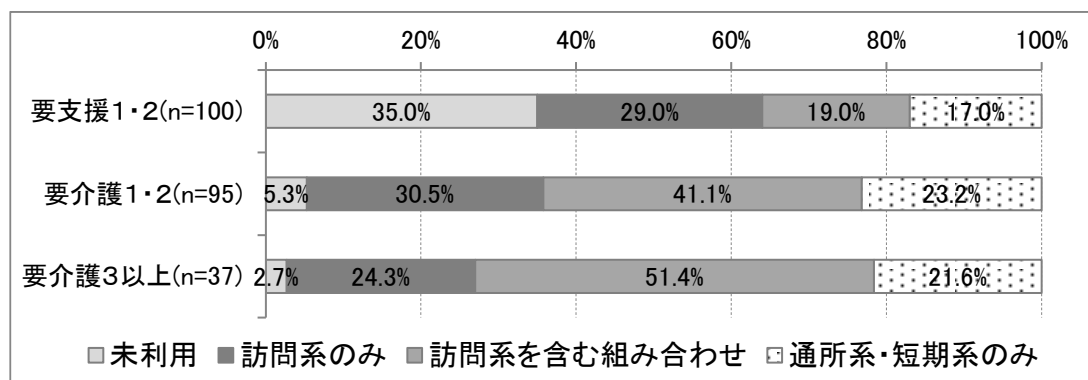
#### 【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

#### 【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が35.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が29.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が19.0%となっています。「要介護1・2」では「訪問系を含む組み合わせ」が41.1%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が30.5%、「通所系・短期系のみ」が23.2%となっています。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が51.4%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が24.3%、「通所系・短期系のみ」が21.6%となっています。

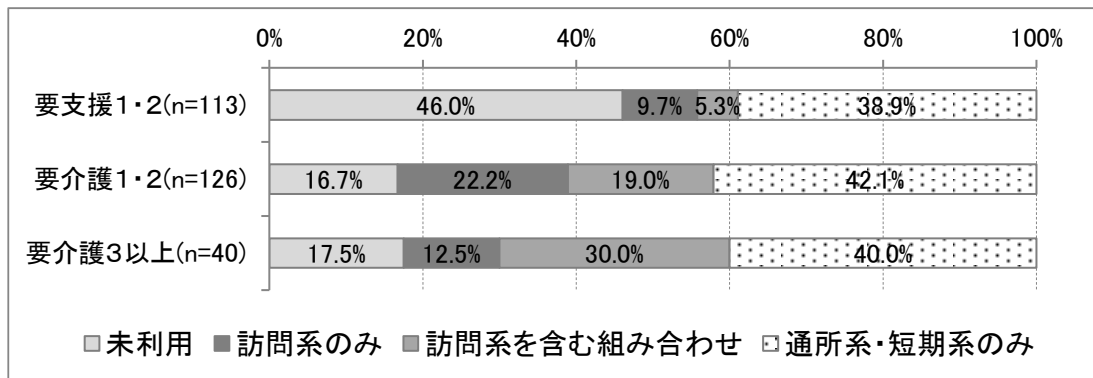
図表4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯) <\*\*\*>



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が46.0%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が38.9%、「訪問系のみ」が9.7%となっています。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が42.1%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が22.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が19.0%となっています。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が30.0%、「未利用」が17.5%となっています。

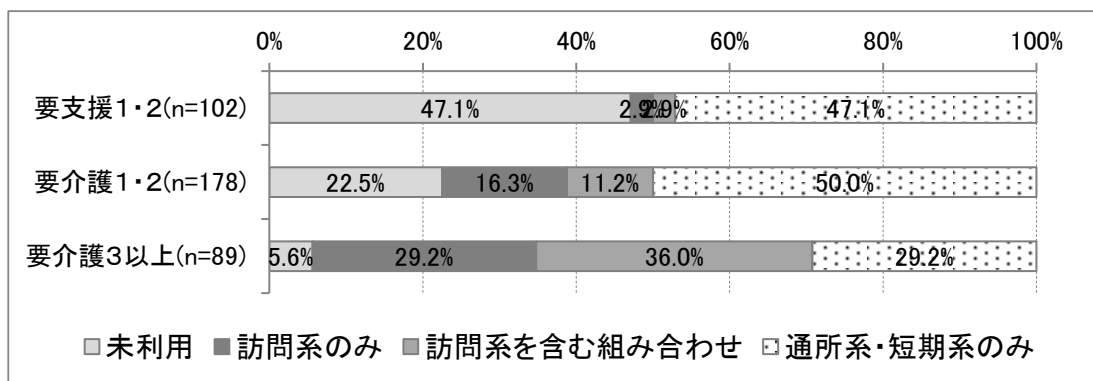
図表4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯） <\*\*\*>



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が47.1%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が2.9%となっています。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が22.5%、「訪問系のみ」が16.3%となっています。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が36.0%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が29.2%、「未利用」が5.6%となっています。

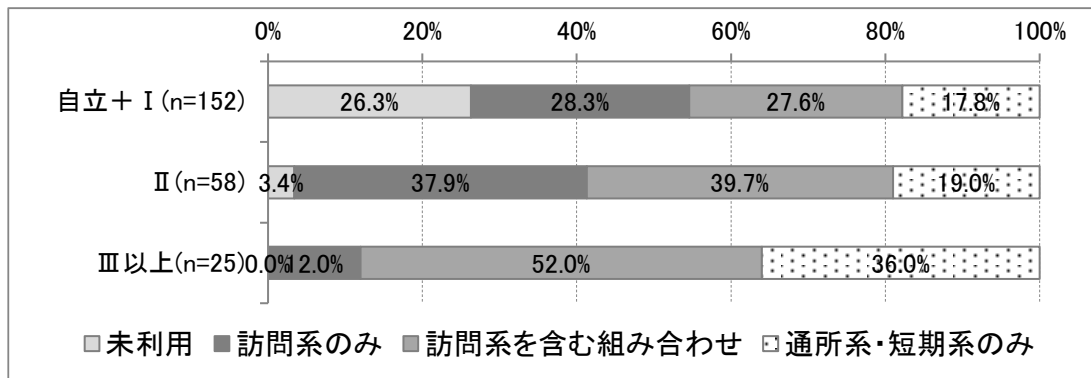
図表4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯） <\*\*\*>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「訪問系のみ」が28.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が27.6%、「未利用」が26.3%となっています。「Ⅱ」では「訪問系を含む組み合わせ」が39.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が37.9%、「通所系・短期系のみ」が19.0%となっています。「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が52.0%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が36.0%、「訪問系のみ」が12.0%となっています。

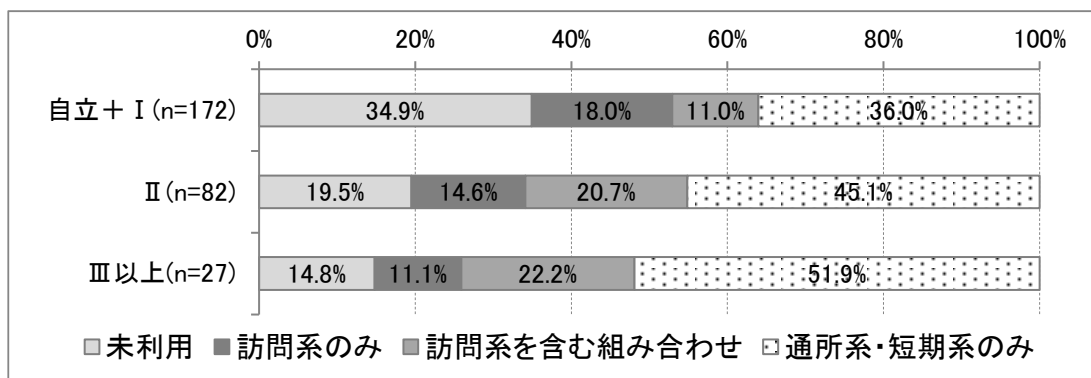
図表4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯） <\*\*\*>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が36.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が34.9%、「訪問系のみ」が18.0%となっています。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が45.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が20.7%、「未利用」が19.5%となっています。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が51.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が22.2%、「未利用」が14.8%となっています。

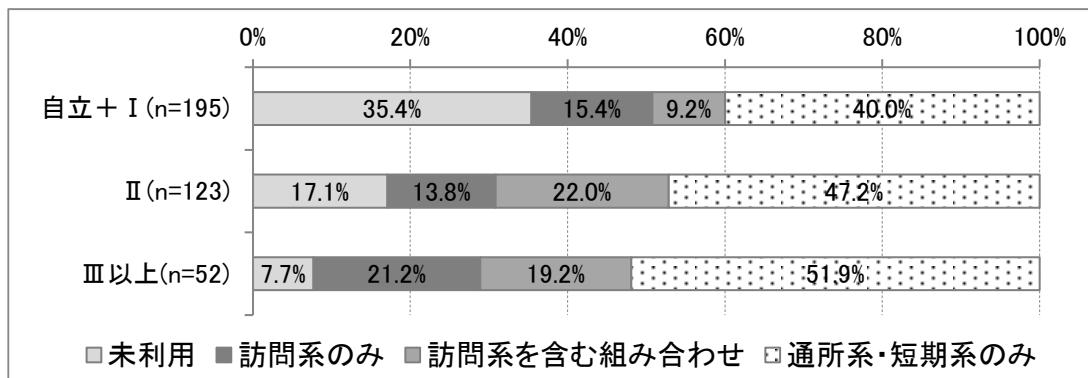
図表4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯） <\*>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が35.4%、「訪問系のみ」が15.4%となっています。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が47.2%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が22.0%、「未利用」が17.1%となっています。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が51.9%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が21.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が19.2%となっています。

図表4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯） <\*\*\*>



#### (4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

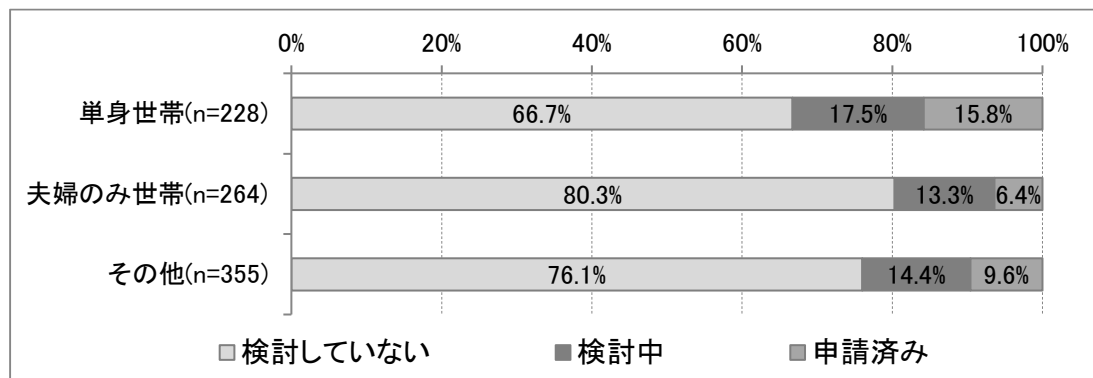
##### 【着目すべきポイント】

- ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています(図表4-13~図表4-19)。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「世帯類型」ごとの特徴を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

##### 【世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が17.5%、「申請済み」が15.8%となっています。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が80.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が13.3%、「申請済み」が6.4%となっています。「その他」では「検討していない」が76.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が14.4%、「申請済み」が9.6%となっています。

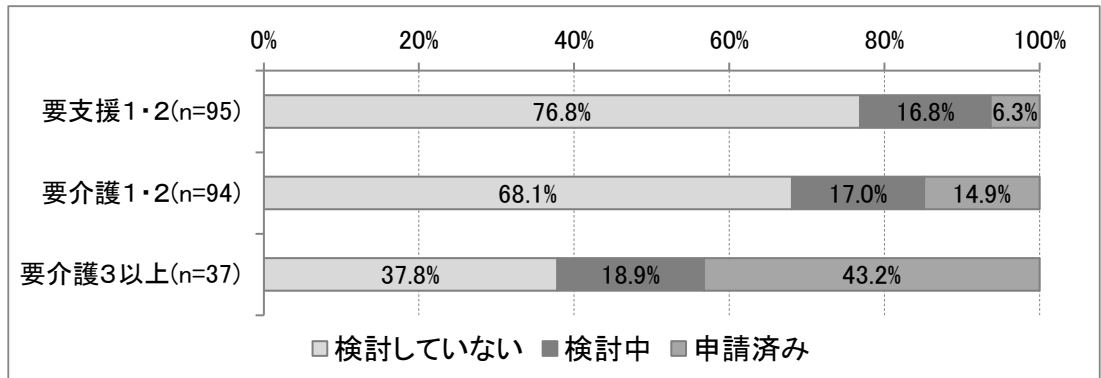
図表4-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）<\*\*>



【要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が76.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が16.8%、「申請済み」が6.3%となっています。「要介護1・2」では「検討していない」が68.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が17.0%、「申請済み」が14.9%となっています。「要介護3以上」では「申請済み」が43.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が37.8%、「検討中」が18.9%となっています。

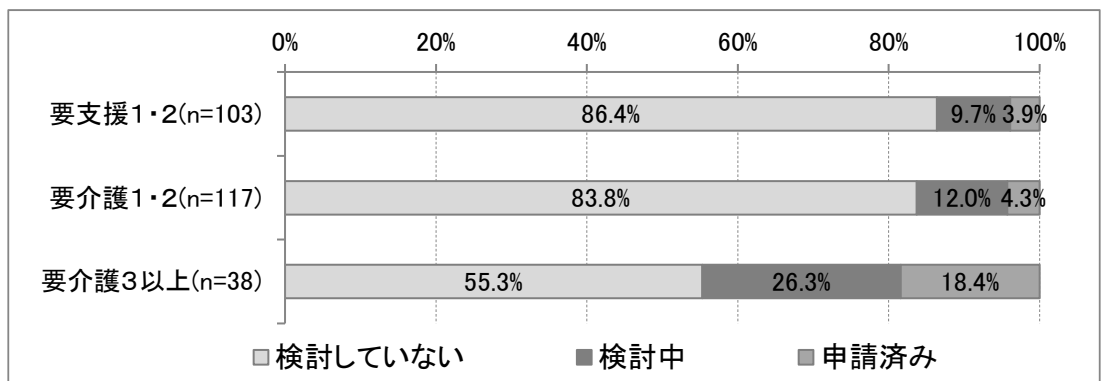
図表4-14 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯） <\*\*\*>



【要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が86.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が9.7%、「申請済み」が3.9%となっています。「要介護1・2」では「検討していない」が83.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が12.0%、「申請済み」が4.3%となっています。「要介護3以上」では「検討していない」が55.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が26.3%、「申請済み」が18.4%となっています。

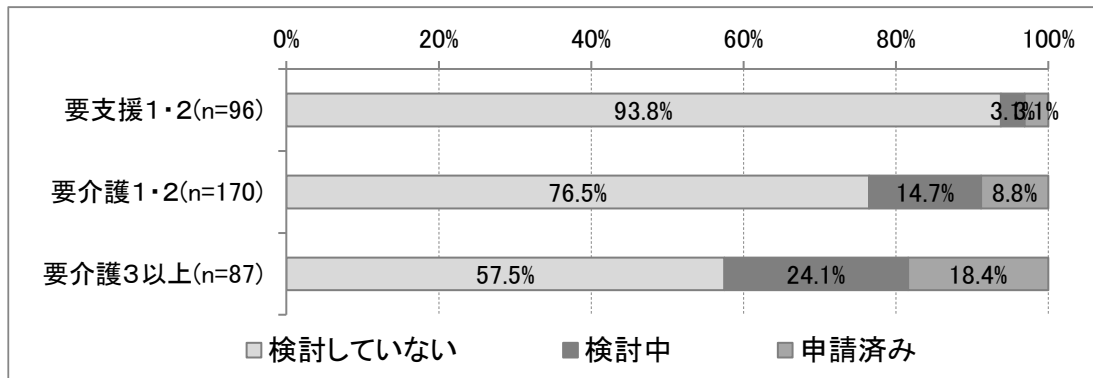
図表4-15 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯） <\*\*\*>



【要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が93.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が3.1%となっています。「要介護1・2」では「検討していない」が76.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が14.7%、「申請済み」が8.8%となっています。「要介護3以上」では「検討していない」が57.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が24.1%、「申請済み」が18.4%となっています。

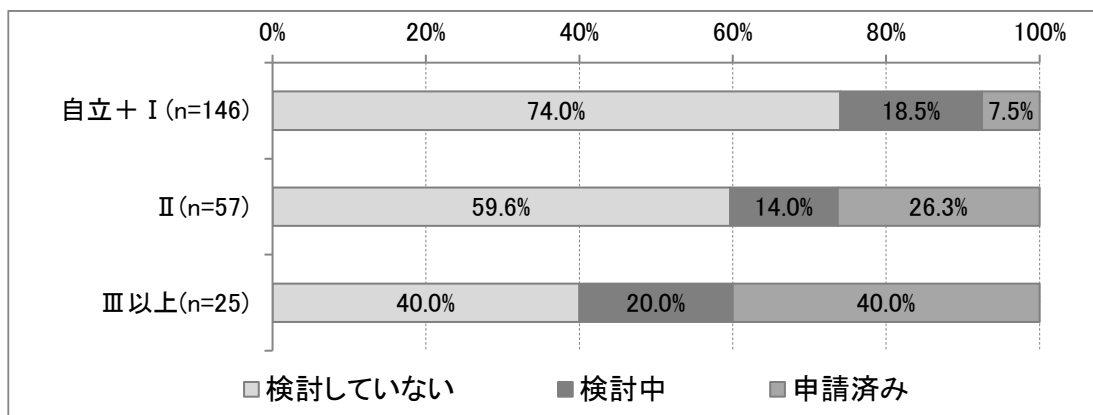
図表4-16 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯） <\*\*\*>



【認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「検討していない」が74.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.5%、「申請済み」が7.5%となっています。「Ⅱ」では「検討していない」が59.6%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が26.3%、「検討中」が14.0%となっています。「Ⅲ以上」では「検討していない」、「申請済み」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.0%となっています。

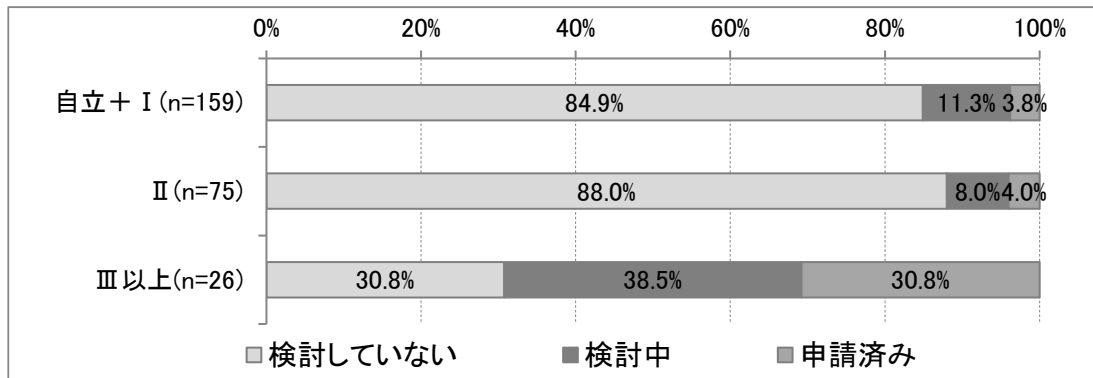
図表4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯） <\*\*\*>



【認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「検討していない」が84.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が11.3%、「申請済み」が3.8%となっています。「II」では「検討していない」が88.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が8.0%、「申請済み」が4.0%となっています。「III以上」では「検討中」が38.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」、「申請済み」が30.8%となっています。

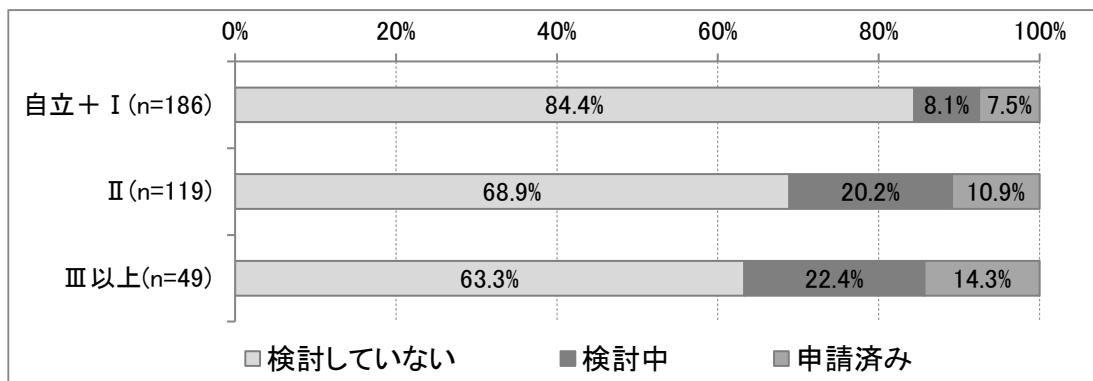
図表4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯） <\*\*\*>



【認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「検討していない」が84.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が8.1%、「申請済み」が7.5%となっています。「II」では「検討していない」が68.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.2%、「申請済み」が10.9%となっています。「III以上」では「検討していない」が63.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.4%、「申請済み」が14.3%となっています。

図表4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯） <\*>



## 5. 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

### 5.1 集計・分析の狙い

- ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。
- 具体的には、世帯類型別・要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行います。

### 5.2 集計結果と着目すべきポイント

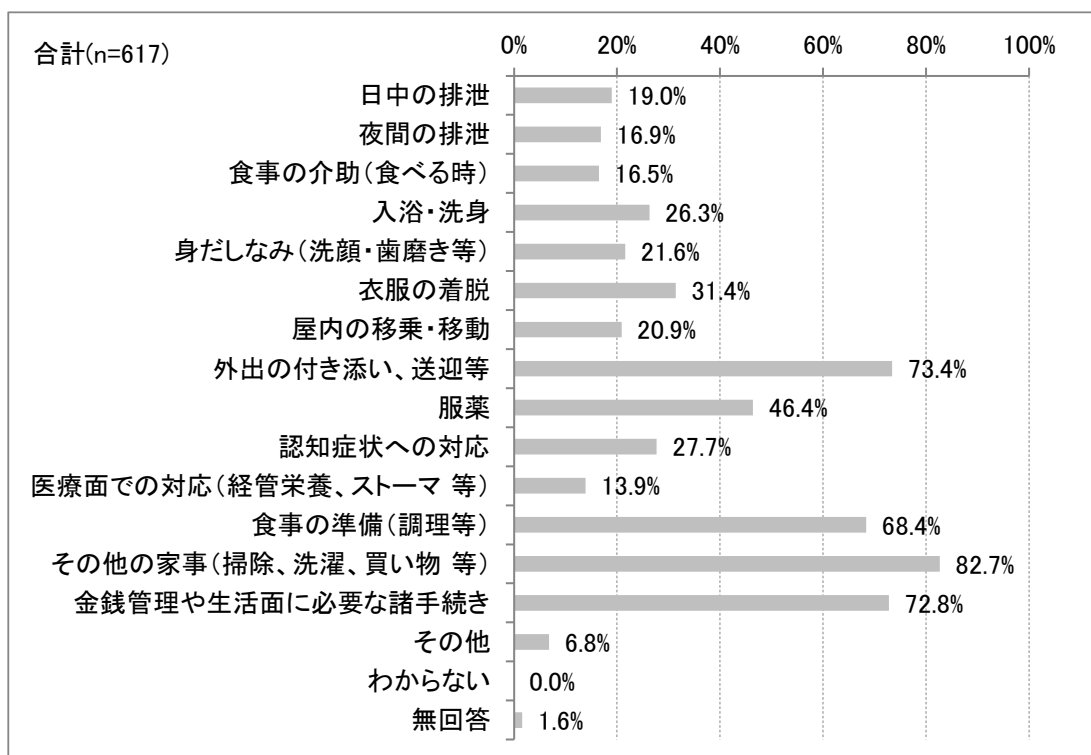
#### (1) 礎集計

- 「主な介護者が行っている介護」について、要介護度別・世帯類型別の集計を行っています（図表5-1～図表5-3）。
- ここでは、特に「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」に着目し、家族等の主な介護者が「医療面での対応」を行っている割合を把握することができます。

#### 【★主な介護者が行っている介護】

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が最も高く82.7%となっています。次いで、「外出の付き添い、送迎等（73.4%）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（72.8%）」となっています。

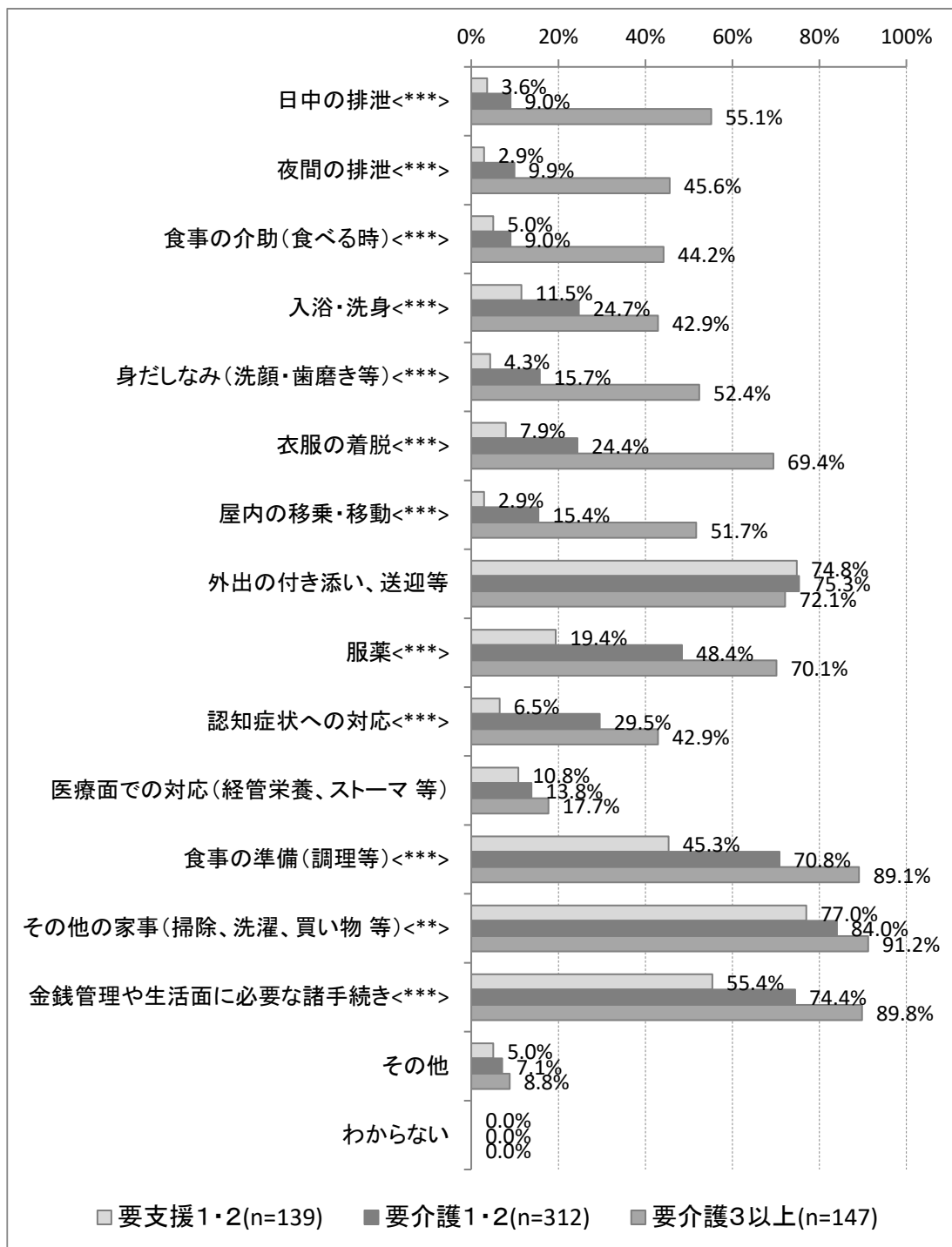
図表5-1 ★主な介護者が行っている介護



【要介護度別・★主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が77.0%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が74.8%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が55.4%となっています。「要介護1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が84.0%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が75.3%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が74.4%となっています。「要介護3以上」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が91.2%ともっとも割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が89.8%、「食事の準備（調理等）」が89.1%となっています。

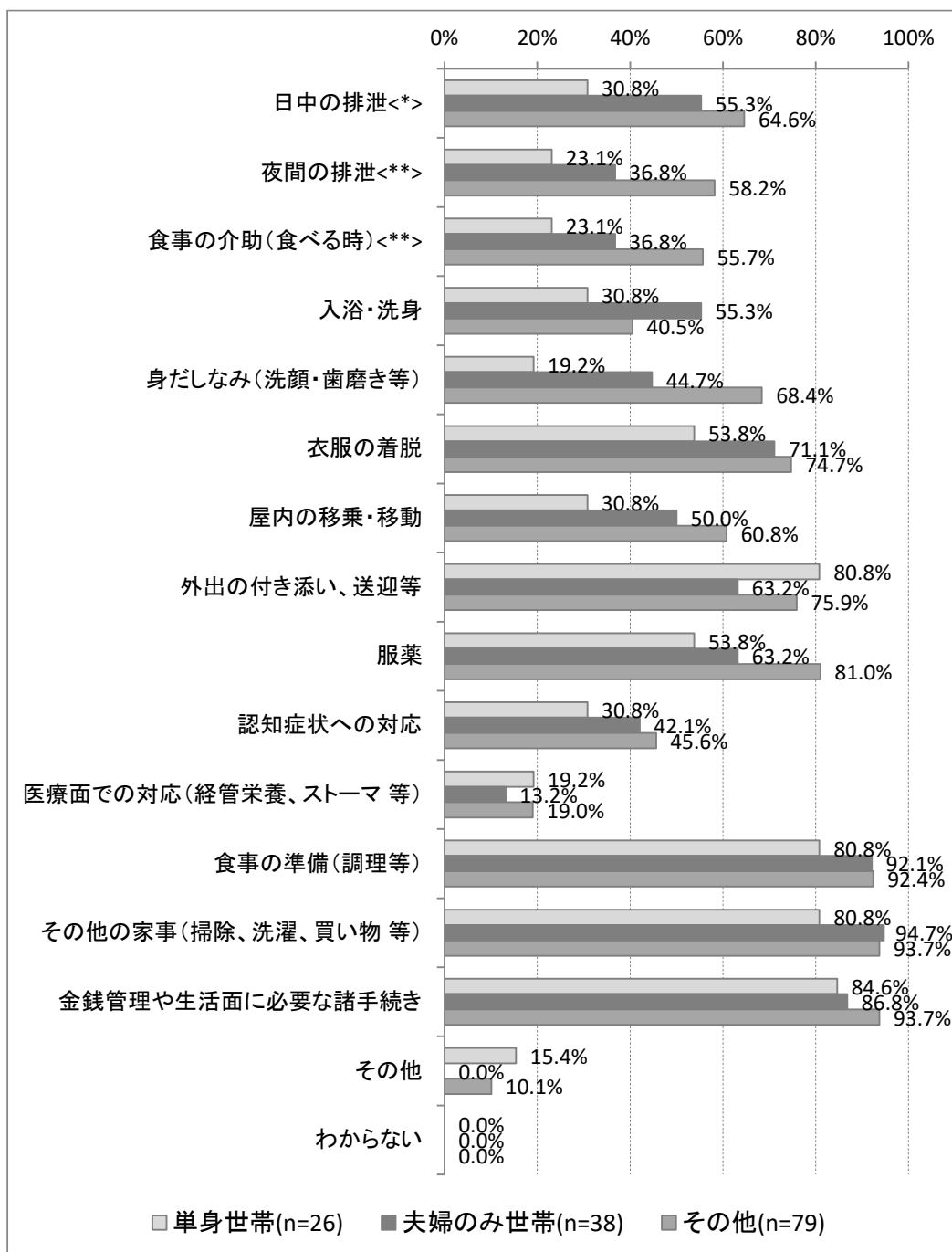
図表5-2 要介護度別・★主な介護者が行っている介護



【世帯類型別・★主な介護者が行っている介護（要介護3以上）】

介護者が行っている介護を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が84.6%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が80.8%、「衣服の着脱」、「服薬」が53.8%となっています。「夫婦のみ世帯」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が94.7%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が92.1%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が86.8%となっています。「その他」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が93.7%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が92.4%、「服薬」が81.0%となっています。

図表5-3 世帯類型別・★主な介護者が行っている介護（要介護3以上）



## (2) 訪問診療の利用割合

### 【着目すべきポイント】

- 「訪問診療の利用の有無」について、世帯類型別・要介護度別の集計を行っています(図表5-4～図表5-6)。
- 特に、「要介護度別の訪問診療の利用割合」を「将来の要介護度別の在宅療養者数」に乗じることで、「将来の在宅における訪問診療の利用者数」の粗推計を行うことも可能です。

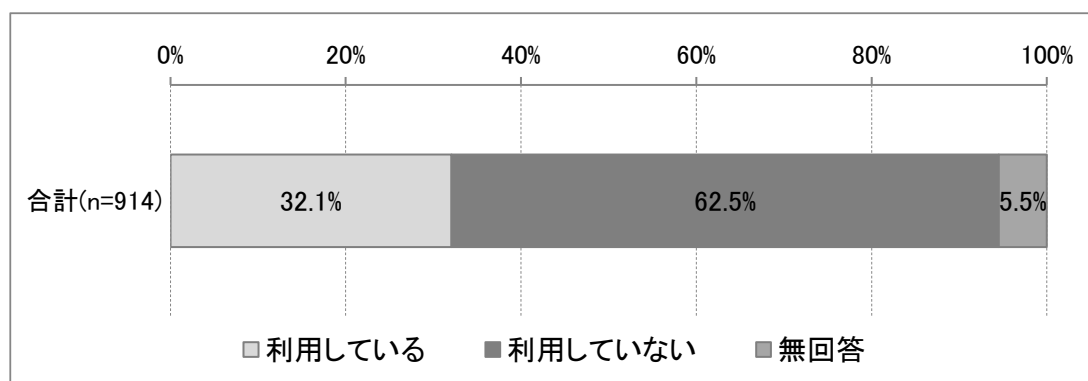
### 【留意事項】

- ここでの「訪問診療」には、訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含まれていません。
- また、上述の「将来の在宅における訪問診療の利用者数」を推計方法は、現在の訪問診療の利用割合を前提としたものであり、地域の状況の変化によっては誤差が大きくなることが想定されます。粗推計のための手法である点については、注意が必要です。
- 必要に応じて、地域医療構想の検討における「2025年の在宅医療等で対応が必要な医療需要」の需要量予測の結果等もご覧ください。

### 【★訪問診療の利用の有無】

「利用していない」の割合が最も高く62.5%となっています。次いで、「利用している(32.1%)」となっています。

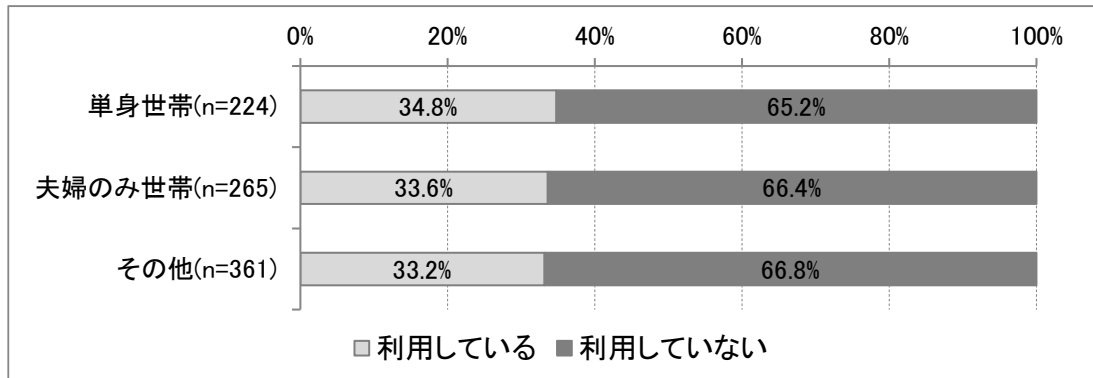
図表5-4 ★訪問診療の利用の有無



【世帯類型別・★訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が65.2%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が34.8%となっています。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が66.4%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が33.6%となっています。「その他」では「利用していない」が66.8%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が33.2%となっています。

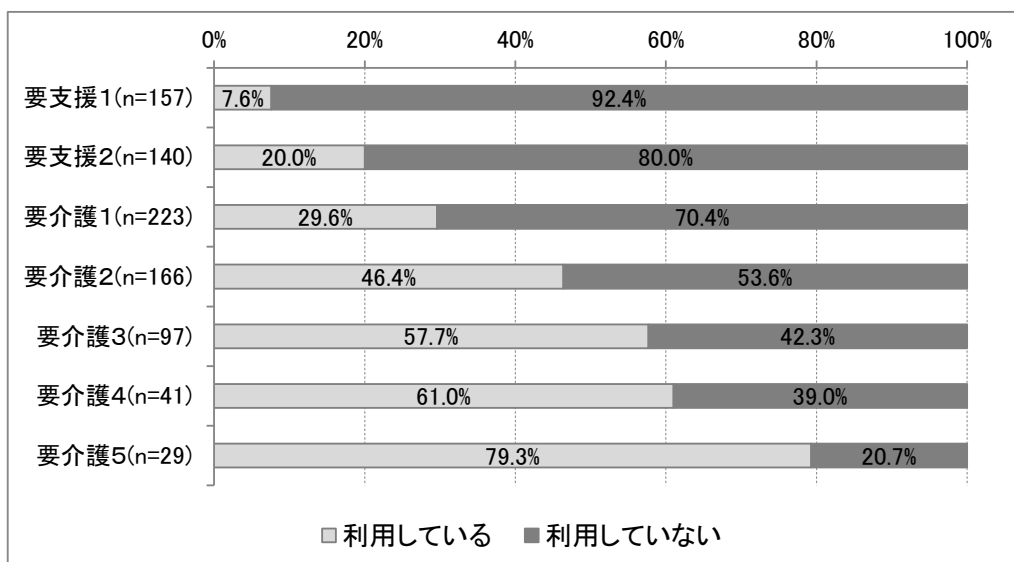
図表5-5 世帯類型別・★訪問診療の利用割合



【要介護度別・★訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を二次判定結果別にみると、「要支援1」では「利用していない」が92.4%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が7.6%となっています。「要支援2」では「利用していない」が80.0%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が20.0%となっています。「要介護1」では「利用していない」が70.4%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が29.6%となっています。「要介護2」では「利用していない」が53.6%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が46.4%となっています。「要介護3」では「利用している」が57.7%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が42.3%となっています。「要介護4」では「利用している」が61.0%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が39.0%となっています。「要介護5」では「利用している」が79.3%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が20.7%となっています。

図表5-6 要介護度別・★訪問診療の利用割合<\*\*\*>



（3）訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

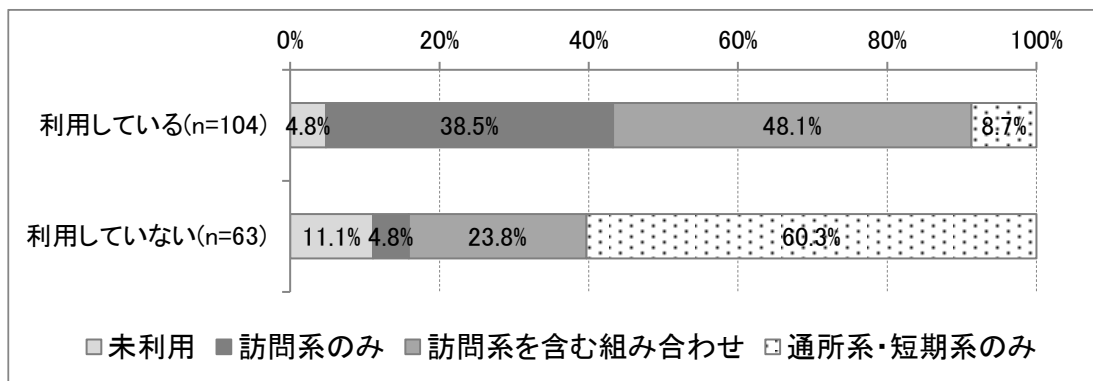
【着目すべきポイント】

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上の「サービス利用の組み合わせ」を集計しています（図表5-7）。
- 特に、今後在宅で療養生活を送る医療ニーズの高い中重度の要介護者の増加が見込まれる地域では、今後どのようなサービスに対する利用ニーズが高まるかを予測することにもつながります。

【★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）】

サービス利用の組み合わせを訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系を含む組み合わせ」が48.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が38.5%、「通所系・短期系のみ」が8.7%となっています。「利用していない」では「通所系・短期系のみ」が60.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が23.8%、「未利用」が11.1%となっています。

図表5-7 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）<\*\*\*>



(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

【着目すべきポイント】

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上について、訪問系・通所系・短期系のそれぞれのサービス利用の有無を集計しています(図表5-8～図表5-10)。
- 地域によっては、例えば「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない場合に、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なることも想定されます。

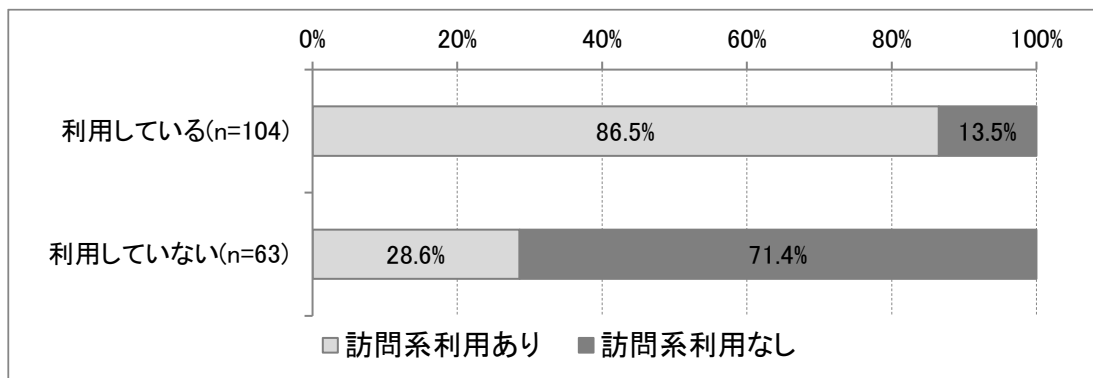
【留意事項】

- 上記の例のように、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なる場合についても、必ずしも「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていないことに原因があるとは限りません。
- 集計分析結果の解釈は、地域の実情等に照らし合わせながら、専門職を含む関係者間での議論・考察を経て行うことが必要です。

【★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）】

訪問系の利用の有無を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系利用あり」が86.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系利用なし」が13.5%となっています。「利用していない」では「訪問系利用なし」が71.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系利用あり」が28.6%となっています。

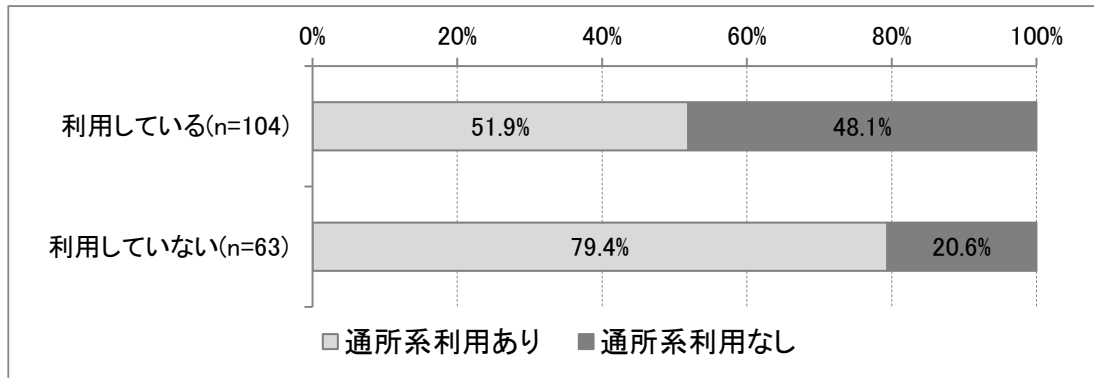
図表5-8 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）<\*\*\*>



【★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）】

通所系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「通所系利用あり」が51.9%ともっとも割合が高く、次いで「通所系利用なし」が48.1%となっています。「利用していない」では「通所系利用あり」が79.4%ともっとも割合が高く、次いで「通所系利用なし」が20.6%となっています。

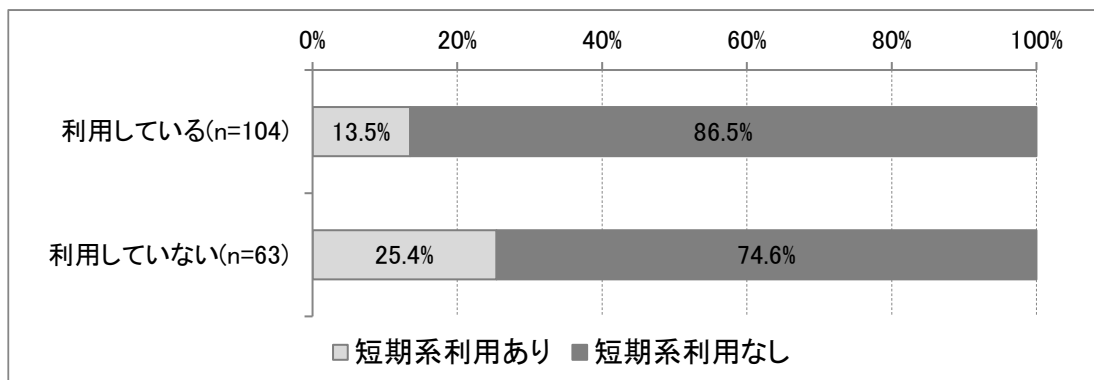
図表5-9 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）<\*\*\*>



【★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）】

短期系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「短期系利用なし」が86.5%ともっとも割合が高く、次いで「短期系利用あり」が13.5%となっています。「利用していない」では「短期系利用なし」が74.6%ともっとも割合が高く、次いで「短期系利用あり」が25.4%となっています。

図表5-10 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）<+>



## 6. サービス未利用の理由など

---

### 6. 1 集計・分析の狙い

- ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。
- 主要なデータは、テーマ1～テーマ5において整理をしていますが、ここで整理する集計結果も必要に応じてご活用ください。

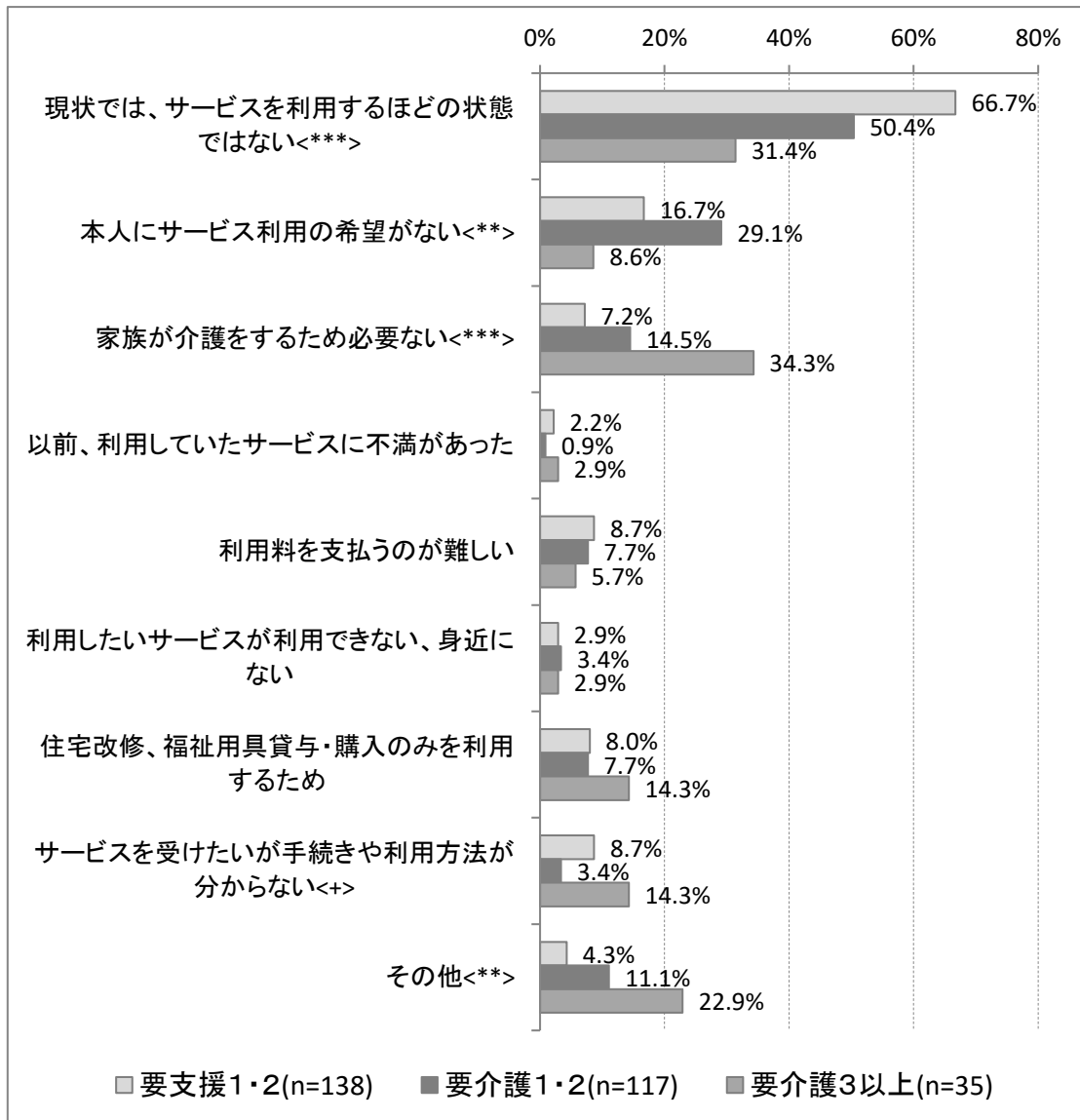
6. 2 集計結果（参考）

(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【要介護度別の★サービス未利用の理由】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が16.7%、「利用料を支払うのが難しい」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が8.7%となっています。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が50.4%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が29.1%、「家族が介護をするため必要ない」が14.5%となっています。「要介護3以上」では「家族が介護をするため必要ない」が34.3%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が31.4%、「その他」が22.9%となっています。

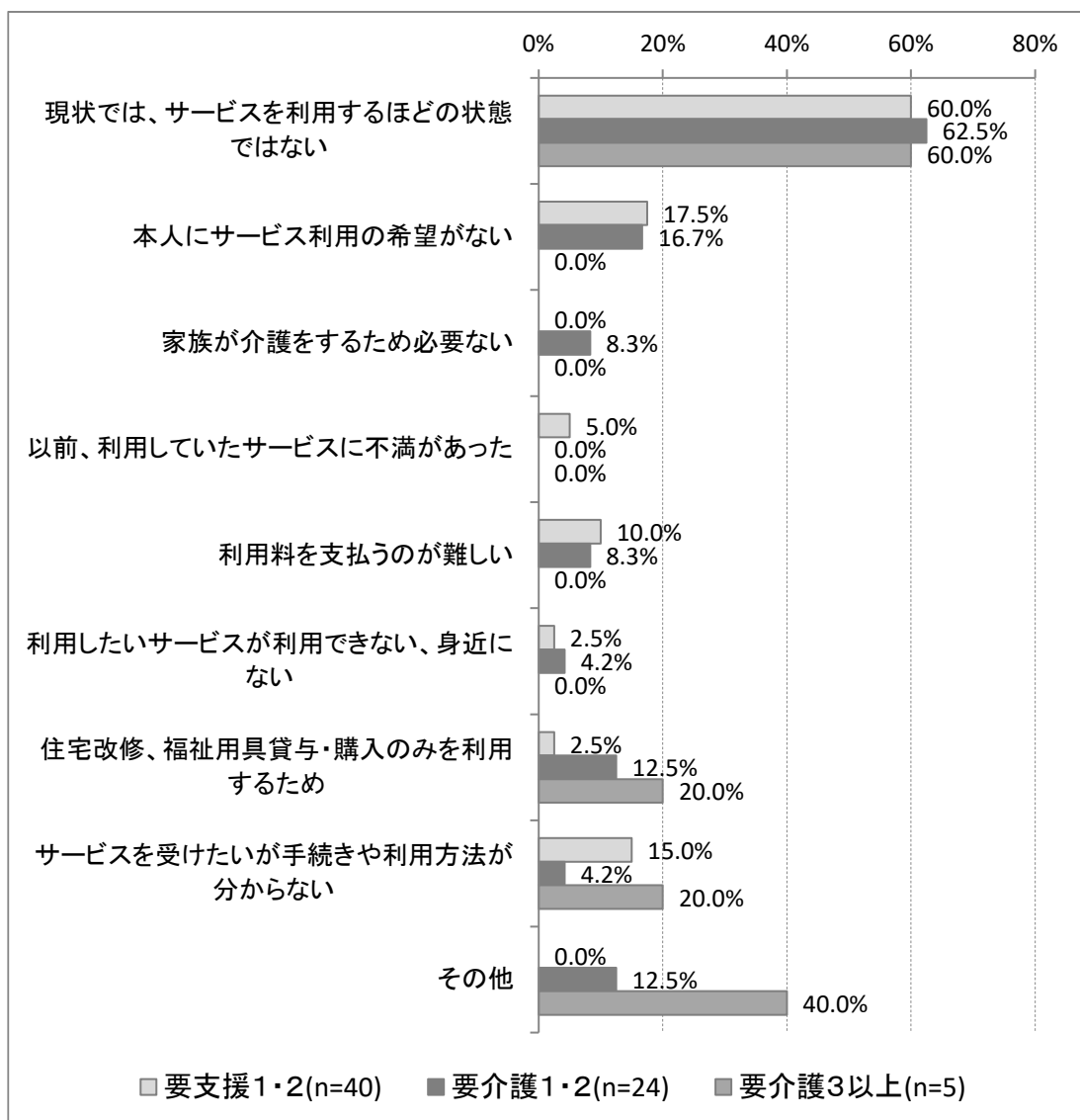
図表6-1 要介護度別の★サービス未利用の理由



【要介護度別の★サービス未利用の理由（単身世帯）】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が17.5%、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が15.0%となっています。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が62.5%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が16.7%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「その他」が12.5%となっています。「要介護3以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「その他」が40.0%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が20.0%となっています。

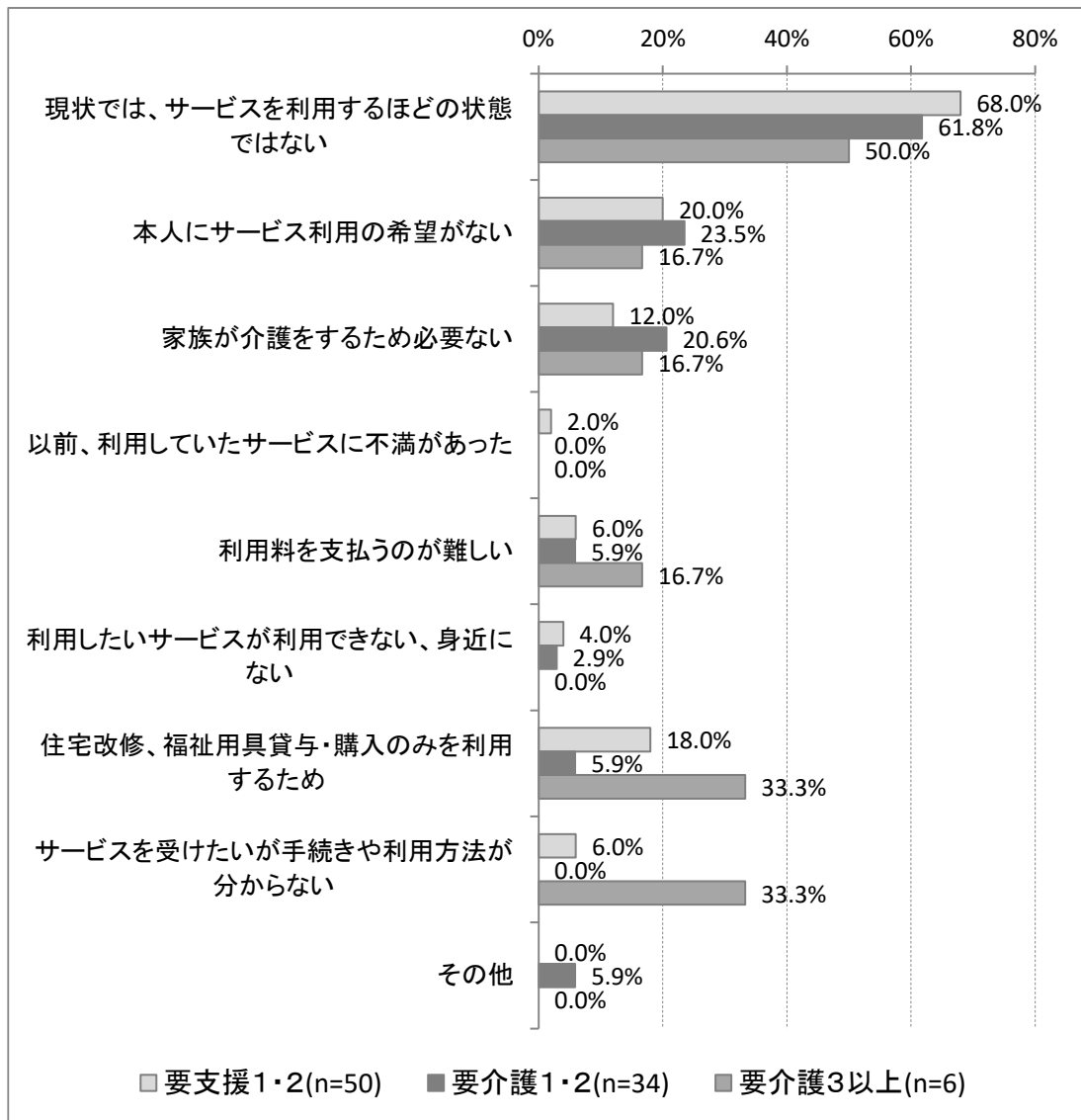
図表6-2 要介護度別の★サービス未利用の理由（単身世帯）



【要介護度別の★サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が68.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が20.0%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が18.0%となっています。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が61.8%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が23.5%、「家族が介護をするため必要ない」が20.6%となっています。「要介護3以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が33.3%、「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「利用料を支払うのが難しい」が16.7%となっています。

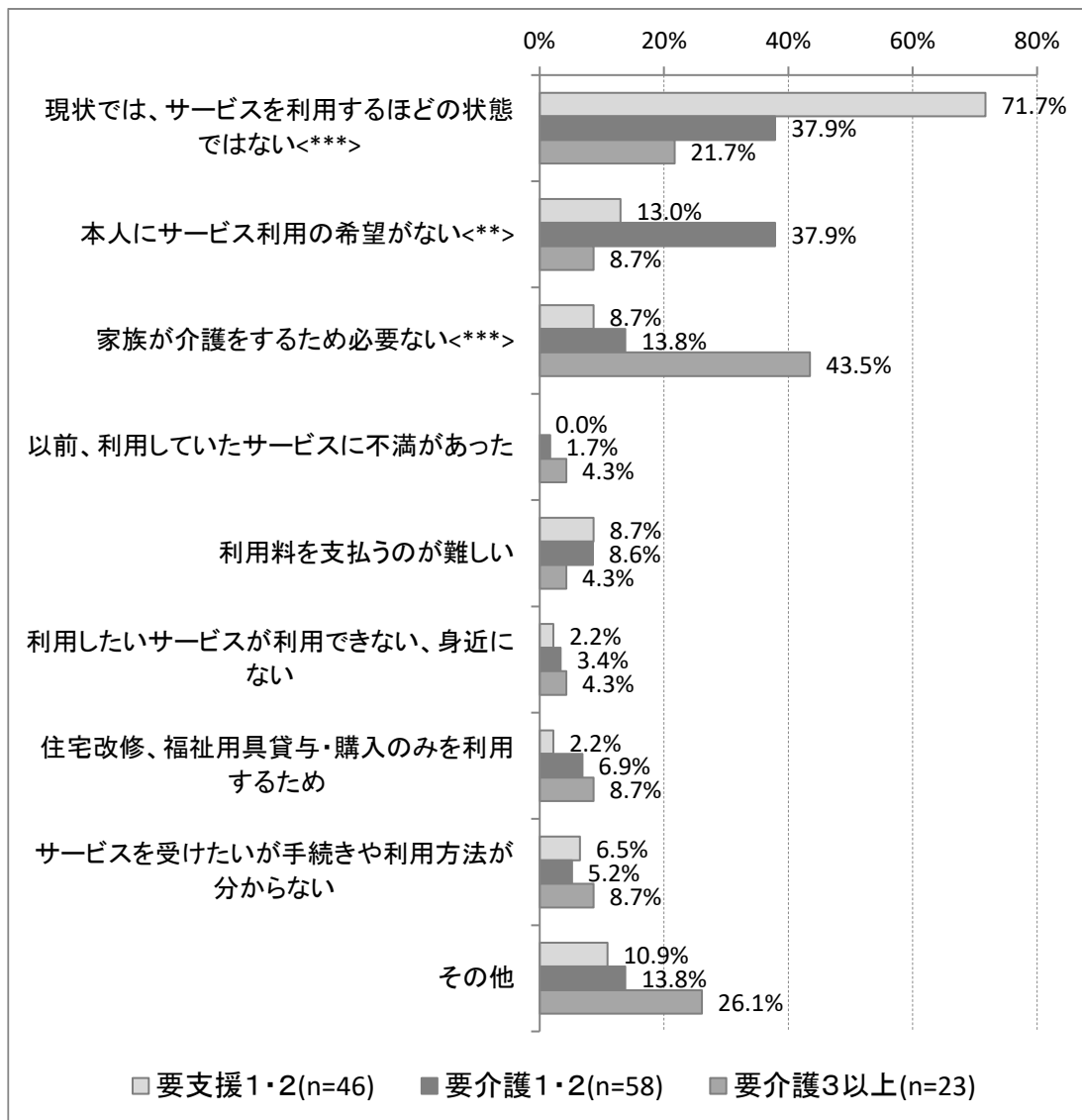
図表6-3 要介護度別の★サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



【要介護度別の★サービス未利用の理由（その他世帯）】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が71.7%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が13.0%、「その他」が10.9%となっています。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が37.9%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」、「その他」が13.8%、「利用料を支払うのが難しい」が8.6%となっています。「要介護3以上」では「家族が介護をするため必要ない」が43.5%と最も割合が高く、次いで「その他」が26.1%、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が21.7%となっています。

図表6-4 要介護度別の★サービス未利用の理由（その他世帯）

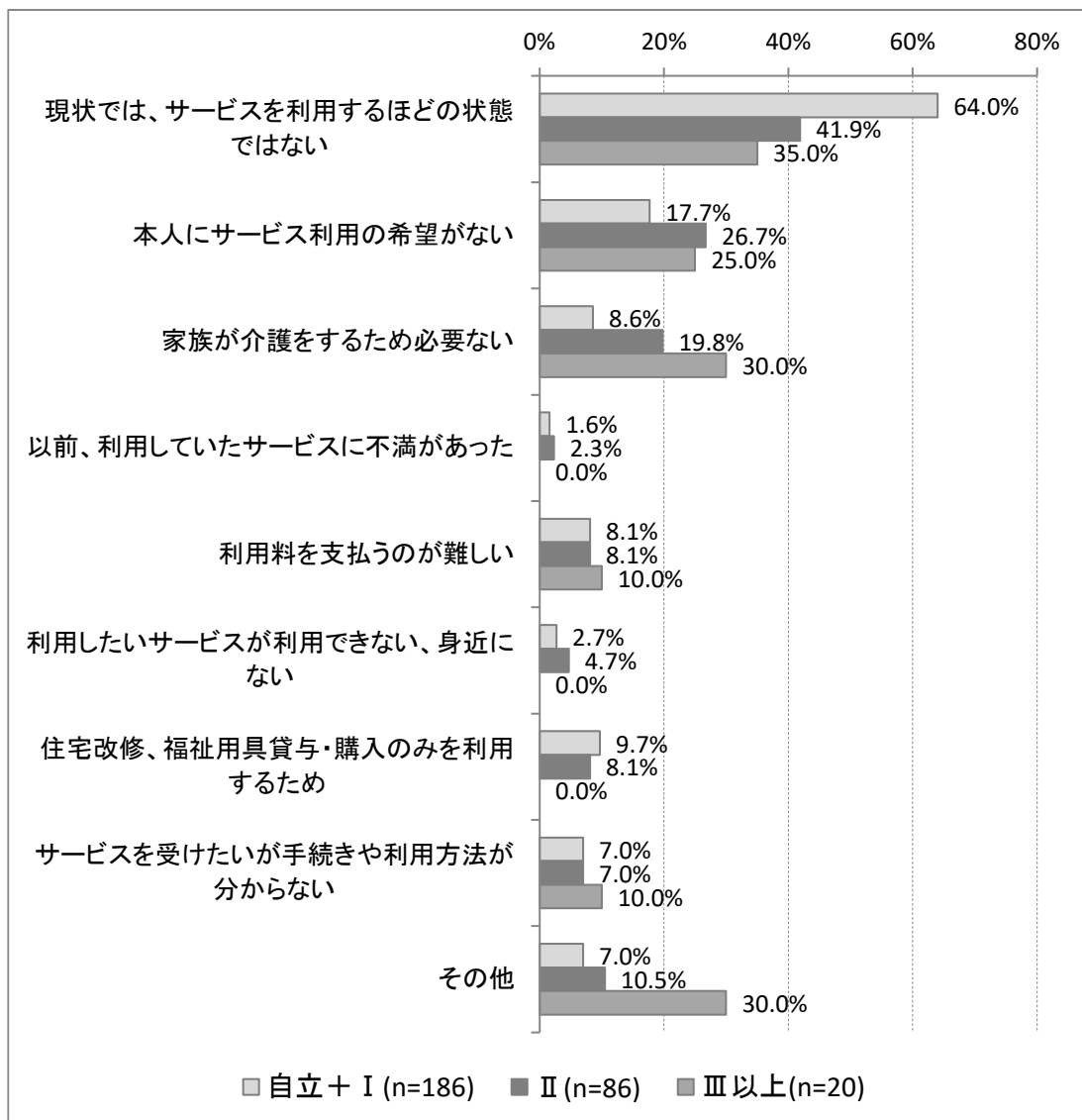


(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【認知症自立度別の★サービス未利用の理由】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が64.0%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が17.7%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が9.7%となっています。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が41.9%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が26.7%、「家族が介護をするため必要ない」が19.8%となっています。「Ⅲ以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が35.0%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」、「その他」が30.0%、「本人にサービス利用の希望がない」が25.0%となっています。

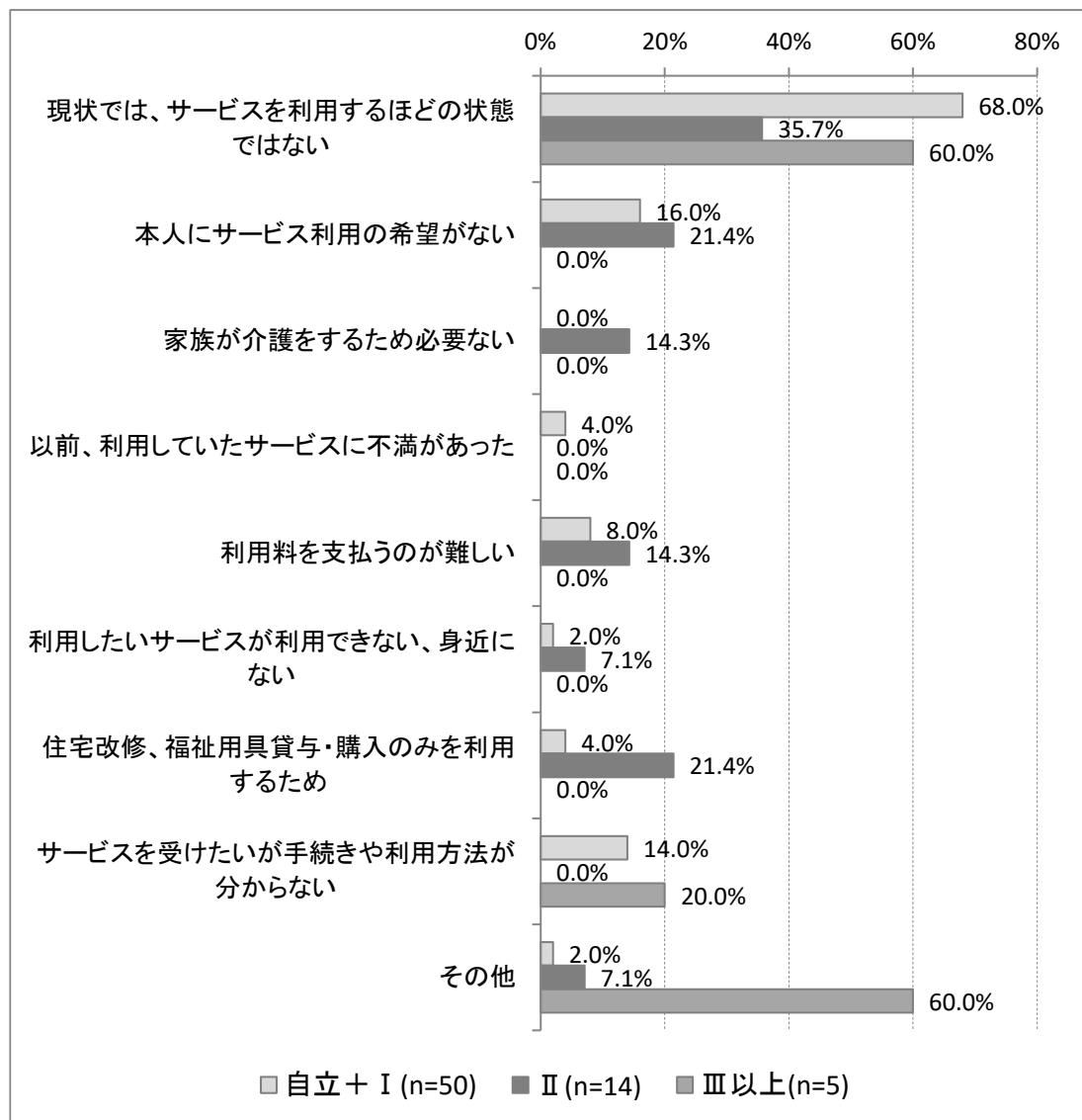
図表6-5 認知症自立度別の★サービス未利用の理由



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由（単身世帯）】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が68.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が16.0%、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が14.0%となっています。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が35.7%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が21.4%、「家族が介護をするため必要ない」、「利用料を支払うのが難しい」が14.3%となっています。「Ⅲ以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「その他」が60.0%と最も割合が高く、次いで「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が20.0%、「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「利用料を支払うのが難しい」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が0.0%となっています。

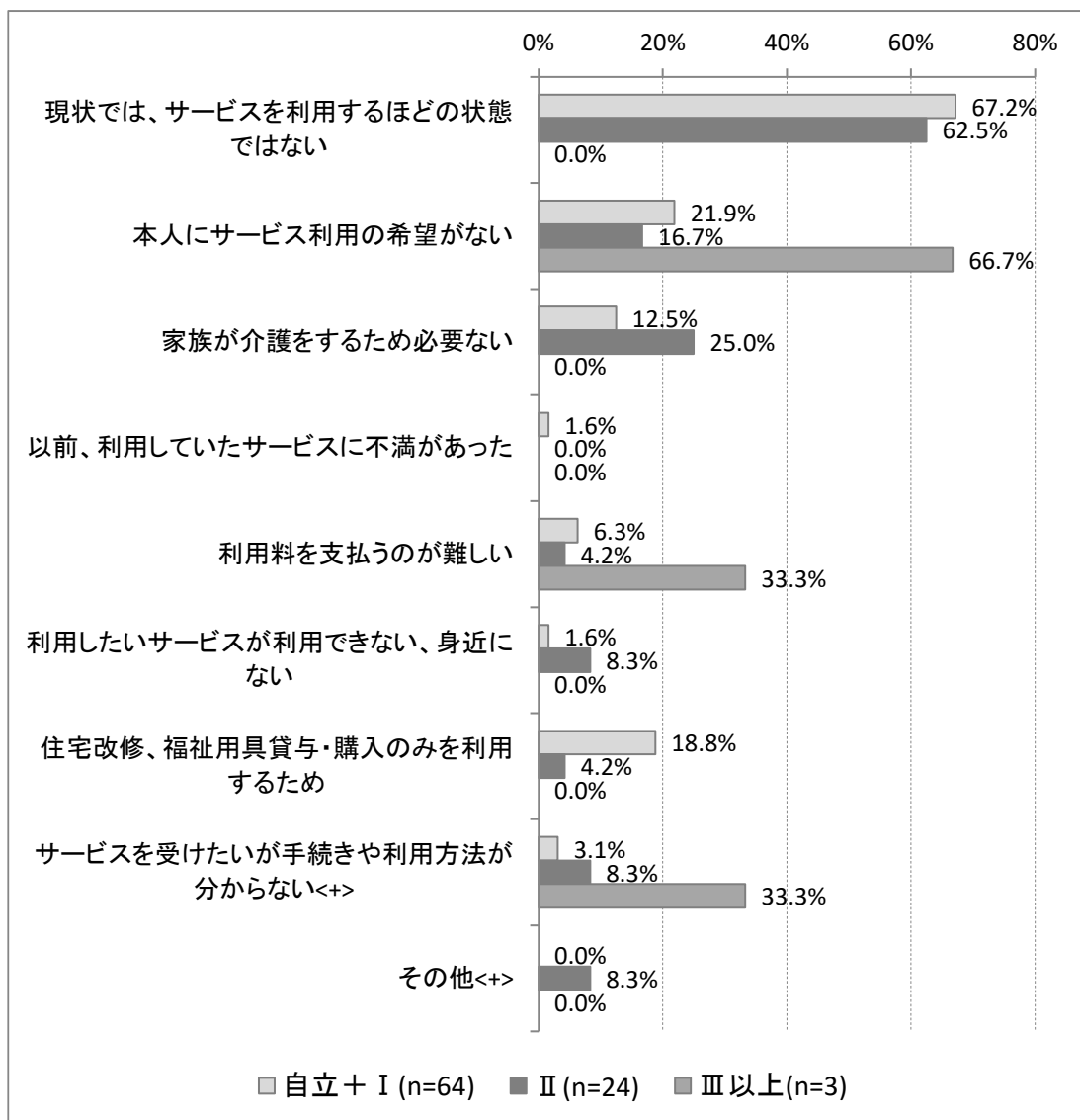
図表6-6 認知症自立度別の★サービス未利用の理由（単身世帯）



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が67.2%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が21.9%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が18.8%となっています。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が62.5%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が25.0%、「本人にサービス利用の希望がない」が16.7%となっています。「Ⅲ以上」では「本人にサービス利用の希望がない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「利用料を支払うのが難しい」が33.3%、「サービスを受けるが手続きや利用方法が分からない」が33.3%、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「その他」が0.0%となっています。

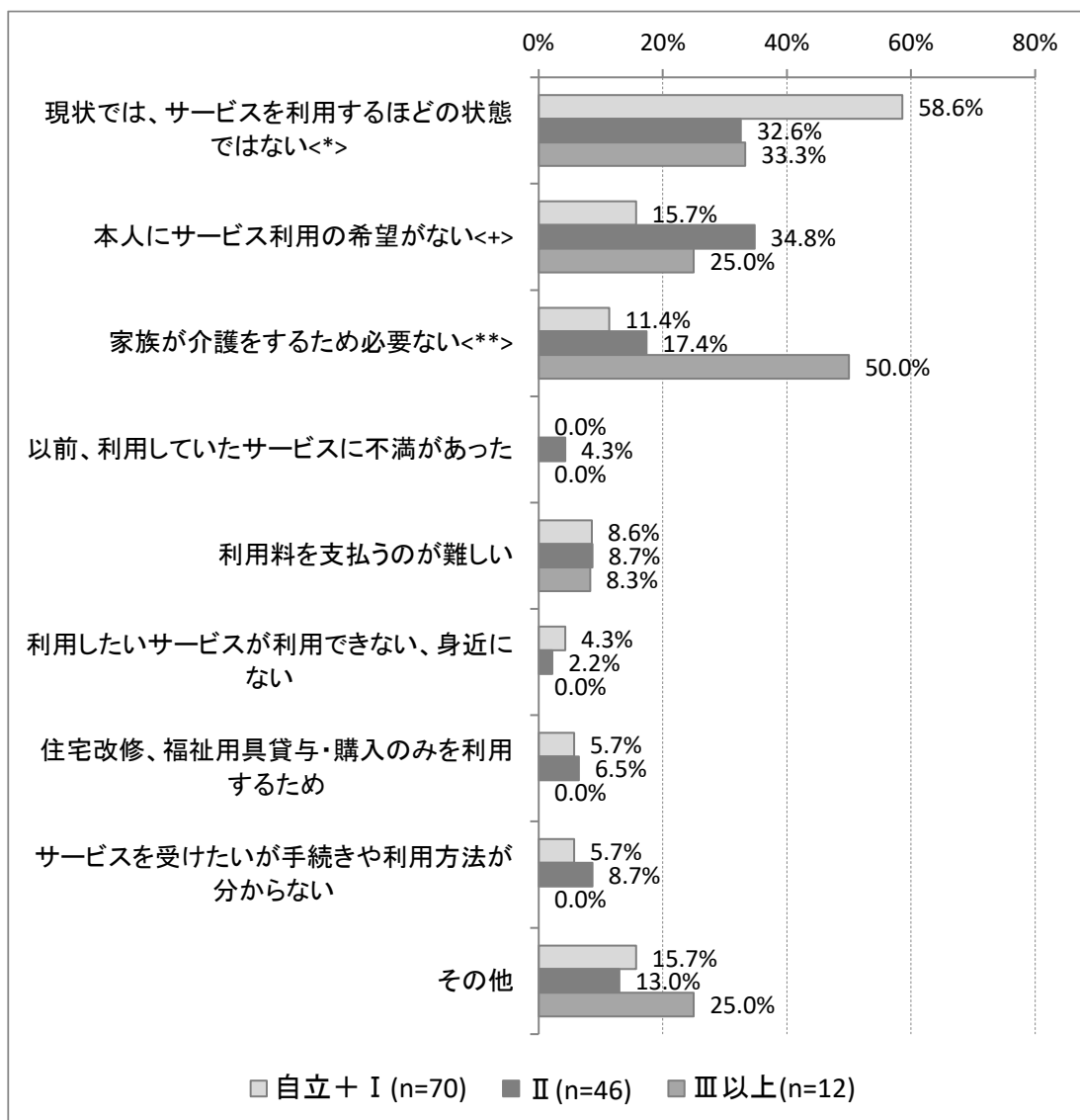
図表6-7 認知症自立度別の★サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由（その他世帯）】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が58.6%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「その他」が15.7%、「家族が介護をするため必要ない」が11.4%となっています。「Ⅱ」では「本人にサービス利用の希望がない」が34.8%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が32.6%、「家族が介護をするため必要ない」が17.4%となっています。「Ⅲ以上」では「家族が介護をするため必要ない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が33.3%、「本人にサービス利用の希望がない」、「その他」が25.0%となっています。

図表6-8 認知症自立度別の★サービス未利用の理由（その他世帯）

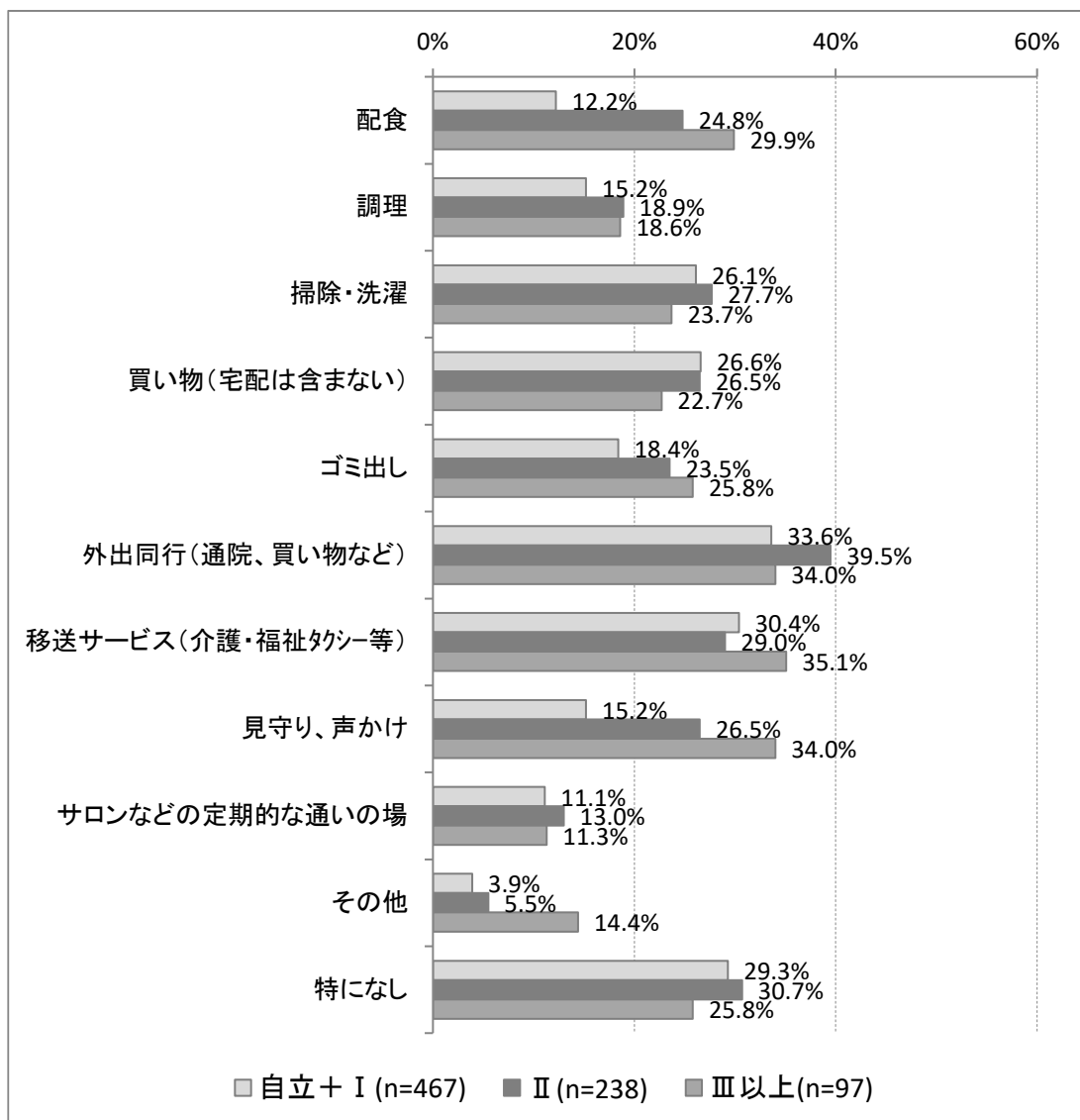


(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス

【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「外出同行（通院、買い物など）」が33.6%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が30.4%、「特になし」が29.3%となっています。「Ⅱ」では「外出同行（通院、買い物など）」が39.5%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が30.7%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が29.0%となっています。「Ⅲ以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が35.1%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」が34.0%、「配食」が29.9%となっています。

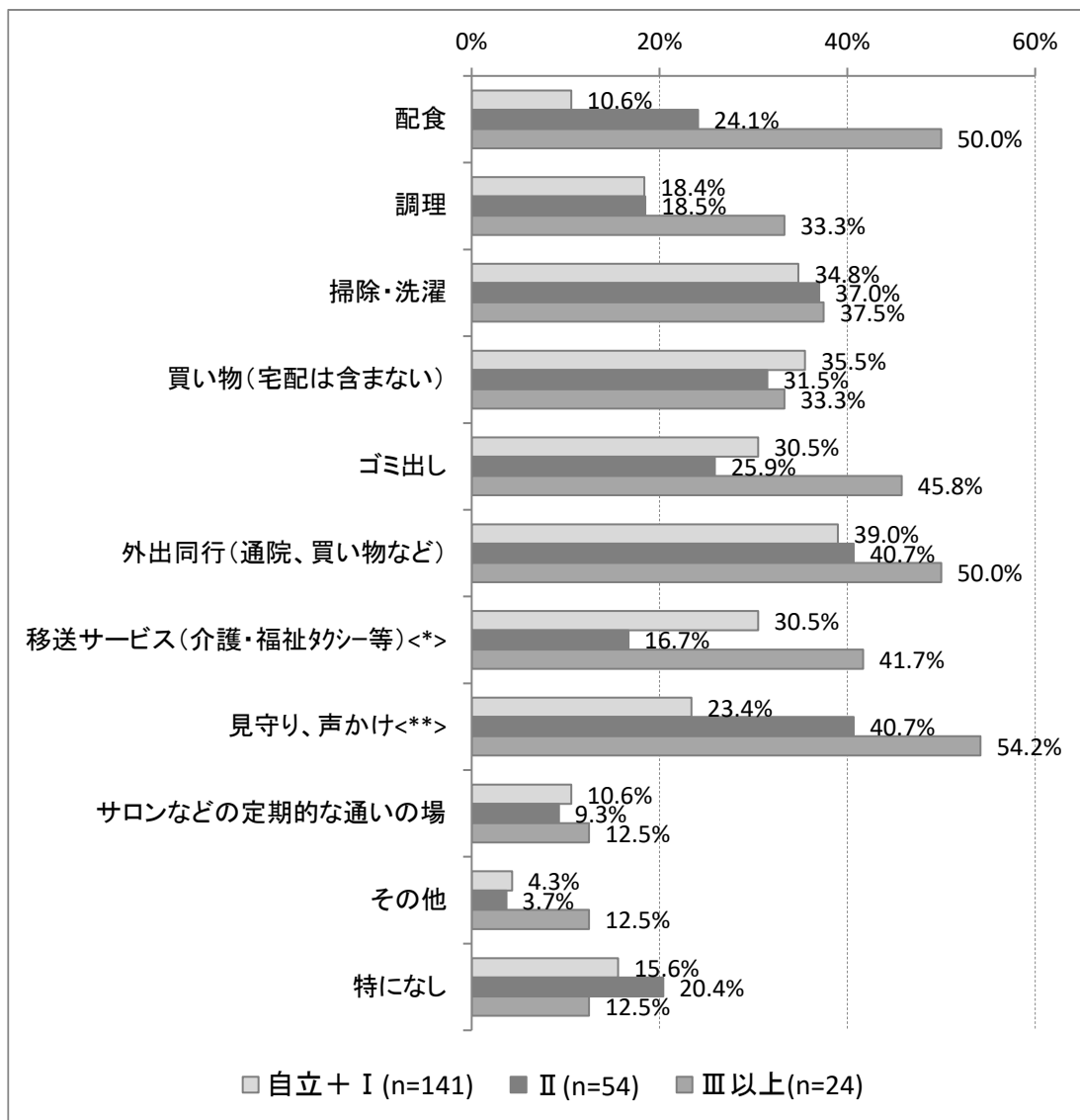
図表6-9 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「外出同行（通院、買い物など）」が39.0%と最も割合が高く、次いで「買い物（宅配は含まない）」が35.5%、「掃除・洗濯」が34.8%となっています。「Ⅱ」では「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」が40.7%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が37.0%、「買い物（宅配は含まない）」が31.5%となっています。「Ⅲ以上」では「見守り、声かけ」が54.2%と最も割合が高く、次いで「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」が50.0%、「ゴミ出し」が45.8%となっています。

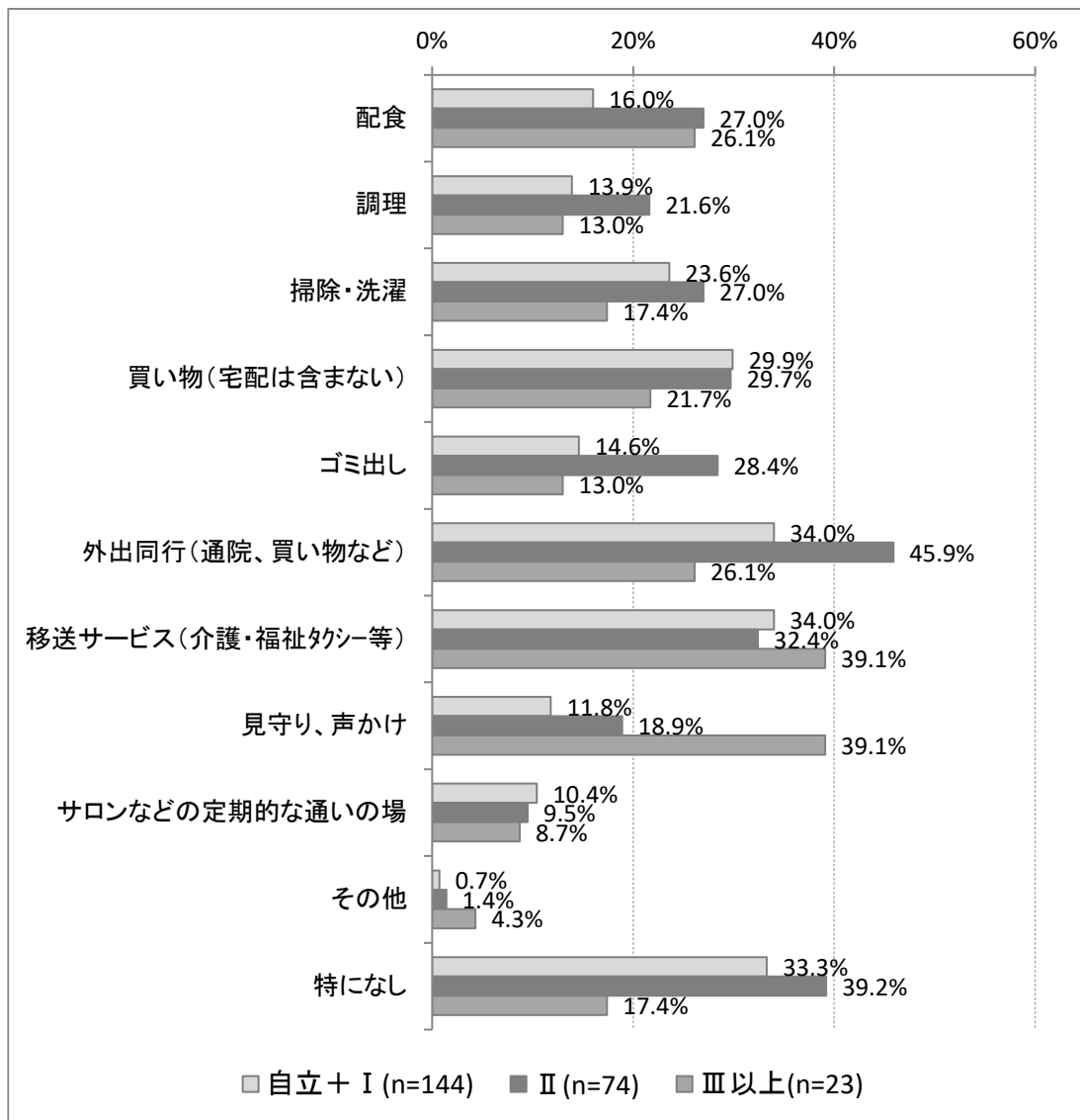
図表6-10 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が34.0%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が33.3%、「買い物（宅配は含まない）」が29.9%となっています。「Ⅱ」では「外出同行（通院、買い物など）」が45.9%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が39.2%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が32.4%となっています。「Ⅲ以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」が39.1%ともっとも割合が高く、次いで「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」が26.1%、「買い物（宅配は含まない）」が21.7%となっています。

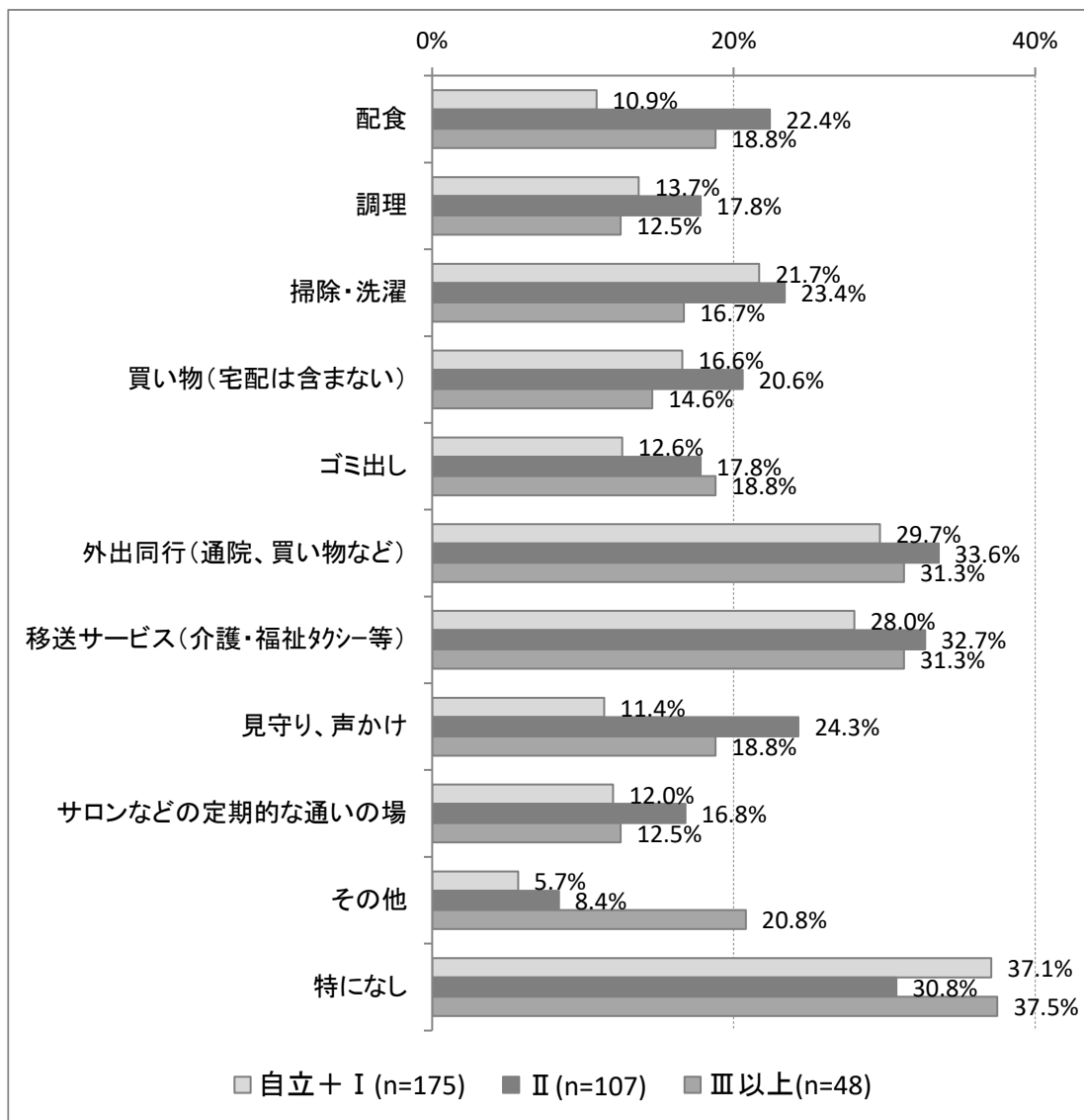
図表6-11 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「特になし」が37.1%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が29.7%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が28.0%となっています。「Ⅱ」では「外出同行（通院、買い物など）」が33.6%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が32.7%、「特になし」が30.8%となっています。「Ⅲ以上」では「特になし」が37.5%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が31.3%、「その他」が20.8%となっています。

図表6-12 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）

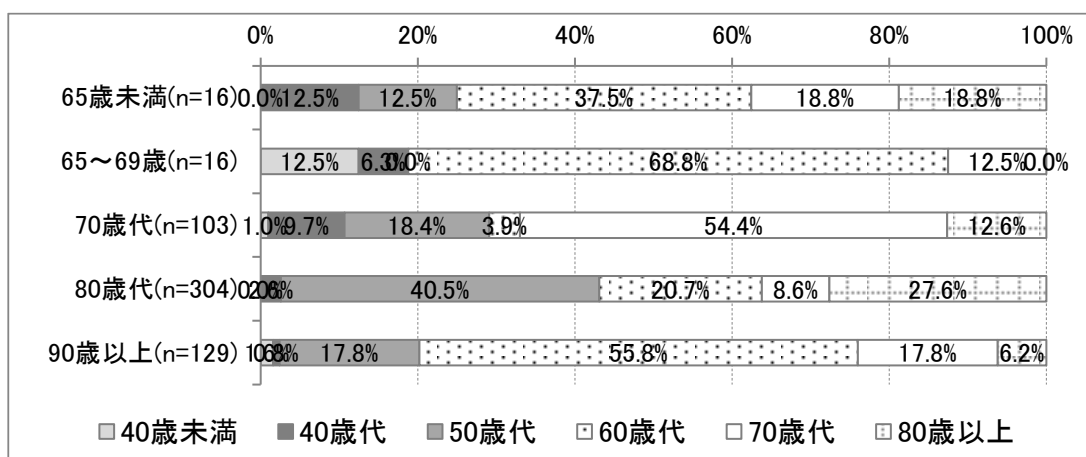


(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「65歳未満」では「60歳代」が37.5%ともっとも割合が高く、次いで「70歳代」、「80歳以上」が18.8%、「40歳代」、「50歳代」が12.5%となっています。「65～69歳」では「60歳代」が68.8%ともっとも割合が高く、次いで「40歳未満」、「70歳代」が12.5%、「40歳代」が6.3%となっています。「70歳代」では「70歳代」が54.4%ともっとも割合が高く、次いで「50歳代」が18.4%、「80歳以上」が12.6%となっています。「80歳代」では「50歳代」が40.5%ともっとも割合が高く、次いで「80歳以上」が27.6%、「60歳代」が20.7%となっています。「90歳以上」では「60歳代」が55.8%ともっとも割合が高く、次いで「50歳代」、「70歳代」が17.8%、「80歳以上」が6.2%となっています。

図表6-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢<\*\*\*>

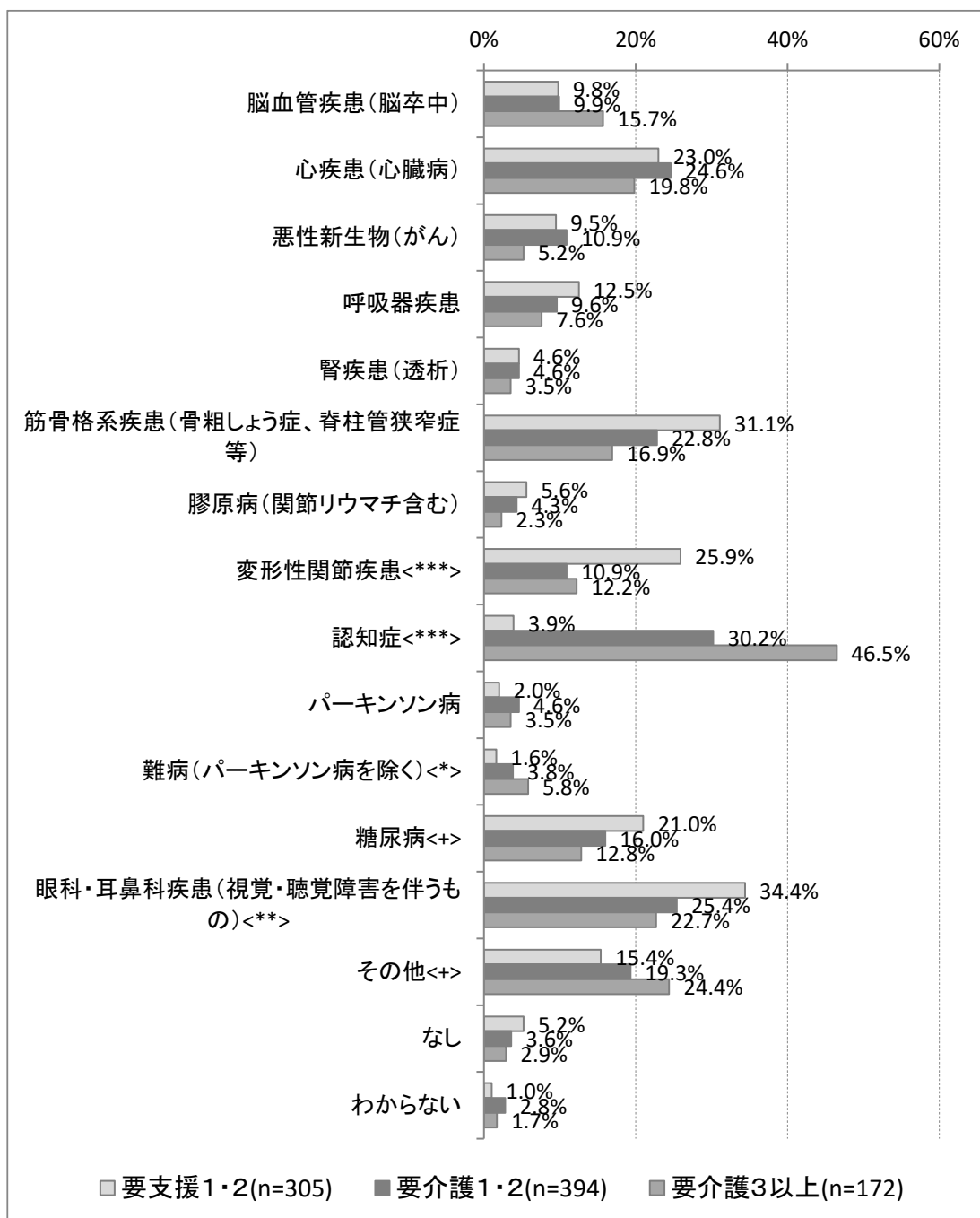


(5) 要介護度別の抱えている傷病

【要介護度別・★抱えている傷病】

抱えている傷病を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が34.4%ともっとも割合が高く、次いで「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」が31.1%、「変形性関節疾患」が25.9%となっています。「要介護1・2」では「認知症」が30.2%ともっとも割合が高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が25.4%、「心疾患(心臓病)」が24.6%となっています。「要介護3以上」では「認知症」が46.5%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が24.4%、「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が22.7%となっています。

図表6-14 要介護度別・★抱えている傷病

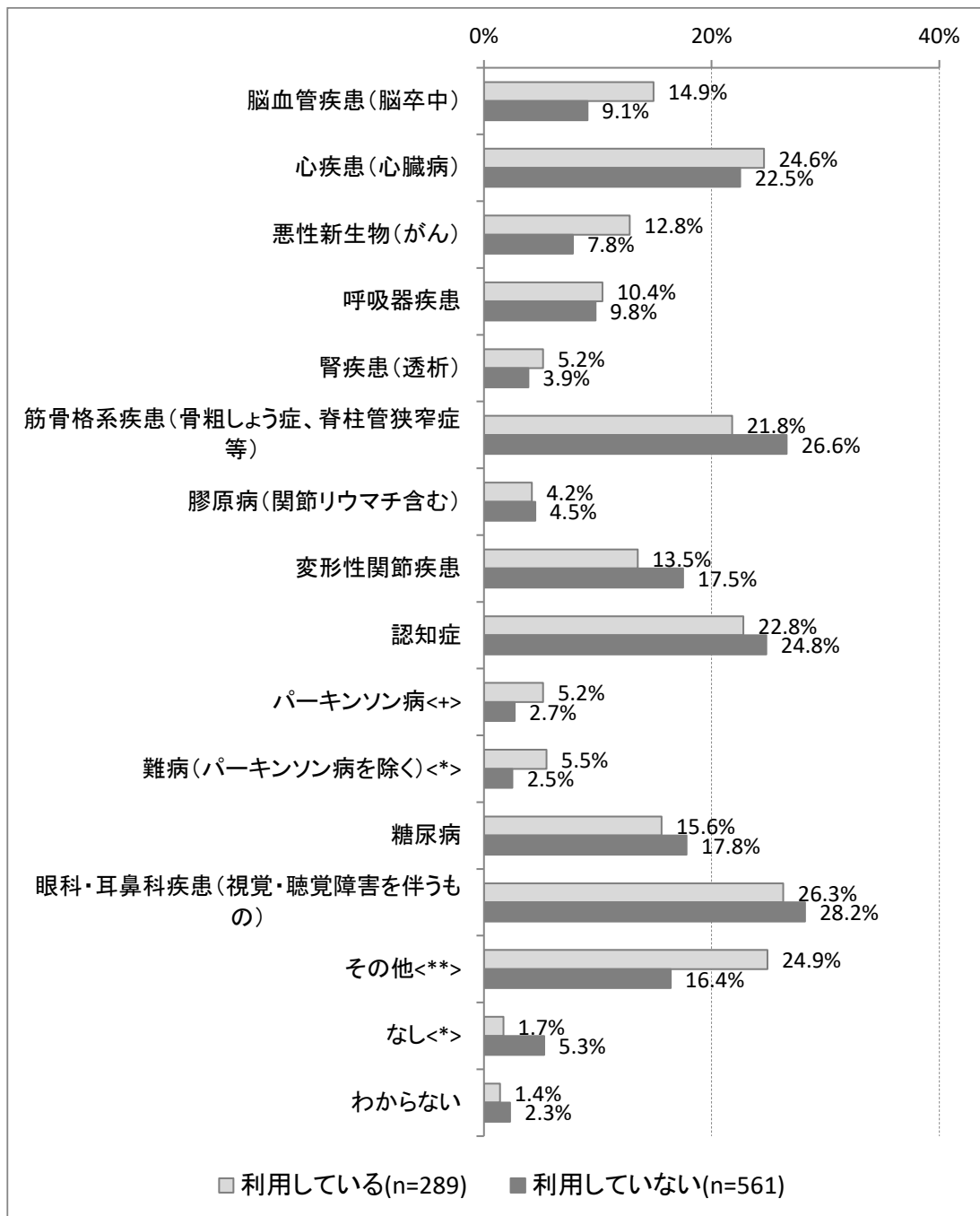


(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

【★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病】

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が26.3%と最も割合が高く、次いで「その他」が24.9%、「心疾患(心臓病)」が24.6%となっています。「利用していない」では「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が28.2%と最も割合が高く、次いで「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」が26.6%、「認知症」が24.8%となっています。

図表6-15 ★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病



## 第4章 調査結果の概要

## 1. 検討テーマと集計・分析の狙い

### 【要介護者の在宅生活の継続／介護者の就労継続】

基本的な視点	検討テーマ	集計・分析の狙い・
要介護者の在宅生活の継続	1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	○ 主に「A票-問10_施設等の検討状況」の「入所・入居は検討していない」の割合と、「B票-問5_介護者が不安になる介護」を指標としながら、サービス利用のパターンとの関係进行分析し、在宅限界点の向上を図るために必要となる取組について検討します。
介護者の就労継続	2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	○ 主に「B票-問1_介護者の就労状況」と「B票-問4_介護者の就労継続の可否に係る意識」を指標としながら、介護状況やサービス利用のパターンとの関係进行分析し、介護者の就労継続のために必要となる取組について検討します。

### 【支援・サービスの提供体制の検討】

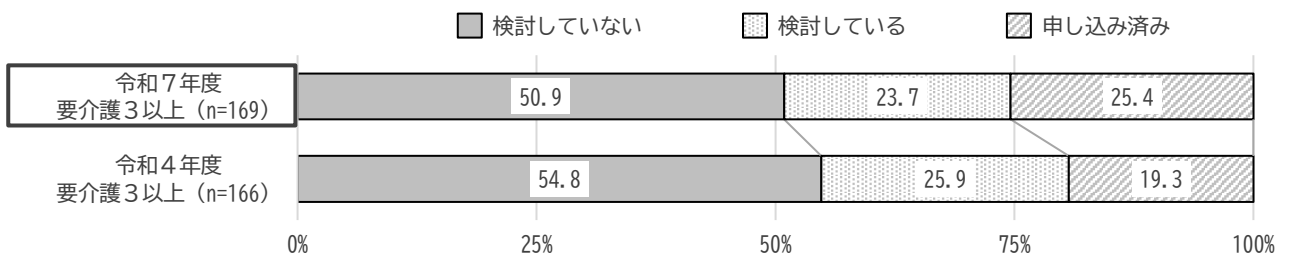
用語	定義
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	○ 主に「A票-問9_今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、世帯類型別・要介護度別のニーズを集計・分析し、整備が必要となる地域資源を検討します。
4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	○ 主に「A票-問1_世帯類型」について、世帯類型別のサービス利用のパターンを集計・分析し、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制について検討します。
5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	○ 主に「A票-問12_訪問診療の利用の有無」について、訪問診療の利用の有無別のサービス利用のパターンを集計・分析し、医療ニーズのある在宅療養者を支えるための支援・サービスの提供体制について検討します。
6 サービス未利用の理由など	○ 上記以外の、地域での検討に有用と考えられる事項について検討するための基礎集計です。

## 2. まとめ

### (1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

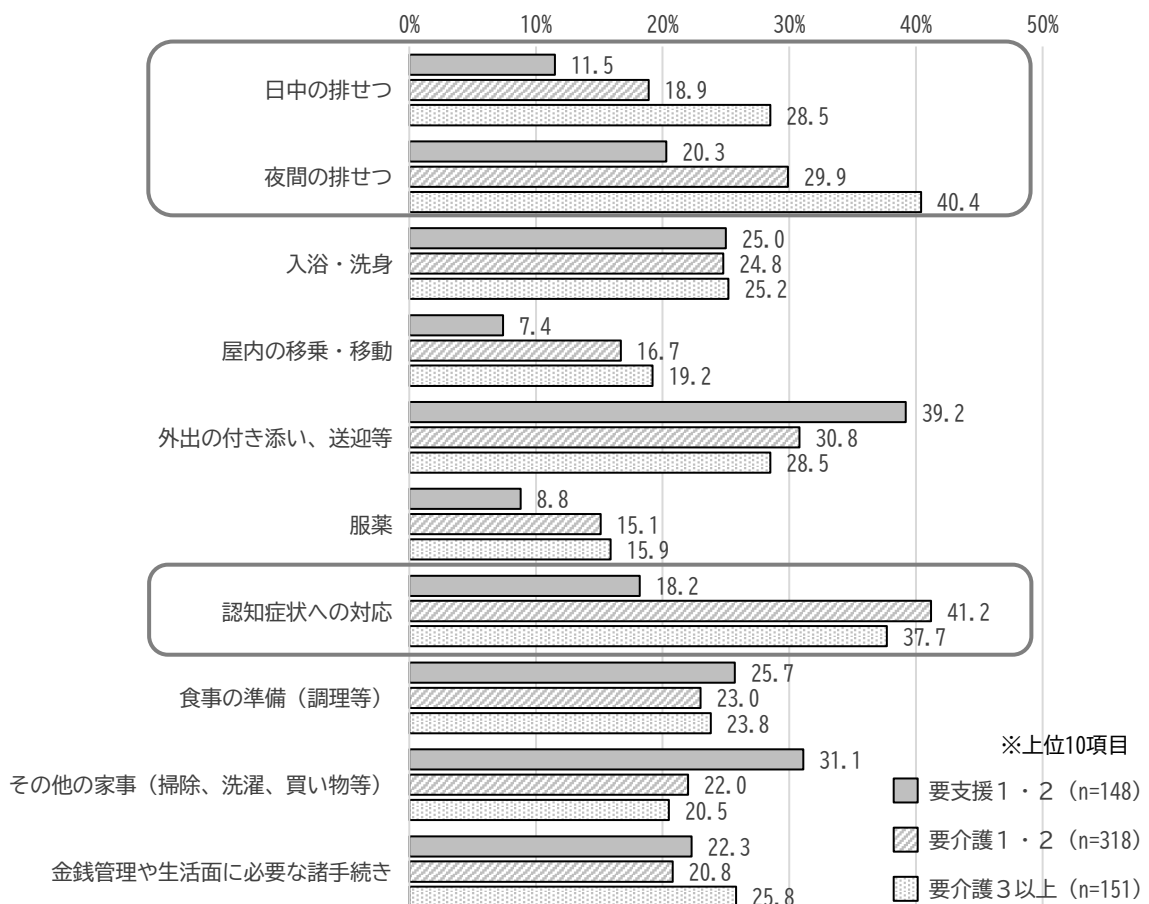
#### <要介護3以上の人のうち約5割の人が在宅生活の継続を希望>

要介護3以上の認定を受けている方のうち入所・入居を「検討していない」と「検討をしている」あるいは「申し込み済み」の人の割合は半々となっており、現時点では約5割の人が在宅生活の継続を希望していると推察されます。一方で、要介護3以上の「申し込み済み」の人は前回調査時から増加しています。



#### <主な介護者が不安を感じる介護は、要介護3以上では「排泄」と「認知症状への対応」>

主な介護者の方が不安を感じる介護について、要介護3以上では特に「日中の排泄」「夜間の排泄」「認知症状への対応」に多くの人が不安を感じています。これらに係る介護不安をいかに軽減していくかが、在宅生活継続のポイントになると考えられます。



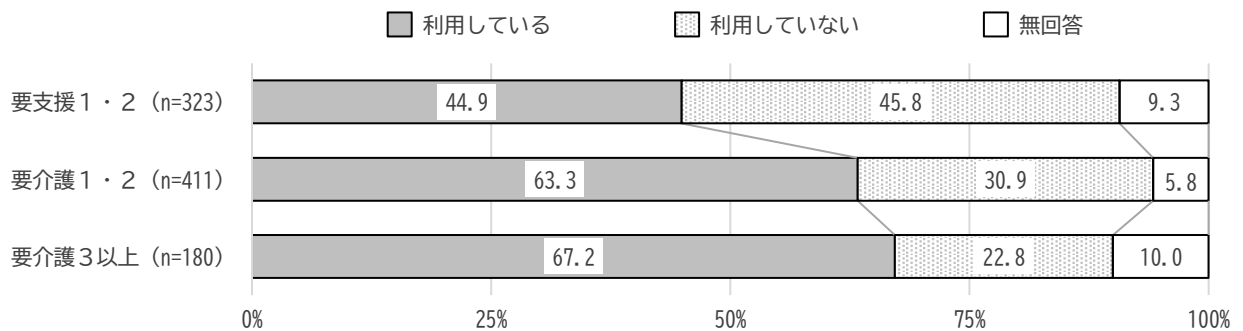
## 第4章 調査結果の概要

サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護の関係をみると、要介護3以上では訪問系サービス15回以上の利用で「日中の排泄」、短期系サービス10回以上の利用で「認知症状への対応」の不安が軽減する傾向がみられました。また、認知症自立度Ⅲ以上では、訪問系と短期系サービスの利用回数増加が介護者の「認知症状への対応」に係る不安を軽減する傾向がみられました。

### (2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

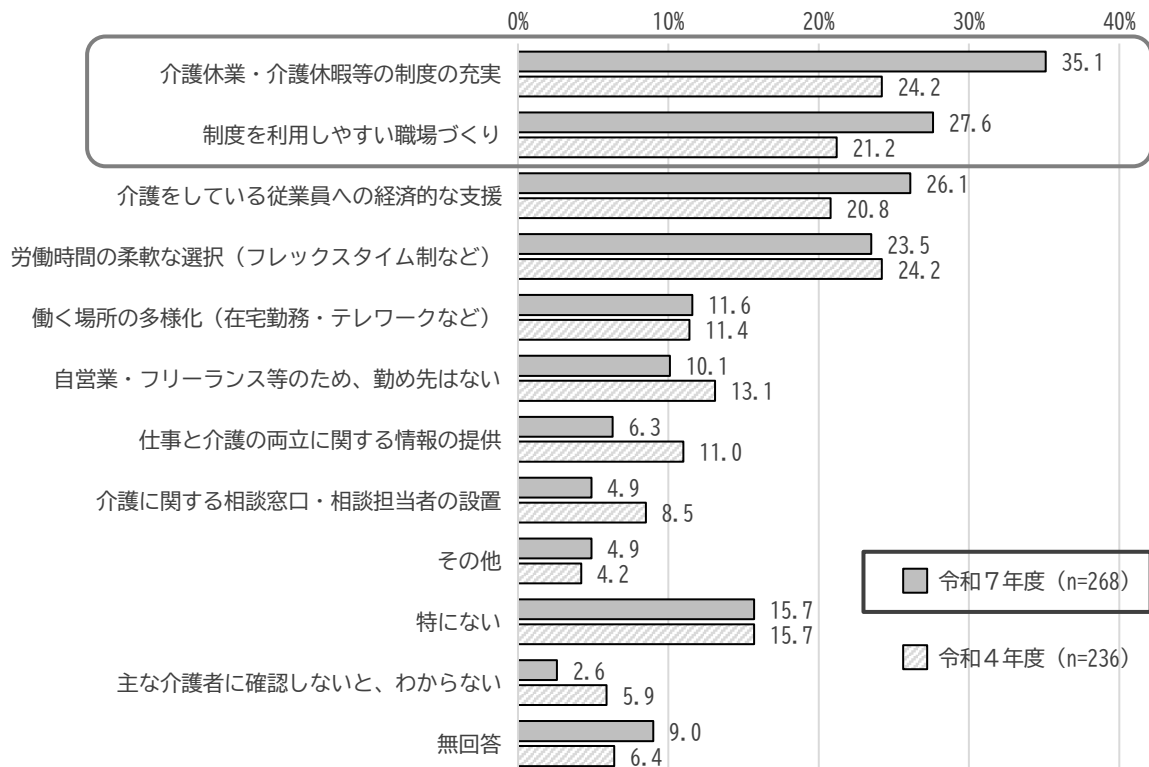
要支援1・2の認定を受けている人のうち介護保険サービスを利用している人は4割を超えており、要介護1・2では約6割を超え、要介護3以上では7割弱となっています。

(※住宅改修、福祉用具貸与・購入は除く)



### <仕事と介護の両立に「介護休業・介護休暇等の制度の充実」がさらに求められている>

仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援として、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が増加し3割を超えるとともに、そうした「制度を利用しやすい職場づくり」も増加し約3割となっています。



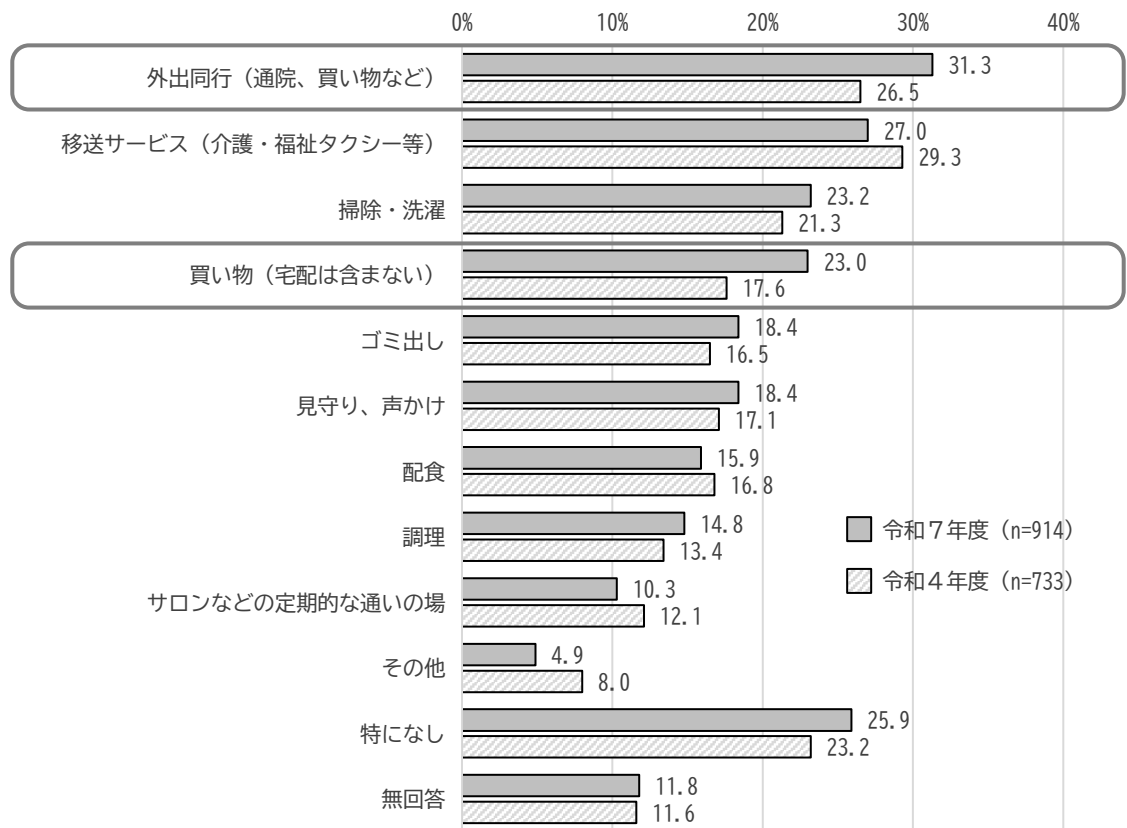
<仕事と介護の両立に向けて>

これらのことから、訪問系サービスを含む組み合わせサービスの利用と、職場での介護休業・介護休暇等の制度の充実、またそれらの制度等を気兼ねなく行うことのできる職場づくりにより、介護をしながら就労を継続できる可能性が高まると考えられます。

(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

<外出に関する支援・サービスニーズが高い傾向>

今後の在宅生活の継続には「外出同行(通院・買い物など)」「買い物(宅配は含まない)」など、外出に関する支援・サービスが必要だと感じる人が増えています。



(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

<要介護度の重度化に伴いすべての世帯類型で「訪問系を含む組み合わせ」が増加>

要介護度の重度化に伴い、すべての世帯類型で「訪問系を含む組み合わせ」が増加する傾向がみられます。また、単身世帯では他の世帯類型に比べて訪問系サービスの利用割合が多く、夫婦のみ世帯、その他世帯では、通所系・短期系サービスの利用者が多くなっています。

### <要介護3以上の人の「入所・入居の可能性ある」割合は「単身世帯」で約6割>

施設等検討の状況について、「検討中」「申請済み」を合わせた入所・入居の可能性ある人は、要介護3以上の単身世帯で約6割、夫婦のみ世帯で4割を超え、その他世帯で約4割となっています。いずれの世帯でも要介護度の重度化に伴い、入所・入居の可能性ある人の割合が増加しています。

### (5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

#### <「訪問診療」の利用割合は要介護5で約8割と高い>

要介護度別の訪問診療の利用割合をみると、要介護度の重度化に伴い訪問診療の利用割合が増加する傾向がみられます。具体的には、要支援1では約1割である訪問診療の利用割合が、要介護1では約3割、要介護3では約6割、要介護5では約8割となっています。重度な要介護者における在宅医療の重要性が示唆されます。

#### <「訪問診療を利用している」ケースでは、短期系の利用割合が低い>

「訪問診療あり」では、訪問系の利用割合が約9割と多く、一方で、短期系の利用割合は1割を超える程度と少なくなっています。

### (6) サービス未利用の理由など

要介護度別のサービス未利用の理由をみると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が要支援1・2と要介護1・2では最も多く、それぞれ約7割、約5割となっています。要介護3以上では、「家族が介護をするため必要ない」が3割を超えて最も多くなっています。

## 卷末資料 調查票

